

人口問題研究所

研究資料第127号

昭和33年11月1日

# 工業国における出産力の分析

(第2分冊)

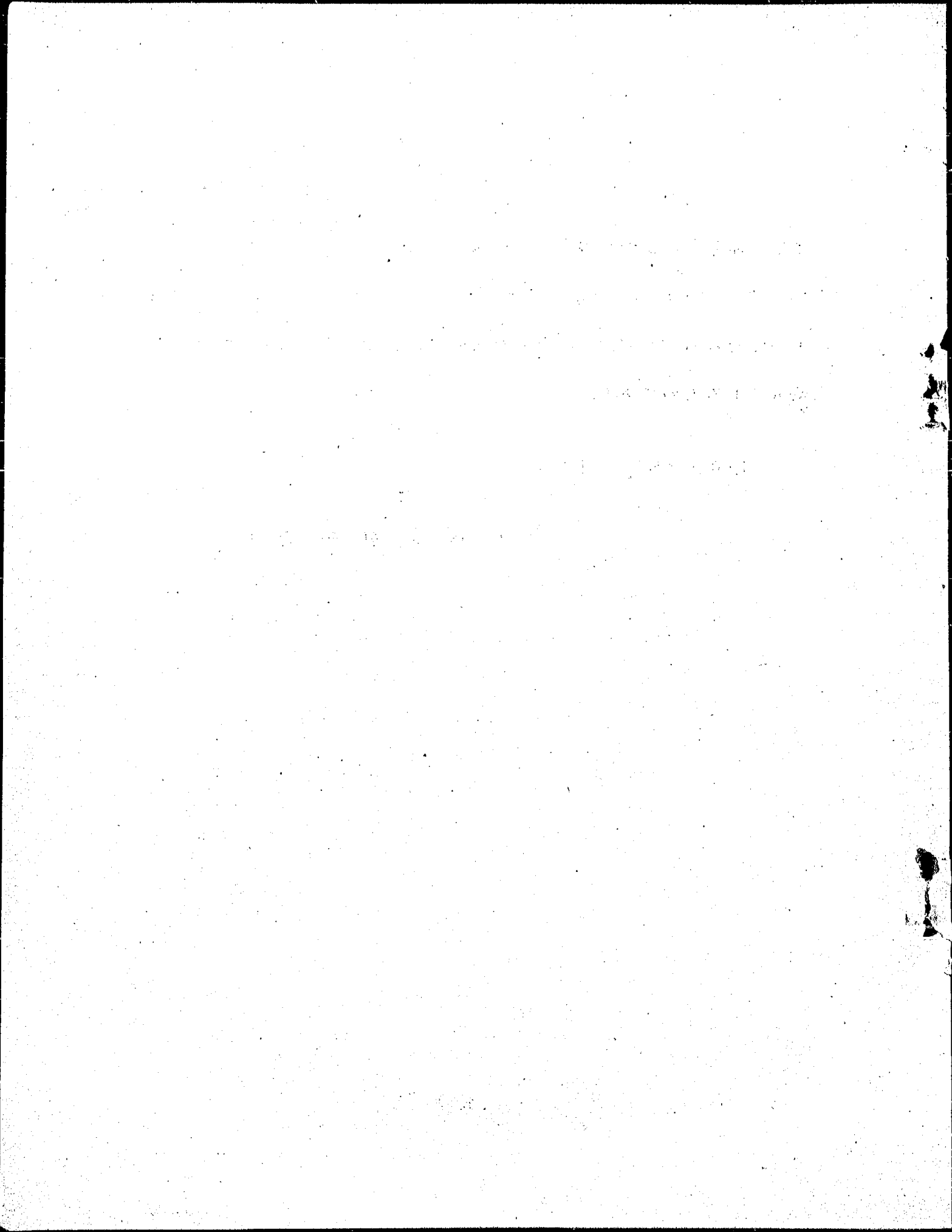
厚生省人口問題研究所

は し が き

本集は前分冊にひきつづき Recent Trends in Fertility in Industrialized Countries, U, N, 1958 によつてその内容を批評的紹介したもので、おなじく黒田俊夫技官の担当執筆によるものである。

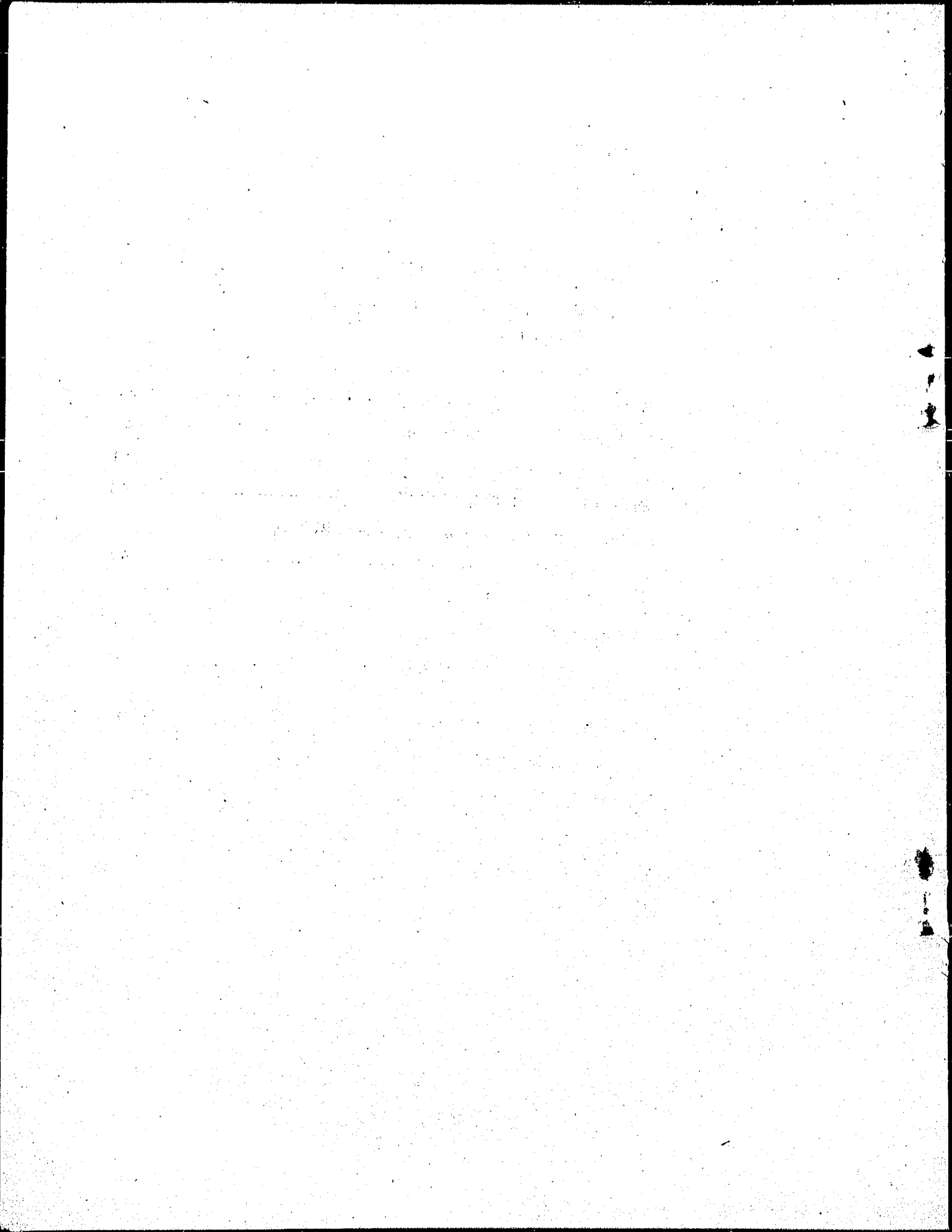
昭和 33 年 11 月 1 日

人 口 問 題 研 究 所



才 2 分 冊 目 次

VI	センサスによる出生力の分析 .....	5
1	再生産期間経過結婚コーホートにおける 家族の平均的大きさ .....	7
2	再生産期間末経過結婚コーホートにおけ る家族の大きさ .....	22
VII	動態統計による出生力の分析 .....	31
1	結婚の「粗」出生力と「純」出生力 .....	31
2	結婚コーホートの年出生率 .....	33
3	結婚コーホートの家族の大きさの累年増 加 .....	43
4	家族の平均的大きさ .....	54
5	パリティ別家族形成 .....	57
6	家族の大きさの増加確率 .....	60
7	無子結婚コーホートの動向 .....	67
VIII	出生コーホートの出生力 .....	73
1	母の年齢別特殊出生率 .....	74
2	パリティ別家族形成 .....	84
IX	若干の問題点 .....	9



## Ⅴ センサスによる出生力の分析

センサス data の出生力分析はわが国ではあまり行われていない。しかし、センサスにおいては、動態統計からは得がたい出生力分析のための data がえられる。

一般的にいつて Census data からの出生力分析の特徴は、動態事件（この場合はもちろん生であるが）に関連の有無にかかわらず、すべての個人、家族についての情報がえられること、(2)その結果として女子の生涯における総出生数、すなわち完成家族の大きさの時間的变化に関する情報がえられる、(3)センサス間における未完成家族の変化、すなわち結婚持続期間別や年齢別の女子の出生数の時期的変化を研究することができる。

こういった出生力の研究において対象となる女子は、結婚年次（或は結婚持続期間）または出生年次（センサス時における年齢）のいずれかによつて把握される。前者は結婚コーホートであり、後者は出生コーホートと呼ばれる。

ここでは結婚コーホートを中心に、資料の利用しうる限り多くの国について分析が行われている。

出生児（除死産）の平均数、すなわち家族の大きさの平均について基本的 data は次表の通りである。（p 60）

表 1 結婚持続期間センサス時における既婚者 100 に  
対する出生児数（除死産）

国 別	センサス 年 次	結 婚 後 経 過 年 齢									
		0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45以上
濠洲 <sup>a</sup>	1947	66	164	225	271	297	326	361	408	454	524
ベルギー <sup>b</sup>	1930	72	150	198	...	...	...	...	...	...	...
	1947	69	146	182	...	...	...	...	...	...	...
フィンランド	1950	106	210	274	320	348	376	425	480	540	599
フランス <sup>c</sup>	1946	84	169*	211*	231*	231*	---	265*	---	---	---
ドイツ <sup>d</sup>	1933	74	150	207	249	311**	---	425**	---	---	---
	1939	75	155	197	225	264**	---	395**	---	---	---
	1950	73	137	178	214	223	224	280	---	---	---

国別	スウェーデン 年次	結婚後経過年数									
		0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45以上
イギリス <sup>e</sup>	1946	57	134	182	209	234	259	288	353***		***
アイルランド	1946	101	251	349	409	444	473	491	529	578	630
オランダ <sup>f</sup>	1930	...	...	...	...	520	577	621	661	698	742
	1947	72	200	275	322	346	378	418	458	...	...
ノルウェー <sup>g</sup>	1930	88	205	295	376	444	490	---	545		---
	1946	82	167	211	244	284	335	---	469		---
	1950	81	174	217	240	259	296	---	430		---
スイス <sup>h</sup>	1941	67	158	208	245	280	321	348	388	436	487
	1950	81	182	221	237	247	265	296	334	360	420
アメリカ <sup>i</sup>											
(全年齢)	1940	63	114	155	191	218	236	250	304	363	467
(50以下)	1940	63	114	181	250	---	374	---	...	...	...
(50以下)	1950	79	168	220	253	---	300	---	...	...	...

備考

- a 法的であるとないとを問わず永久に別居している夫婦を除く
- b 1947: 死別した夫または妻が長となつている家庭を含む。但し離婚者は除く。
- c 初婚者のみ。45才以上で妻が死別あるいは離別しているばあいをふくむ。妻の全出生児(死産を除く、但し結婚前に生れた子供をふくむ)。
- d 死産をふくむ。1950年はベルリンを除く(ドイツ連邦共和国)で、夫が行方不明あるいは捕虜である妻は除外。
- e 初婚者のみ。45才以上で結婚した妻の場合は除外。妻が45才で死別したり離別した場合はふくむ。全出生児(死産を除くが、結婚前生れた子供はふくまれる)。無子の過少報告について調整。
- f 1947は初婚者のみ。
- g 妻が45才以上で結婚しているばあいは除外。
- h すべての嫡出子及び庶子(除死産)
- i 全出生児(除死産、しかし結婚前出生児をふくむ)。

1940年才1欄は有配偶の白人の妻

1940年才2欄はセンサス時において15—49才の有配偶の白人の妻

1950年は白人初婚の妻で夫が現存する15—49才の夫婦。

” 結婚持続期間が6—10、11—15、16—20、21—25、26以上

” ” 持続期間が21—25と26才以上

” ” ” 持続期間が36—45才

すでに前にも述べた如く、sensus data からのmarriage cohortの出生力分析においては、再生産期間を完了したmarriage cohortのfamily sizeの分析と、なお再生産期間を完了していないmarriage cohortのfamily sizeの分析を行うことができる。しかし、特に後者の場合については2回以上の比較しうるsensus dataが多いとその意義は少い。

再生産完了のmarriage cohortによる分析の重大欠陥は、その性質上最近におけるその人口集団の再生産に対する態度を表現しまいということである。このような家族形成態度といったものについては、再生産期間経過のコーホートにおいてみられる。もつともこの場合においてもごく最近の動向が反映されるにすぎないが。

まず、再生産期間完了のmarriage cohortにおけるfamily sizeについての分析結果についてのべてみよう。

#### 1 再生産期間経過結婚コーホートにおける家族の平均的大きさ

ここで再生産期間完了の結婚コーホートというのは、結婚後20年以上経過したものをもつて、この範囲のコーホートと仮定されている。従つて厳密にいうとこの規定は不確実である。たとえば、15才ないし19才で結婚すると、結婚後20年というとなお35才ないし39才であつて十分に再生産能力をもつていることになる。しかし、多くの場合、このような早婚は比較的少いケースであることはいうまでもない。

しかし、このような仮説から予想される誤差は結婚年齢の著しい人口で大きく、晩婚的な人口では少いことはいうまでもない。



表1によつて出生力の長期的低下の傾向を2箇の方法で観察することができる。

才1は、個々の各センサスの数字から結婚後20年以上のcohortの平均子供数を比較する方法であり、才2は2箇以上のセンサスが示されている場合における比較方法である。

才1の方法についてみよう。結婚後20—24年経過のコーホートをそれ以前に結婚したコーホート、たとえば結婚後35—44年あるいは40—44年経過したコーホートの家族の大きさを比較してみると結婚後20—25年のmarriage cohortsの方が著しく少ない平均子供数を示している。

このような結婚期間の比較を行うことのできる戦後センサスを行つた国としては表1では、オーストラリア、フィンランド、イギリス、アイルランド、オランダ(1947年)、スイスの6ヶ国をあげることができる。

このように1つのセンサスから、ほぼ完成家族をみることのできるcohortについて、センサス時の完成家族をそれより約20年前の完成家族を比較してその大きさの変化をみることができ、上記6ヶ国のうちアイルランドは例外としてその他の諸国全体としてみるとその大きさは約 $\frac{1}{3}$ ないしそれ以上の縮少をきたしていることが理解できる。アイルランドの場合は約23%の縮少にすぎない。

才2の方法において2個以上のセンサスによつて比較可能な20年以上の持続期間のコーホートについて比較してみると平均子供数は全般に後年次のセンサスにおいて小さくなつている。ノールウェーの場合は、1930年から3回のセンサスが示されているから、1900年から1930年の間に結婚したすべてのcohortについての平均完成家族の比較を行うことができる。たとえば、結婚後20—24年経過のcohortのみについてみると、1930年では444であつたが、1950年では259と減少しており、その低下率は約42%に達しており、同じく結婚後25—29年のcohortでは同期間に約40%、また30年以上のcohortでは同期間に約20%の低下率を示している。いいかえると、完成家族と

みなされる結婚持続20年以上のいずれにおいても、後のcensusにおけるほど、平均子供数は減少しており、かつ古い結婚cohortほど低下率は少くなっているということである。

そこで次に再生産力を完成した結婚コホートのもつ平均子供数が次第に減少するに至った原因が問題であるが、それには2個の理由が考えられる。才1は、無子夫婦の割合の増大であり、才2は再生産力をもつた夫婦（ここでは少くとも1人の子供をもつた妻）の平均子供数の縮小傾向である。この点についてのべてみよう。

(1) 無子と再生産可能夫婦の家族の大きさ

この2点の要因のもつウエイトを示すと次表の通りである（p62）

表2 センサス時における夫婦100組当りの生産数、  
無子夫婦の割合及び再生産力可能夫婦100人  
当りの生産数（生産期間終了の結婚コホー  
トについて）

国名	センサス年次	結婚年次	結婚持続期間	夫婦100当生産数	無子夫婦の百分比	再生産可能夫婦100当生産数
オーストラリア*	1947	1922-26	20-24	297	4.6	...
		1917-21	25-29	326	3.8	...
		1912-16	30-34	361	3.1	...
		1907-11	35-39	408	2.4	...
		1902-06	40-44	454	2.1	...
フィンランド*	1950	1926-30	20-24	348	7.4	376
		1921-25	25-29	376	6.8	403
		1916-20	30-34	425	5.8	451
		1911-15	35-39	480	4.5	602
		1906-10	40-44	540	3.7	561
フランス*	1946	1920-24	21-25	244	14.9	257
		1919以前	26以上	276	11.6	300
ドイツ*	1950	1926-30	20-24	223	17.1	269
		1921-25	25-29	224	17.5	271
		1920以前	30以上	280	17.1	338
イギリス* (グレートブリテン)	1946	1921-25	20-24	234	15.3	278
		1916-20	25-29	259	14.7	304
		1911-15	30-34	288	12.7	336
		1900-09	35-45	353	10.2	292

国名	センサス年次	結婚年次	結婚持続期間	夫婦100当生産数	無子夫婦の百分比	再生産可能夫婦100当り生産数	
アイルランド	1946	1921-25	20-24	444	13.6	513	
	1916-	1916-20	25-29	473	12.4	540	
		1911-15	30-34	491	11.5	555	
		1906-10	35-39	529	10.0	588	
		1901-05	40-45	578	8.7	635	
オランダ*	1947	1922-26	20-24	346	10.5	387	
		1917-21	25-29	378	7.0	415	
		1912-16	30-34	418	8.1	455	
		1908-11	35-38	458	7.6	496	
ノールウェー*	1950	1926-30	20-24	259	11.7	294	
		1921-25	25-29	296	10.3	331	
	1930	1906-10	20-24	444	8.4	485	
		1901-05	25-29	490	7.5	530	
		1898-1900	30-32	521	7.0	560	
スイス*	1950	1926-30	20-24	247	17.7	299	
		1921-25	25-29	265	15.5	313	
	1941	1917-21	20-24	280	15.2	330	
		1912-16	25-29	321	12.3	366	
		1907-11	30-34	348	10.5	389	
		1902-06	35-39	388	8.7	425	
1897-1901	40-44	436	7.4	471			
アメリカ*	(50以下の妻)	1950	1916-30	20以上	292	11.2	331
	(50以下の妻)	1940	1906-20	20以上	340	9.3	375
	(全年齢の妻)	1940	1916-20	20-24	218	12.6	249
			1911-15	25-29	236	12.1	269
			1906-10	30-34	250	12.5	286
			1901-05	35-39	304	11.1	342
			1898-1900	40-44	363	10.2	404

備考 \*については表1参照。

センサスからの利用しうる結婚コーホートのdataは1900年頃からであるが、この時以来生涯子供のない夫婦の割合は堅実に増加していることが表2によつてあきらかにされている。この傾向は、再生産終了の新しいコーホートに引続きみられる。しかしこの無子夫婦の割合の

増加傾向や水準は国によつて著しい差がみられる。たとえば、フィンランドでは今世紀の10年代初期に結婚したコーホートの無子率は3.7であるのに対し20年後に結婚したコーホートとでは7.4と倍加しており、またドイツ、スイスでは17%という高水準の無子率であるのに対してオーストラリアでは4%台というような差がみられる。

もつともこのような無子率については国による統計上の誤差を考慮に入れなければならない。

無子率は上述のように一般的にいつて増加してきてはいるが、その出生数に及ぼす影響は比較的僅少である。無子率水準が高くてかつ増加率の高いスイスにおいてさえも、再生産可能夫婦の家族の大きさと無子夫婦をふくむ全夫婦の家族の大きさとの間にはそんな著しい差はみられない。

## 2 家族の大きさに対する結婚年齢の影響

結婚年齢の変化が終局における家族の大きさに影響を与えることはいうまでもない。

この関係をみるために、5ヶ国について再生産終了の夫婦の家族の平均的大きさを、結婚年齢別に示すと表3の通りである。(p 65)。

表3 センサス時における夫婦1000の結婚年齢別出生産数  
(再生産終了の結婚コホート)

国名	センサス年次	結婚年次	結婚持続期間(年)	(I) 全夫婦結婚年齢(年)					(II) 再生産可能夫婦結婚年齢(年)					
				20 未 婚	20- 24	25- 29	30- 34	35- 39	20 未 婚	20- 24	25- 29	30- 34	35- 39	
オーストラリア <sup>a</sup>	1947	1922-26	20-24	397	316	261	216	144	...	...	...	...	...	...
		1917-21	25-29	453	349	289	241	165	...	...	...	...	...	...
		1912-16	30-34	469	382	317	260	171	...	...	...	...	...	...
		1907-11	35-39	523	429	348	283	188	...	...	...	...	...	...
		1902-06	40-44	574	467	383	312	210	...	...	...	...	...	...

国名	センサス 年次	結婚年次	結婚持続 期間	(イ) 全夫婦結婚年齢(年)					(ロ) 厚生産可能夫婦結婚年齢(年)				
				20- 未満	20- 24	25- 29	30- 34	35- 39	20- 未満	20- 24	25- 29	30- 34	35- 39
イギリス a	1946	1920-24	21-25	374	273	193	150	88	389	298	232	209	172
		1915-19	26-30	400	298	214	167	101	420	325	253	226	190
		1910-14	31-35	458	337	239	183	107	475	363	277	240	187
アイอร์แลนด์ b	1946	1900-09	36-45	520	384	273	207	127	541	413	313	265	206
		1921-25	20-24	650	562	439	319	183	675	599	486	384	273
		1916-20	25-29	681	587	465	339	218	711	624	514	405	296
オランダ c	1947	1911-15	30-34	694	608	493	385	242	731	650	542	443	316
		1906-10	35-39	742	638	524	405	274	776	686	574	459	340
		1901-05	40-45	737	672	553	432	321	788	720	603	482	382
ノールウェー	1950	1924-28	19-23	425	370	324	254	153	436	395	369	325	248
		1919-23	24-28	472	398	338	278	174	484	423	380	341	259
		1911-18	29-33	536	440	370	305	196	549	464	410	360	275
1946	1926-30	20-24	20-24	356	304	240	190	129	363	320	273	241	197
		1921-25	25-29	392	333	275	226	150	400	351	311	276	219
		1916-20	26-30	422	384	330	262	181	436	403	361	308	245
1930	1914-15	31-32	31-32	488	429	365	290	191	500	451	399	338	258
		1906-10	20-24	575	512	420	308	196	588	537	455	360	262
1901-05	25-29	664	563	453	327	209	680	588	490	374	262	262	

備考 a 法的であるか否かを問わず、永久に離別している夫婦を除く  
b 初婚者のみ。4.5才以上の寡婦、離別の妻をふくむ全生産数（結婚前の出生児をふくむ）  
c 初婚者のみ

表4 センサス時における女子の結婚年齢別夫婦100当りの生産数指数  
 (再生産期終了の結婚コーナーホートについて) 最近のコーナーホートの割合 = 100

国名	センサス年次	結婚年次	結婚持続期間	(I) 全夫婦結婚年齢(年)					(II) 再生産可能夫婦のみの結婚年齢(年)						
				20-未済	20-24	25-29	30-34	35-39	20-未済	20-24	25-29	30-34	35-39		
オーストラリア	1947	1922-26	20-24	100	100	100	100	100	...	...	...	...	...	...	...
		1917-21	25-29	110	110	111	112	113	...	...	...	...	...	...	...
		1912-16	30-34	118	121	121	120	119	...	...	...	...	...	...	...
		1907-11	35-39	132	136	133	131	131	...	...	...	...	...	...	...
		1902-06	40-44	145	148	147	144	146	...	...	...	...	...	...	...
イギリス (グレートブリテン)	1946	1920-24	21-25	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		1915-19	26-30	107	109	111	111	115	108	109	109	109	108	110	110
		1910-14	31-35	122	123	124	122	122	122	122	122	119	115	109	109
		1900-09	36-45	139	141	141	138	144	139	139	139	135	127	120	120
		1921-25	20-24	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
オランダ*	1947	1916-20	25-29	105	104	106	106	119	105	104	106	105	108	108	
		1911-15	30-34	107	108	112	121	132	108	109	112	115	113	113	
		1906-10	35-39	114	114	119	127	150	115	115	118	120	125	125	
		1901-05	40-44	113	120	126	135	175	117	120	124	126	140	140	
		1924-28	19-23	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
ノールウェー*	1950	1914-18	29-33	126	119	114	120	128	126	117	111	111	111	111	
		1916-20	20-24	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	
		1914-15	25-29	110	110	115	119	116	110	110	114	115	111	111	
		1916-20	26-30	119	126	138	138	140	120	126	132	128	124	124	
		1914-15	31-23	137	141	152	153	148	158	141	146	140	131	131	

国名	センサス年次	結婚年次	結婚持続期間	(I) 全夫婦の結婚年齢(年)										(II) 再生産可能夫婦のみの結婚年齢(年)				
				20	20-24	25	25-29	30	30-34	35	35-39	20	25	30	35			
				未満	24	29	29	34	39	39	未済	24	29	34	39			
ノールウェイ	1930	1906-10	20-24	162	168	175	162	162	152	162	162	162	167	149	133			
		1901-05	25-29	187	185	189	172	162	187	184	179	155	133					
		1900以前	30以上	209	212	216	197	190	212	210	203	173	152					

備考 \* については表1の備考参照。

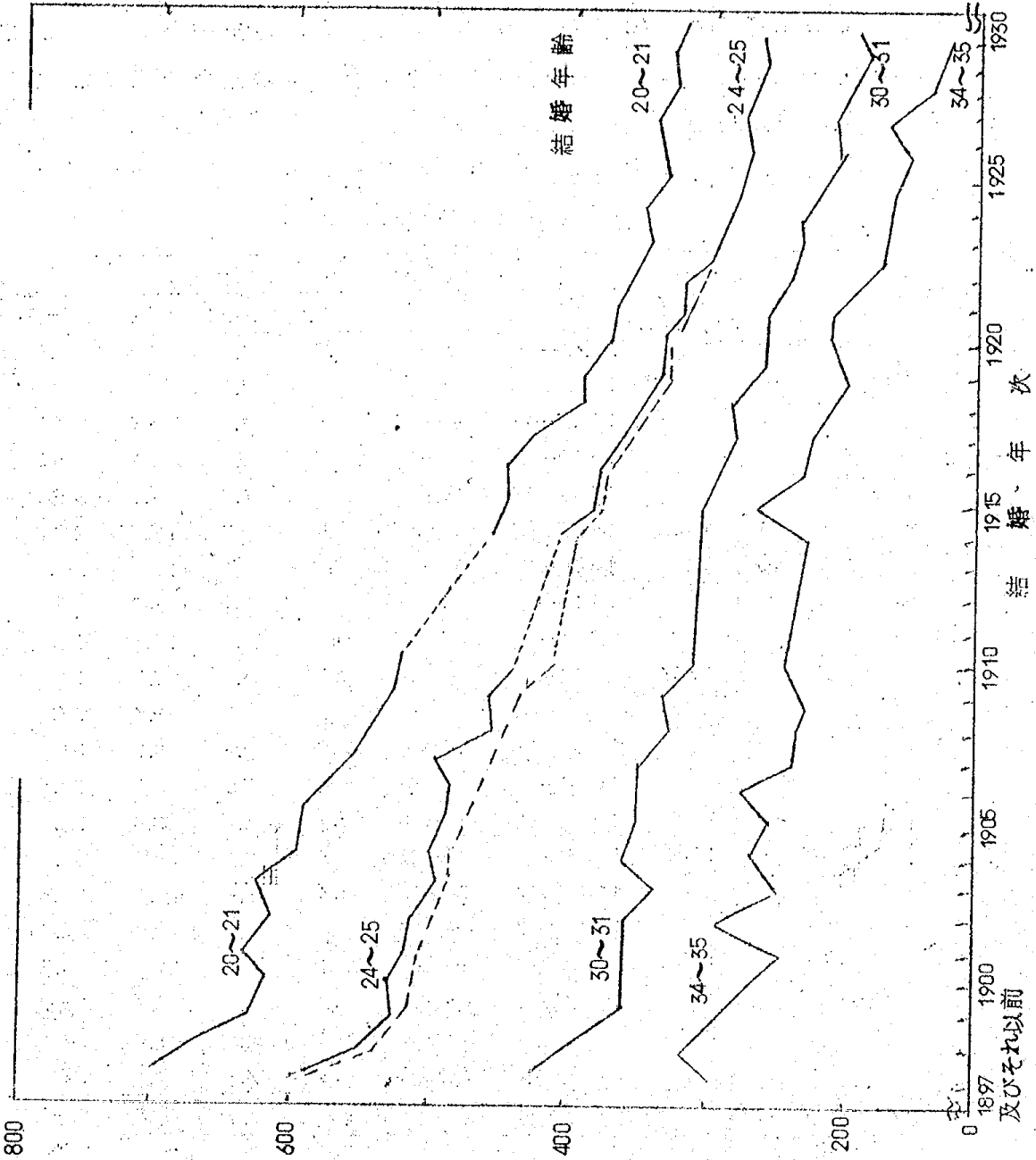
結婚年齢の若いもの、また晩婚のものいずれについても 再生産完了の結婚コホートの家族の大きさは相次いで縮少してきている。各結婚年齢グループについてのこの縮少の程度は、表4に示されている。各結婚コホートの家族の大きさは、もつとも最近のコホートの家族の大きさを100とした割合で示されている。これで見ると、アイルランドは別として、家族の終局の大きさに対する結婚年齢の関係は、データに示された期間に関する限り、かなりコンスタントである。アイルランドの場合は、比較的高い年齢で結婚したコホートの出生力の低下が、若い年齢で結婚したコホートのそれよりも著しい。これは、最近の結婚コホートにおける無子夫婦の増大が特に晩婚の妻に影響を与えたものと思われる。しかし、アイルランドの場合においても、再生産可能の夫婦に限定すると、晩婚の妻にみられる家族の大きさの縮少は、若い年齢で結婚する妻に比較してそれほど大きいとは思われない。

もつとも最近の結婚コホートについても、結婚年齢別に家族の大きさをみることのできるの、上記諸国の中ではノールウェイである。1900年頃から1930年頃までの期間に結婚したコホートで、再生産期間をすぎたものについて、結婚年齢別に家族の平均の大きさの動向を図示すると次の如くであるが、ここでも、夫婦100についての平均子供数は、結婚コホートが新しくなるに従って減少している。と同時に、この家族の大きさの縮少速度が、どの結婚年齢についても、

女子の結婚年齢別再生産完了夫婦の家族の大きさの平均

(ノールウニー、1930、1946及び1950年)

子供数  
(妻100人に付き)





ごく最近のコホートでは著しく緩和してきていると思われる傾向がある。

以上によつて、結婚年齢の若いか晚いかによつて終局の家族の大きさ自体に差異があるとしても、この家族の大きさの縮少の度合には結婚年齢はあまり強い関係がない（アイルランドを例外として）こと、また最近のコホートではこの家族の大きさの縮少傾向が停滞してきているといった事実はみとめてよいようである。

次に無子と結婚年齢の関係について、その研究結果を追加しておく。上述と同じく5ヶ国の結婚年齢別の無子夫婦の割合を求めると表5のようである（p68）。

表5 再生産期完了の結婚コホートにおける  
結婚年齢別無子夫婦の割合

国名	センサス年次	結婚年次	結婚持続期間	結婚年齢				
				20未満	20-24	25-29	30-34	35-39
オーストラリア <sup>a</sup>	1947	1922-26	20-24	0.6	1.9	4.4	9.0	22.3
		1917-21	25-29	0.8	1.7	3.6	7.4	19.2
		1912-16	30-34	0.9	1.5	3.4	6.9	17.7
		1907-11	35-39	0.6	1.4	2.9	6.2	15.0
		1902-06	40-44	1.9	1.5	2.9	5.5	10.6
イギリス <sup>b</sup> (グレートブリテン)	1946	1920-24	21-25	3.9	8.5	16.7	28.2	48.8
		1915-19	26-30	4.8	8.2	15.6	26.2	46.7
		1910-14	31-35	3.5	7.2	13.9	23.8	42.8
アイルランド	1946	1900-09	36-45	4.0	6.9	12.8	21.9	38.6
		1921-25	20-24	3.7	6.2	9.7	17.0	33.0
		1916-20	25-29	4.2	5.9	9.4	16.3	26.2
		1911-15	30-34	5.0	6.5	9.0	13.0	23.4
オランダ <sup>c</sup>	1947	1906-10	35-39	4.6	7.0	8.7	11.7	19.6
		1901-05	40-44	6.5	6.6	8.3	10.5	16.1
		1923-27	19-23	2.6	6.2	12.3	21.8	38.4
ノールウェー	1947	1918-22	24-28	2.4	5.9	11.0	18.5	32.7
		1913-17	29-33	2.4	5.2	9.5	15.3	28.7
	1950	1926-30	20-24	2.1	5.2	12.2	21.3	34.3
		1921-25	25-29	2.2	5.3	11.6	18.2	31.6
1946	1916-20	26-30	3.3	4.6	8.7	14.1	26.0	
	1914-15	31-32	2.4	4.8	8.7	14.5	26.2	

国名	セクス年次	結婚年次	結婚持続期間	結婚年齢				
				20未満	20-24	25-29	30-34	35-39
ノールウェー	1930	1906-10	20-24	2.3	4.5	7.7	14.3	25.3
		1901-05	25-29	2.4	4.4	7.5	12.6	20.3
		1900以前	30以上	3.3	4.2	6.4	10.6	18.3

備考

- a 法的であると否とを問わず夫婦が永久的に別居している場合を除く。
- b 初婚のみ。4.5才以上の寡婦または離別の妻をふくむ。
- c 初婚のみ。

表5にみられる通り、無子率は晩婚の夫婦において高く、その増加率も著しい。反対に、25才以前に結婚したものについては無子率は低くかつあまり増加の傾向はみられない。特に20才以下の若い結婚においては妊娠の結果結婚したというケースが多いということが、この結婚コーホートの無子率の低水準や増加しないことの一部の理由をなすものであろう。

再生産可能の結婚コーホートの妻の結婚年齢的にみた出生数の減少は、表3、4の右欄に示されている。出生数の減少は、若く結婚する結婚コーホートにおいて特に著しい。いいかえると、晩婚の妻における平均家族の大きさの縮小は、無子夫婦の増加と、再生産可能夫婦の出生数の減少によるところが大きいということである。ところが若く結婚する妻の場合においては無子の割合は小さく、従つて出生の動向を規定する大きな要因は、再生産可能の夫婦の出生数の減少にある。

アイルランドの場合は別として、家族制度の普及に従つて、再生産可能夫婦の出生数に及ぼす結婚年齢の影響は、従来よりも減じてきたことは当然であろう。いずれにしても、比較的晩く結婚する婦人にとつては無子がより重要な決定要因であり、しかもこの重要度は最近において次才に増加してきている。

以上述べてきたことを要約すると、結婚コーホートの平均子供数を中心として、無子夫婦の場合、再生産可能夫婦の平均子供数がとりあげられてきた。いいかえると、主として結婚コーホートの家族の平均的な大きさが

問題とされた。従つて出生力低下が無子の夫婦の増加によるものとして説明しうる場合は別として、家族の大きさの変化が大家族の減少、中の大きさから小家族への移行、あるいは小家族制度への標準化傾向の増大といったような形で出生力低下がおきているかどうかを前述の数字からは知ることはできない。

この問題についての分析結果をみてみよう。

### 3. 再生産完了結婚コ－ホートの家族の大きさの分布動向

9ヶ国について、再生産期をすぎた結婚コ－ホートの出生児数分布は表6にみられるように著しい変化がおきている。

表6 再生産期終了の結婚コ－ホートの出生児数別夫婦の分布（セクサンズ時にわたる）

国名	セクサンズ年次	結婚年次	結婚持続期間	出生児数						合計
				0	1	2	3	4	5	
フィンランド	1950	1926-30	20-24	7.4	17.2	19.9	15.9	11.6	8.2	19.8
		1921-25	25-29	6.8	15.3	18.6	15.6	12.1	8.7	22.9
		1916-20	30-34	5.8	12.1	16.1	14.8	12.2	9.8	29.2
		1911-15	35-39	4.5	9.4	13.1	13.6	12.4	10.3	36.7
		1906-10	40-44	3.7	7.0	10.7	11.6	11.4	10.3	45.3
フランス*	1946	1920-24	21-25	14.9	25.9	24.4	14.4	8.1	4.6	7.7
		1919以前	26以上	11.6	22.7	24.1	15.8	9.5	5.8	10.5
		1926-30	20-24	17.1	23.2	25.1	15.3	8.9	4.8	5.6
ドイツ*	1950	1921-25	25-29	17.5	23.5	24.4	14.7	8.6	4.7	6.6
		1920以前	30以上	17.1	16.3	20.5	15.4	10.8	6.8	13.1
イギリス* (グレートブリテン)	1946	1921-25	20-25	15.3	24.0	25.0	14.8	8.4	4.8	7.7
		1916-20	25-29	14.7	20.5	23.3	15.8	9.8	5.9	9.9
		1911-15	30-34	12.7	18.5	21.8	16.2	10.7	7.0	13.1
		1900-09	35-45	10.2	14.1	18.3	15.6	12.1	8.7	21.0

アイランド	1946	1921-25	20-24	100.0	13.6	7.8	10.2	10.8	11.7	11.1	34.8
	1916	1916-20	25-29	100.0	12.4	7.0	9.4	10.7	11.4	10.8	38.3
		1911-15	30-34	100.0	11.5	6.3	8.6	10.0	11.3	11.5	40.8
		1906-10	35-39	100.0	10.0	5.5	7.7	9.3	11.2	10.9	45.4
		1901-05	40-45	100.0	8.7	4.8	6.2	8.1	9.8	10.2	52.2
オランダ*	1947	1922-26	20-24	100.0	10.5	14.1	20.8	15.8	11.2	7.9	19.7
		1917-21	25-29	100.0	9.0	12.0	19.7	16.2	11.9	8.5	22.7
		1912-16	35-39	100.0	8.1	9.6	17.4	15.6	12.4	9.3	27.6
		1901-05	40-44	100.0	7.6	8.4	15.0	14.4	11.9	9.8	32.9
ポルトガル*	1950	1926-30	20-24	100.0	11.7	19.6	25.0	18.0	11.1	6.4	8.2
		1921-25	25-29	100.0	10.3	15.8	23.0	18.0	12.6	7.9	12.4
	1946	1916-20	26-30	100.0	8.3	11.9	19.4	18.0	14.2	9.9	18.3
		1914-15	31-32	100.0	8.0	9.6	15.8	16.9	14.6	11.1	24.0
	1930	1906-10	20-24	100.0	8.4	8.1	12.4	13.4	13.1	11.3	33.3
		1901-05	25-29	100.0	7.5	7.1	10.2	12.1	11.9	11.4	39.8
		1898-1900	30-32	100.0	7.0	6.3	8.8	11.1	11.5	11.3	44.0
スイス*	1950	1926-30	20-24	100.0	17.7	19.0	24.0	15.6	9.5	5.3	8.9
		1921-25	25-29	100.0	15.5	17.9	24.2	16.3	9.9	5.9	10.3
	1941	1917-21	20-24	100.0	15.2	16.3	23.1	16.4	10.5	6.5	12.0
		1912-16	25-29	100.0	12.3	13.6	21.2	17.2	12.0	7.7	16.0
		1907-11	30-34	100.0	10.5	12.5	19.8	17.2	12.7	8.5	18.8
		1902-06	35-39	100.0	8.7	10.5	17.6	17.1	13.4	9.7	25.2
		1897-1901	40-44	100.0	7.4	8.0	14.9	15.8	14.0	10.8	29.1
アメリカ(15-49)才	1950	1925-29	20-24	100.0	11.2	17.7	24.6	16.8	10.8	10.8	18.9
(15-49)	1940	1915-19	20-24	100.0	9.3	14.7	20.5	16.3	12.0	8.3	18.9
(全年齢)	1940	1915-19	20-24	100.0	11.7	14.6	19.3	15.5	11.5	8.2	19.2

備考 \*については表1参照

表6にみられるように多子の結婚コーホートの減少の割合は、国によつて異つてはいるが、一般に著しい。出生力低下がすでに20世紀の始めから進んでいるような国では、最近のコーホートにおけるこの割合の減少はその他の国に比較してはげしくない。たとえば、ノールウエーでは、6子以上の夫婦の割合は、1906—1910年のコーホートの33.3%から1921—1925年のコーホートの12.4%に低下している。ところが、スイスではほぼ前記コーホートに合致するものについてみるとわずかに18.8%から10.3%への低下にすぎない。

もつとも最近のコーホートについてみると、フランス、ドイツ、イギリス、ノールウエー、スイスで6子以上の夫婦はわずかに一割ないしそれ以下である。しかし、フィンランド、オランダ、アメリカではこの割合は約2倍の5分の1である。

1.子または2子といつた小家族についてみると、その割合は著しく増加している。フィンランドやノールウエーでは新しいコーホートのこの割合は古いコーホートの少くとも2倍となつている。フランス、ドイツ、イギリス、ノールウエー等のもつとも新しいコーホート(再生産期終了)のこの小家族の割合は45ないし50%という高水準を示しているのに対してアイルランドではわずかに18%である。フィンランド、オランダ、スイス、アメリカはこれらの中間にあつて、約34ないし43%の範囲にある。

もつとも新しいコーホートの子供数が3人以上といつた中程度ならびに大家族の夫婦の割合は、特にフィンランド、アイルランド、オランダにおいて高くそれぞれ55.5, 68.4, 54.6%を占めている。フランス、ドイツ、イギリスではわずかに35ないし36%にすぎない。

家族の大きさのmodeは多くの国では最近2子となつてきている。しかし、フランス、イギリスといつた国では、1子の夫婦の割合が2子のものの割合とほぼ等しくなつてきている。アイルランドではこのモードは4子にある。

若干の国では、この2子のモードは、今世紀の始めから1926—1930年頃までのどのコーホートについても変化がおきていないが、フィンランドとスイスでは3子家族にかわつて2子家族がもつとも一般的な大きさになつてきており、またノールウェーでは4子家族にかわつて2子家族が、アイルランドでは6子家族にかわつて4子家族が一般的な大きさとなつてきている。

家族形成の動向を測定する方法として parity progression rates と呼ばれるものがある。これは、出生児数の増加確率を算定するものであるが、これによつて9ヶ国についての計算を示すと次表の通りである (p73)。これは再生産期間を経過した1920年代の結婚コーホートの各パリテイ女子の出生力を示したものであるが、国によつて著しい差がみられる。

表7 再生産期間経過の結婚コーホート  
における家族の大きさの増加確率

国名	セサス 年齢	結婚年次	結婚持続 期間(年)	P <sub>n</sub> : 少くとも子供数n-1の妻の数を100 とした少くとも子供数nをもつた妻の数の割合					
				P1	P2	P3	P4	P5	P6
フィンランド	1950	1926-30	20-24	92.6	81.4	73.6	71.4	70.7	70.7
フランス*	1946	1920-24	21-25	85.1	69.6	58.8	58.6	60.3	62.6
ドイツ*	1950	1926-30	20-24	82.9	72.0	58.0	55.8	53.9	53.8
イギリス*	1946	1921-25	20-24	84.7	71.7	58.8	58.5	59.8	61.6
アイルランド	1946	1921-25	20-24	86.4	91.0	87.0	84.2	79.7	75.8
オランダ*	1947	1922-26	20-24	89.5	84.2	72.4	71.1	71.1	71.4
ノールウェー*	1950	1926-30	20-24	88.3	77.8	63.7	58.9	57.1	56.6
スイス*	1950	1926-30	20-24	82.3	76.9	62.1	60.3	59.9	62.7
アメリカ*	1950	1925-29	20-24	88.8	80.1	65.4	63.9	69.5	

備考 \*については表1参照。

前表によると、アイルランドでは4人の子供をもつた妻の約80%が才5番目の子供をもつたものに対してノールウェーではこの割合はわずか57%にしかすぎない。しかし、少くとも1人の子供をもつた妻の割合はノールウェーの方が高い。

この増加確率は、全般的にみて、家族の大きさの増大に従つて低下し

ている。しかし、ある場合にはこの型が逆転している。たとえばフランスの  $p_4$ ,  $p_5$  にみられるように  $p_5$  の方が高率を示している。これは5人の子供をもつもので更に才6番目の子供をもつたものの割合が、4人の子供をもつているものの中で才5番目の子供をもつたものの割合よりも高いということを示している。その理由は、子供の数がすでに多いといった場合には、次の出生に対する選択態度は強くなるが家族制限実行の失敗が多くなるということである。このようにして、4人の子供をもつ女子の中で家族計画を行つているものの割合は、5人の子供をもつているもの間における割合よりも高いし、妊娠可能性も前者の方が低いということが予想されるのである。

## 2 再生産期間未経過結婚コーホートにおける家族の大きさ

上述してきた分析は、主として再生産期間完了の結婚コーホートの態度の解析であつた。しかもそのコーホートは最近のものにしても才2次大戦までの結婚期間が10年ないし15年のものに限定されていたという点に欠点がみられる。というのは、才2次大戦後における出生力の動向がこの分析においてはほとんど反映されていないからである。従つて、本書の主目的である今次戦後の出生力の上昇の実態究明を行うためには、再生産期間を完了していないような最近の結婚コーホートの家族形成に関する資料を分析することが必要となつてくる。

今次大戦前の約半世紀にわたる結婚コーホートの分析の結果は、出生力の長期的低下の傾向をあきらかにしており、このような傾向の中断ないし逆行の兆候はみられなかつたということを示している。このような結論は従来もすでに確認されてきた所であつて、当然の結果を新しい角度から再検し、吟味したにすぎない。新味には乏しいが、従来の断片的な研究を、資料的に、方法論的に総合して行つた努力は敬服に値するものといえよう。

さて、このような再生産期間未経過の結婚コーホートの出生分析に耐えるセンスをもつているのは、ここではベルギー、ドイツ、ノールウェー、スイス、アメリカの5ヶ国である。

これらの諸國の比較に際して注意しなければならない点は、再生産期間未経過のコーホートであるから、再生産期間内における生産間隔の計画の変化の影響があることであつて、一定の結婚持続期間にみられる家族の大きさの差というものと、終局における家族の大きさ（再生産期間完了後の大きさ）の差とを区別することは不可能である。

表によると、断定的な結論を出すことは困難ではあるが、1930年代までに結婚したコーホートにおける小家族への傾向は、最近のコーホートについてもみられる。たとえばベルギーでは1930年において結婚期間5—9年の女子は100について150人の子供をもつており、結婚期間10—14年では198人の子供をもつていたのが、1947年において同じ結婚期間についてみるとそれぞれ146人、182人と縮少してきている。

しかし、反面においてノールウェー、スイス、アメリカ等のごく最近のコーホートでは、家族の大きさの増加があらわれている。たとえば、アメリカについてみると、1940年に結婚期間が5—9年の夫婦100についての子供数は114人にすぎなかつたが、1950年には168人と著しい増加を示している。同様に結婚期間が10—14年のものについてみると181人であつたのが、220人とふえている。ところが、結婚期間が15—19年という長期のものについてみると、1940年の平均子供数は1950年のそれとは事実上変つていない。特にこの比較において考慮すべき重要な背景は、1940年において結婚後15—19年を経過している妻は、その子供の大部分を経済恐慌以前に生み終つているということと、1950年に結婚期間が15—19年という妻は結婚の初期が丁度経済不況期に当り、延期した出生の大部分を1950年頃までにとり戻したと考えられるということである。

ここではイギリス (Great Britain) およびノールウェーにおける結婚後10年（イギリスは正確に10年、ノールウェーは平均11年半）の結婚の家族の大きさの変化が示されている。ここで10年という結婚持続期間が採られているのは、再生産期間が完了していないとし



ても、再生産の大部分がこの期間内に発生するものと考えられ、終局における家族の大きさの動向についての示唆がえられるということにもとづいている。たとえば、ノールウェーで1920年に結婚した女子は最初の11年半間の生涯に生れる子供数の80%をもっている。イギリスにおいても、1915-1925年に結婚した女子のすべてのコーホートが最初の10年間に80-81%の子供を生んでいる。もつとも1900-1909年のコーホートでは74%にすぎないが。

表8 イギリス及びノールウェーにおける女子の結婚年齢別結婚持続期間10年の結婚コーホート100に対する生産数および指数

国名	結婚年次	結婚年齢					
		全年齢	20未満	20-24	25-29	30-34	35-39
		I 結婚100当り出生数					
イギリス <sup>a</sup> (グレートブリテン)	1920	200	271	223	179	152	94
	1925	176	246	198	152	121	81
	1930	170	245	188	148	115	69
	1935	163	236	180	145	114	57
ノールウェー	1920	262	297	271	265	224	162
	1936	194	253	227	195	156	105
	1940	205	264	236	203	170	103
		II 指数 (結婚年齢20-24=100)					
イギリス <sup>a</sup> (グレートブリテン)	1920	-	122	100	80	68	42
	1925	-	124	100	77	66	41
	1930	-	130	100	79	61	37
	1935	-	131	100	81	63	32
ノールウェー	1920	-	110	100	98	83	60
	1936	-	111	100	86	69	46
	1940	-	112	100	86	72	44

備考 a 初婚のみ。45才以上で死離別の妻の結婚をふくむ。死産を除く全出生児(結婚前の出生児をふくむ)。無子の過少評価については調整。

表8のイギリスについてみると、前にものべた如く、1920年中頃以前に結婚したコーホートにみられた家族の大きさの縮少傾向は、それ

以降の新しいコーホートについても引き続きみられる。しかし、低下速度は著しく鈍化してきている傾向もみられる。

ノールウエーでは1920年のコーホートから1936年のコーホートとの間に著しい低下がみられるが、1940年のコーホートの家族の大きさでは1936年のコーホートのそれよりも上昇拡大している。

イギリスにおける若い結婚コーホートの家族の大きさの縮小傾向の鈍化と、ノールウエーにおける逆転の兆候は、終局における家族の大きさの低下が停止しつつあることを暗示しているようである。

このような傾向は、結婚後10年間のコーホートの無子夫婦の割合においてもあらわれている。

しかし、いずれにしても、戦時中ならびに戦後のもつとも新しいコーホートの出生力については、資料の点から分析が困難である。

このような困難を打開するために、イギリスの1946年のFamily census（ここで観察できるもつとも新しい結婚後10年のコーホートというのは1935年のそれにすぎない）とそれ以降公表の動態統計とを連絡するという方法がとられた。この結果は表9に示されている（p79）

表9 イギリスにおける1911-1951年結婚コーホートにおける女子結婚年齢別、結婚持続期間

結婚年次	結婚持続期間（結婚期日による満期間）						
	3	5	7	10	15	20	25
結婚年齢20才未満							
1911-1915	122	172	220	287	368	418	440
1916-1920	113	168	214	271	336	376	394
1921-1925	116	164	204	252	311	349	367
1926-1930	116	161	198	243	298	340	358
1931-1935	114	158	195	237	298	334	352
1936-1940	103	143	180	229	283	317	333
1941-1943	81	127	169	209	258	289	304
1944-1945	95	141	...	225	278	312	328
1946-1947	...	...	195				

結婚年次	結婚持続期間（結婚期日による満期間）						
	3	5	7	10	15	20	25
1948-1949	...	163					
1950-1951	113						
結婚年齢 20 - 24 才							
1911-1915	104	148	187	239	294	320	327
1916-1920	97	145	183	225	269	289	294
1921-1925	97	137	170	206	243	261	264
1926-1930	90	127	156	189	224	224	247
1931-1935	84	120	148	180	220	236	239
1936-1940	73	107	138	176	208	223	226
1941-1943	88	108	142	172	203	218	221
1944-1945	84	124	...	190	224	241	244
1946-1947	...	...	166				
1948-1949	...	128					
1950-1951	80						
結婚年齢 25 - 29 才							
1911-1915	86	122	154	193	223	230	230
1916-1920	81	122	153	183	207	212	213
1921-1925	79	112	138	163	182	185	185
1926-1930	69	100	123	147	165	170	170
1931-1935	65	96	118	142	166	169	169
1936-1940	61	90	117	148	165	168	168
1941-1943	64	99	127	150	168	170	170
1944-1945	78	113	...	170	190	173	193
1946-1947	...	...	154				
1948-1949	...	118					
1950-1951	73						
結婚年齢 30 - 34 才							
1911-1915	79	113	139	164	176	177	178
1916-1920	75	111	135	154	163	164	164
1921-1925	73	102	121	136	143	144	144
1926-1930	64	88	104	117	122	122	122
1931-1935	60	84	100	113	123	124	124
1936-1940	57	81	102	123	129	130	130

	結婚持続期間（結婚期日による満期間）						
	3	5	7	10	15	20	25
1941-1943	60	91	111	125	131	132	132
1944-1945	75	104	...	133	140	141	141
1946-1947	...	...	126				
1948-1949	...	105					
1950-1951	74						

備考 \*表1の6参照。ゴシック数字は推計。

1911年以降戦後の最近に至るまでの出生力の動向を示すものとして注目すべき統計的操作であるといえ。

コホートでみると1931-1935年コホートは、家族の大きさ縮少の長期的傾向から明確な分類を示した最初のものとして注目される。すなわち結婚の10年目以降（1941-1945年から）からのコホートはその家族の大きさを増大せしめ、15年目までに、1926-1930年のコホートと同じ子供数をもつに至っている。

同時に、1936-1940年のコホートは家族形成を急速に進め結婚後10年目までには、同じ結婚期間の1931-1935年のコホートと同水準の大きさを完成している。1941-1943年の結婚コホートの記録は未完成であるが、1944-1945年のコホートにおいては結婚後10年間に、それ以前の同結婚期間のコホートよりもあきらかに多い子供数を始めて示すに至った。（但し結婚年齢の若い夫婦は例外）この水準はやはり20年前に結婚したコホートにみられるところのものである。

1944-1945年に結婚した女子は、いろいろな意味で注目を要する。というのは今次戦争直後の再建復興に結婚の初期を経過したこと、戦争のために延婚した人々も多くふくまれているといった事情である。このコホートの出生力は全般に上昇しているが、しかし結婚年齢が20-29才といったグループでは特に顕著であるが、20才未満では増加はみられない。

結婚後期間の短いコーホートは比較的高出生率を示しているのであつて、1946—1947年ならびに1948—1949年のいずれのグループでも同様である。しかし、こういった数年間の再生産能力によつて終局における家族の大きさを測定することは望ましくないことはいうまでもない。

イギリスにおける最近の結婚コーホートの家族形成の動向をグラフで示すと別掲図の通りである。ほぼ水平線を示している点線は各コーホートについて一定の結婚持続期間における家族の大きさを示したものである。上方に向いている実線は、1つの結婚コーホートの女子がその再生産期間を経過するに従つて変化する家族の大きさの拡大を示している。さらに、なお再生産期間を終了していない結婚コーホートの予想される終局の家族の大きさの予測が行われているが、それは　で投影されている。この補外は、各結婚年齢グループの女子について残存している再生産期間における家族形成の類型が1921—1925年コーホートと同様であるという仮設にもとずいて行われたものである。

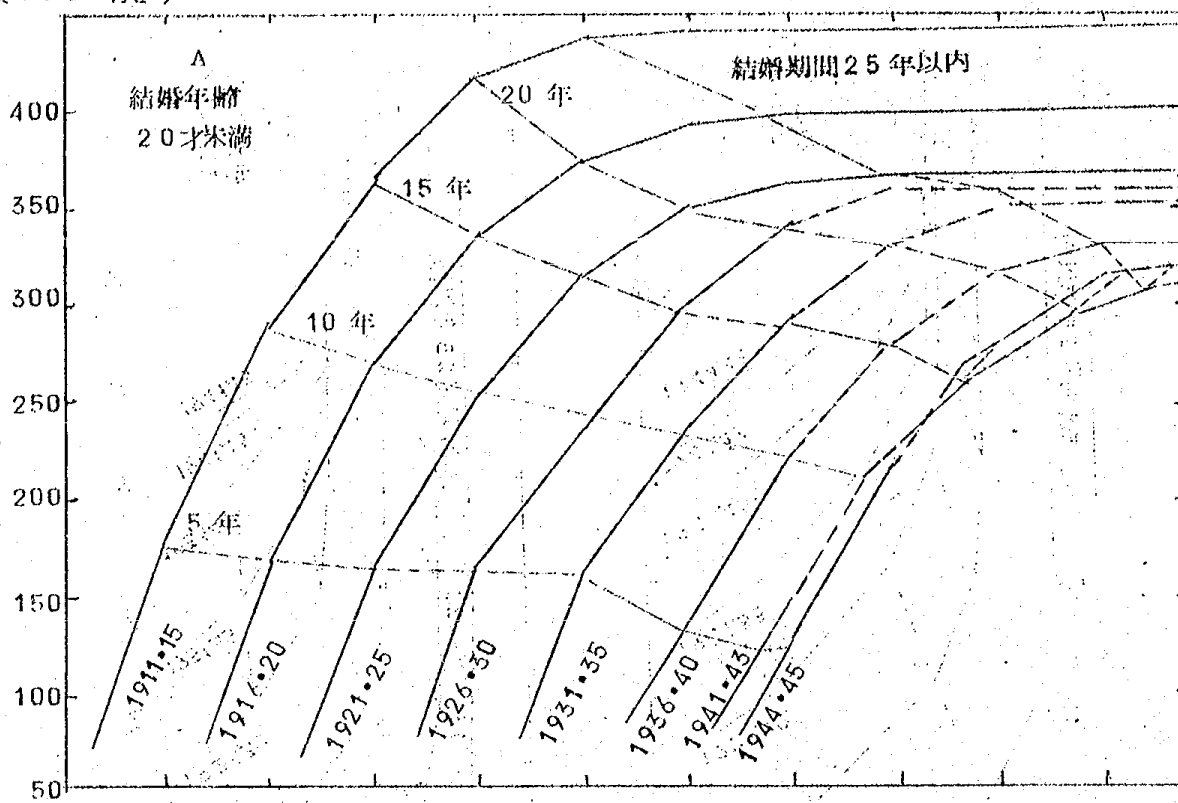
出生力と結婚年齢の関係は1930年以前の結婚コーホート(1930年、1935年次の結婚は別として)においてはなんらの大きな変化がなかつたことが前に指摘されたが、最近において結婚年齢が低下しつつあるからこの両者の関係が従来のパターンに従うかどうかを検討する必要がある。この点については前掲表9から考察が可能である。

これによつてみると、結婚年齢のちがいによる出生力の差は、特に1936—1940年以降の結婚から著しく小さくなつてきている。たとえば、1936—1940年の結婚コーホートにおいて20才以下で結婚したものの家族の大きさは、結婚年齢が20—24才のものより30%高かつた(結婚持続期間10年について)。ところが、1944—1945年の結婚コーホートについてみるとこの両グループ間の出生力の差は18%にすぎない。他方において、1936—1940年において結婚年齢25—29才で、結婚持続期間が10年の夫婦のfamily sizeは、結婚年齢20—24才のものよりも16%低かつたが、

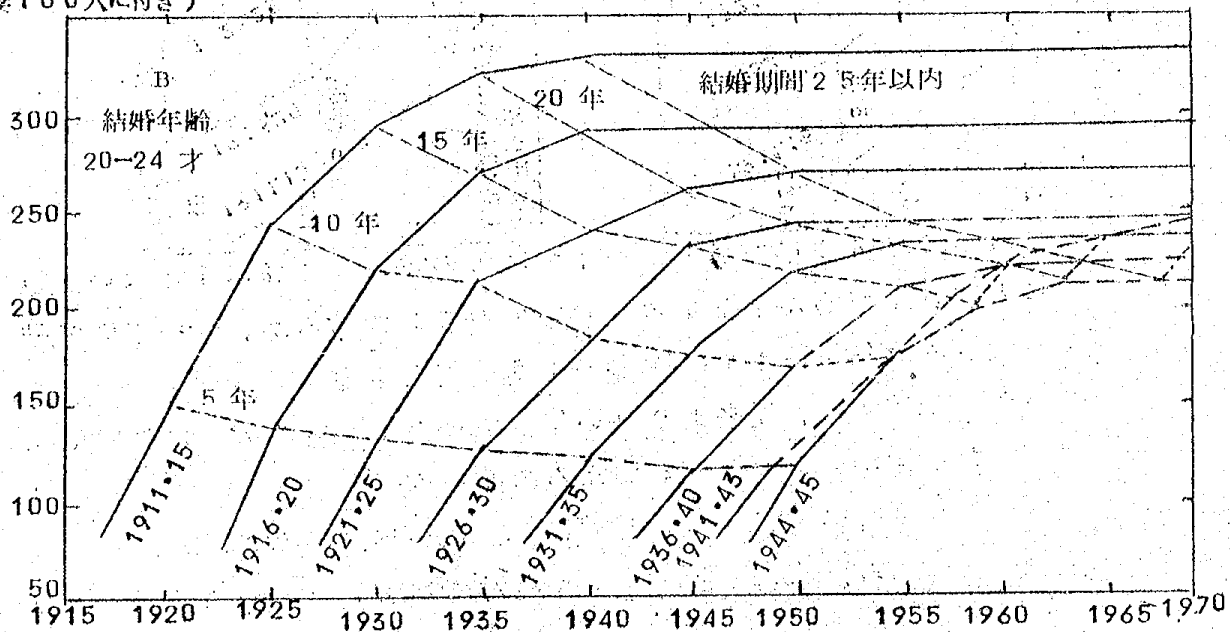
1911-1945年結婚コホートの結婚年齢別生産数(妻100人に付き)

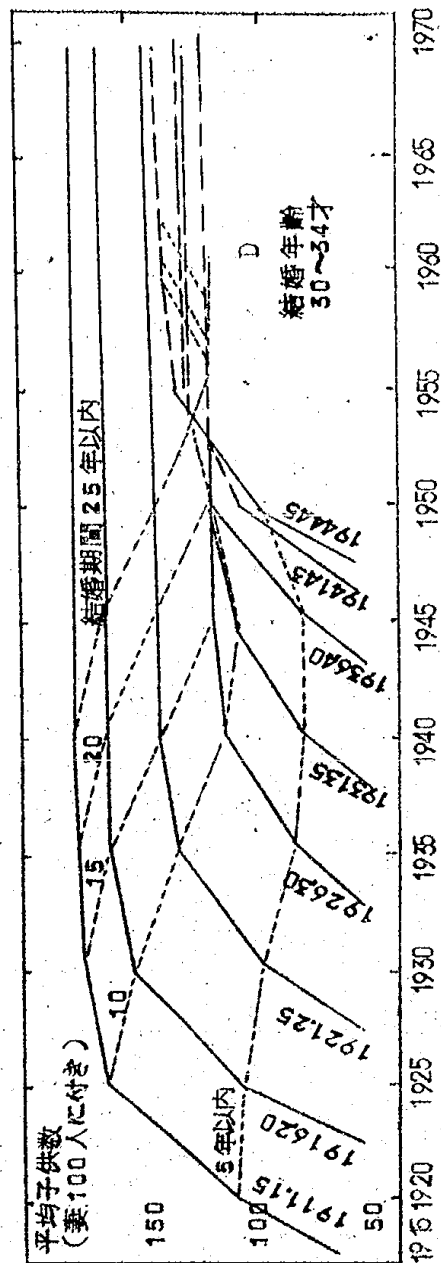
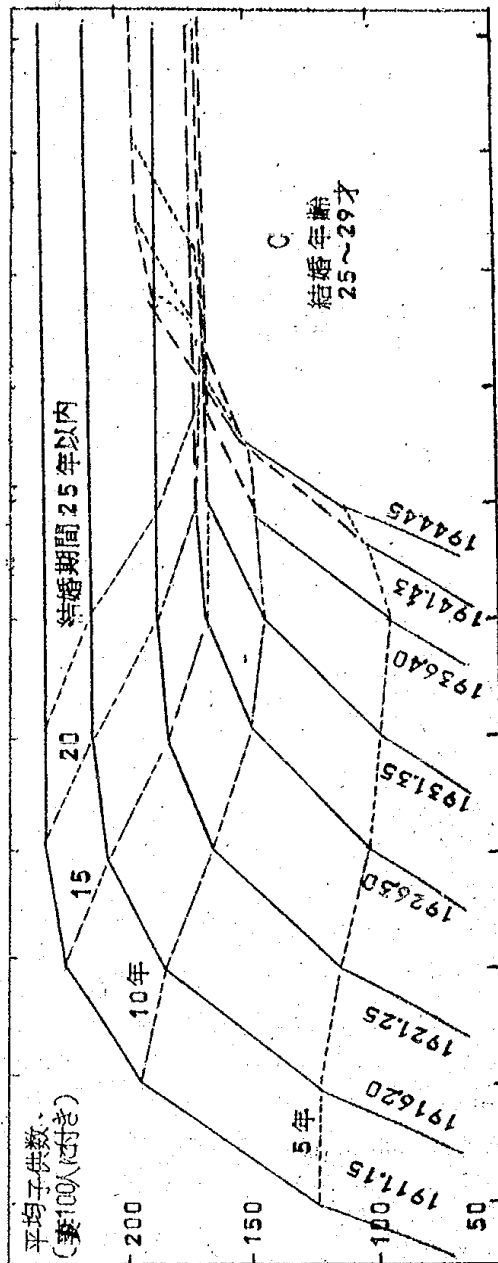
— イギリス —

平均子供数  
(妻100に付き)



平均子供数  
(妻100人に付き)





1944-1945年のコーホートではこの差は11%にすぎない。以上のことは、もちろんイギリスにおいてのことであるが、若い年齢で結婚する最近のコーホートでは従来のような高出生力を示さなくなった、いかえると彼等は、従来より高い年齢で結婚していた人々に特徴であった性格を示すにいたつたともいえるであろう。

こういった事情が事実であるとすれば、結婚年齢にみられる最近の低下からは、平均のfamily sizeに対する著しい影響は予想されな

いということになる。このような影響がどの程度のものであるかについては、たとえば最近のコホートの family size を、結婚年齢が変化しなかつたと仮定した場合のこのコホートの family size と比較することによつて、若干の示唆がえられる。たとえば、1944—1945年のコホートは結婚持続期間10年において、妻100人につき平均184人の子供をもつた。ところで、1944—1945年コホートにおける女子の結婚年齢分布が1931—1935年コホート（初婚）のそれと等しかつたと仮定すると、結婚持続期間10年の妻100人当りの出生児数は、1944年—1945年のコホートの結婚年齢別の特殊出生率の下で、179人となる。さらに、1946—1947年コホートについてみると、結婚持続期間10年の妻100人当りの平均子供数は160人となる。1931—1935年コホートにみられた花嫁の年齢別分布を適用するとこの割合は159人となる。

## VII 動態統計による出生力の分析

### 1 結婚の「粗」出生力と「純」出生力

センサス資料から出生力分析のために必要とされる十分な資料がえられない場合には、動態統計によつて結婚コホート出生力の最近の変動パターンをあらわすことができる。しかし、この場合においても資料上いろいろの制約がある。たとえば、結婚持続期間別の出生 data がえられる場合においても、結婚持続期間別に出生の可能性をもっている女子人口に関する資料がないといつた実情である。

そこでできるだけ多くの国を包含しうるようにするためには、より単純な基準を採用しなければならないということになる。本書では、結婚持続期間別の年々の出生数を、結婚持続期間別の全配偶者妻の数との関連を考察するかわりに、出生 data をそれ以前に行われた当初の結婚者に関連せしめるという方法がとられている。従つて、1つの結婚コホートの元の大きさは、当然に、それ以降の時期において出生の可能



性をもつて残存しているこのコーホートの結婚数よりも大きいというのはその間に1部の結婚は死離別、別居によつて証明されているからである。

このようにして、出生数を出発点の結婚コーホートと関連せしめて求められた出生力は、1種の「純」結婚出生力をあらわすものといえる。つまり、このような方法による完成家族の平均の大きさは、1部の結婚はその再生産期間を全うしなかつたものがあるという事実にかかわりなく、そのコーホートの結婚に生れた子供の平均数である。だから、この出生力はⅢで分析されたセンサスdataに基づき結婚コーホート出生力よりもかなり低くなる。センサスdataがえられた出生力は、死亡もまた離別も考慮されていない「粗」率であるといえる。

このような「粗」率と「純」率との差は、結婚持続期間に従つて増大する。というのは、コーホートが古いほど、解消される結婚の割合が高くなるからである。

再生産期間完了コーホート及び未経過のコーホートについての結婚出生力のこのような「粗」率と「純」率を示すと次表の通りである。

表10 センサス(A)による有配偶女子100人に対する生産数と動態統計(B)による結婚100に対する生産数

国名とコーホート観察年次			結婚持続期間概数									
			0-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34			
オーストラリア	1947	A	66	164	225	271	297	326	454			
		B	78	163	207	231	230	284	347			
ベルギー	1947	A	69	146								
		B	81	141								
フィンランド	1950	A	106	210	274							
		B	102	168	222							
フランス	1946	A		169								
		B		147								
ノールウェー	1930	A	88	205								
		B	81	179								
	1946	A	82	167	211	244	284					
		B	83	160	188	215	240					
	1950	A	81	174	217	240	259	296				
		B	76	172	201	208	226	241				
オランダ	1947	A	結婚持続期間概数									
			0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
			19	68	110	132	154	190	207	219	239	253
			14	61	100	120	138	171	188	196	213	224

ここで一応上述の粗率と純率の差がおきる原因を考えておく必要がある。

才1は、センサスによる粗率は一定時の有配偶妻の出生力をあらわすのに対して、純率はむしろ結婚の出生力を示すものであるということ。

才2は、再婚の行われること。たとえば、一年以内に結婚、離婚、再婚が行われたとした場合、粗率では次のセンサス時において生存、結婚状態を続けている場合にはこの婦人とその子供は算入されるが、前の結婚とその時の子供がなかつたという事実は無視される。ところが純率ではこの女子の2回の結婚は算入され、生れた子供はこの2回の結婚に関連せしめられる。

才3は、再婚の結果として、結婚の数は有配偶妻よりも常に大である  
才4は、移民である。

以上のべたような諸事由から予想される bias を考慮に入れて、結婚の「純」コーホート出生力を観察しなければならない。

## 2 結婚コーホートの年出生率

結婚コーホートの結婚持続期間別の出生率（夫婦100に対する生産数）の変動を10ヶ国について示すと附表1の如くである。

本表を縦によむと、結婚持続期間の進むに従つて各コーホートの家族の大きさに対する年々の追加分を知ることができる。横の数字は各結婚コーホートによる家族の大きさへの追加分の変化を示している。対角線上に上方右側から下方左側に向つて数字をよむと、一定の年次における結婚持続期間についての各コーホートの出生率さ理解される。

ここではまず、最後にあげた一定年次の各コーホートの出生力の動きについて考慮してみよう。

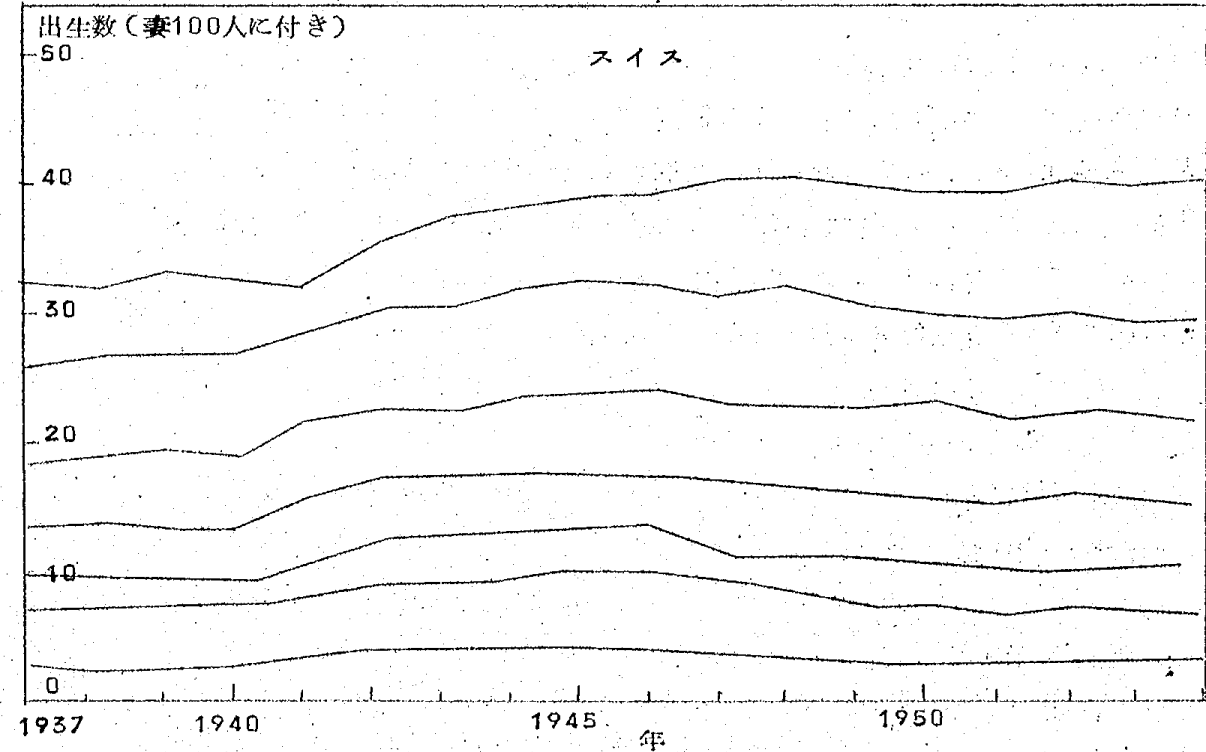
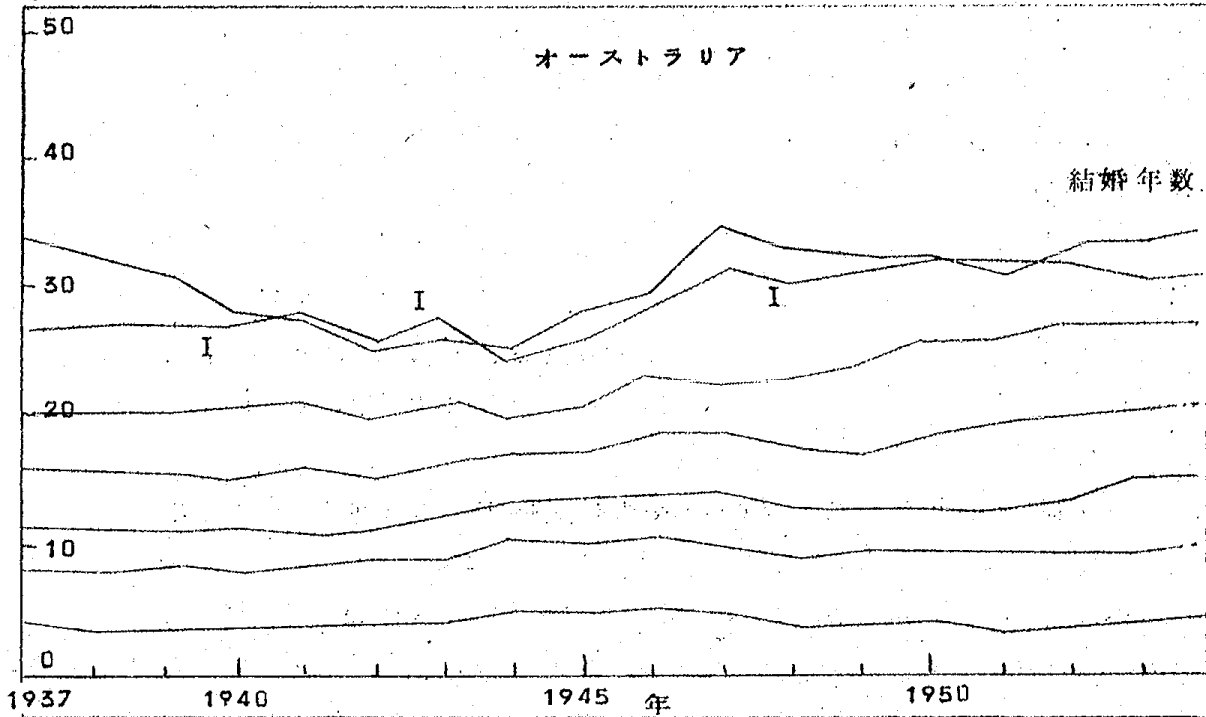
### (1) コーホート別出生率

各年次においてすべてのコーホートの出生率は上昇、下降ともに一致した傾向を示している。たとえば、オーストラリア、スイス、ノールウェー、オランダの4ヶ国について示された次のグラフにもこの傾向があらわれている。

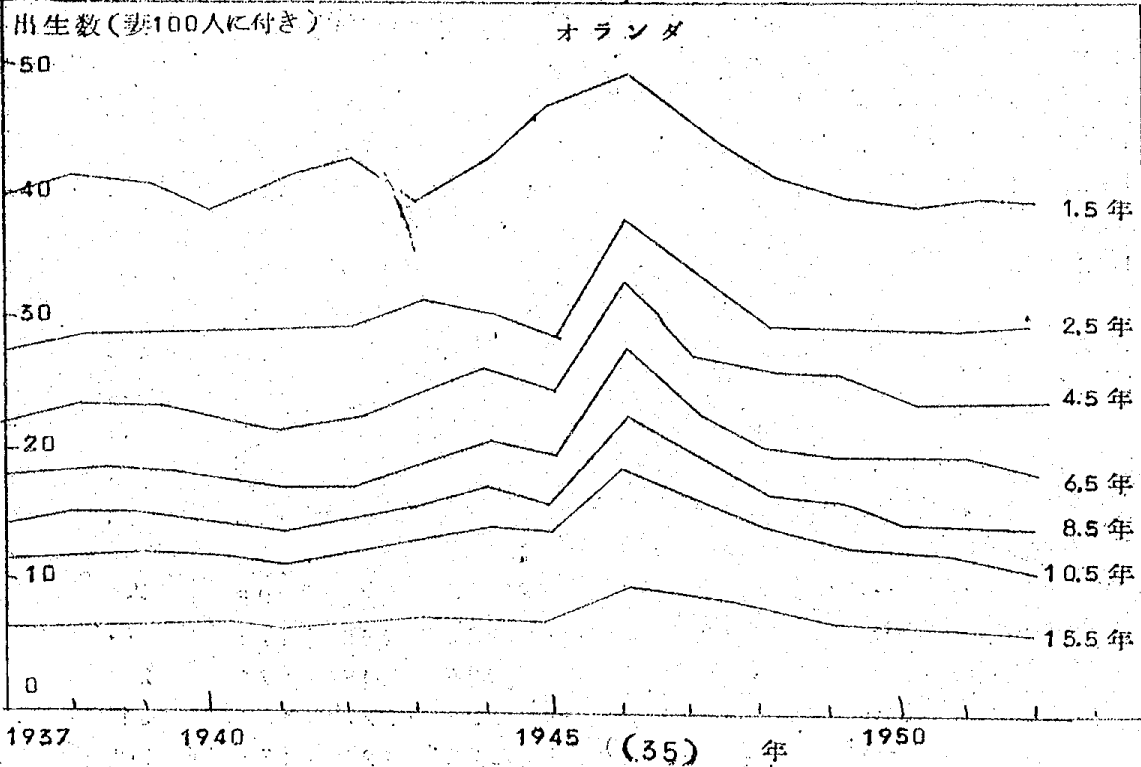
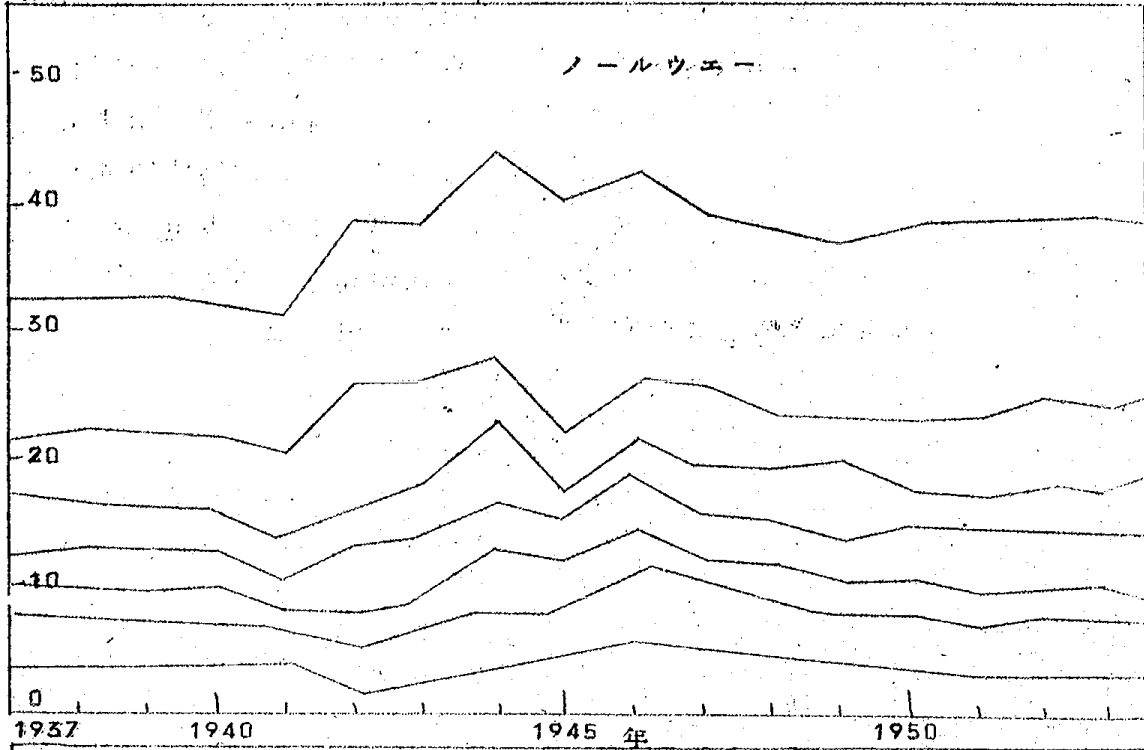
結婚持続期間別出生数 (100人の妻に付き)

出生数  
(妻100人に付き)

(1937年-1953年)



出生数  
(妻100人に付き)



(2) 合計特殊出生率の計算

年々の出生力は、その年次における各結婚持続期間の出生率を合計することによつてあらわすことができる。この総計は、結婚持続別有配偶者分布の影響の排除された一定年次における特殊出生率を示すもので、合計特殊出生率と呼ぶこともでき、それはまた各結婚持続期間の出生率はその年次の結婚持続期間別特殊出生率によつて表現されている一つの仮定的「コーホート」における100人の妻についての総生産数を考えることもできる。この有配偶の合計特殊出生率は、Kuzniskiのtotal fertilityと同じ概念である。いずれも出生力の「時期」的測定であつて「コーホート」測定ではない。ただ異なる点は、前者が有配偶女子に対するものであるのに対して、後者は女子人口に対するものであるということである。

1920年から1954年までについてこの合計特殊出生率を示すと次表の如くである。

表11 合計特殊出生率、1920—1954

(100人の妻についての結婚持続期間別特殊出生率の合計)

年次	オーストラリア <sup>a</sup>	ベルギー <sup>b</sup>	イギリス	フィンランド	オランダ	ニュージーランド	ノルウェー	スウェーデン	スイス
1920	342	...	...	...	...	340	...	353	...
1921	331	...	...	...	...	303	...	...	...
1922	330	...	...	...	...	309	...	...	...
1923	318	...	...	...	...	292	...	...	...
1924	309	...	...	...	...	287	323	257	...
1925	306	...	...	...	...	283	303	248	...
1926	294	...	...	...	...	278	304	236	...
1927	290	...	...	...	...	269	281	223	...
1928	286	...	...	...	...	260	281	219	...
1929	271	...	...	...	...	252	268	205	...
1930	269	...	...	...	...	247	262	205	...
1931	250	...	...	...	...	245	250	195	...
1932	237	...	...	...	...	229	246	191	216
1933	236	...	...	...	...	225	227	180	212
1934	229	...	...	..	...	222	222	178	209

年次	オーストラリア <sup>a</sup>	ベルギー <sup>b</sup>	イギリス <sup>c</sup>	フィンランド	オランダ <sup>c</sup>	ニュージーランド <sup>c</sup>	ノルウェー	スウェーデン <sup>c</sup>	スイス
1935	226	...	...	...	...	215	215	174	206
1936	228	...	...	...	...	215	214	176	203
1937	227	...	...	...	280	216	214	174	196
1938	222	...	184	...	293	217	214	175	200
1939	220	193	177	262	291	219	211	176	200
1940	217	175	166	215	288	236	207	168	198
1941	218	163	151	294	280	246	188	172	219
1942	212	178	169	200	289	257	204	196	236
1943	223	202	178	247	307	215	219	210	244
1944	228	213	198	251	327	237	262	220	249
1945	236	212	176	290	315	259	246	214	254
1946	253	233	213	299	412	281	281	206	252
1946	255	216	228	290	364	285	259	199	242
1948	244	211	198	284	327	274	245	195	236
1949	245	205	186	273	306	266	233	189	227
1950	255	202	178	261	293	264	229	180	224
1951	255	197	174	251	287	262	220	173	216
1952	263	203	169	258	285	270	226	185	218
1953	263	205	174	251	..	268	226	177	216
1954	264	208	174	250	..	278	226	170	217

備考 a 生産の出生率 b 登録前に死亡の乳児を除く

c 生産、死産の出生数

この合計特殊出生率も、粗出生率と同様に1920年代及び1930年代において一般的に低下を示している。ある国ではこの低下傾向は1940年代にまで及んでいる。

合計特殊出生率は、戦後の初期において上昇を示している場合が多いが、同期における粗出生率の動向にみられるほど著しくない。1930年代及び1940年代の粗出生率の動向を合計特殊出生率のそれとを比較してみると、一部の国における粗出生率の安定性あるいは微増は、主

として結婚の増加によるものであることが理解される。1940年代初期における粗出生率の上昇も同様の原因によるものである。たとえば、オーストラリアについてみると、粗出生率は1930年代中頃その低水準から上昇を開始したが、合計特殊出生率は1942年まで引続き低下している。

前掲表で示された9ヶ国のうち大部分の諸国では、合計特殊出生率は1942年ないし1943年まで低下してきているが、スウェーデンやスイスのような中立国では少し早く1940年でこの低下傾向は停止している。

合計特殊出生率の上昇はすべての国において1940年代中頃において著しい。特にイギリス、オランダ、ニュージーランド、ノールウェーにおいて顕著である。しかも、この上昇傾向は粗出生率の動きと一致している。このことはいいかえると、戦争の末期頃や終戦直後における粗出生率の上昇の少くとも一部は、出生力の増加によつてもたらされたものであり、結婚の増加のみによるものではないということである。若干の国では戦後間もなく合計特殊出生率は低下したが、オーストラリアでは低下をみせていないし、ベルギーやニュージーランドではその低下はそれほど著しくない。

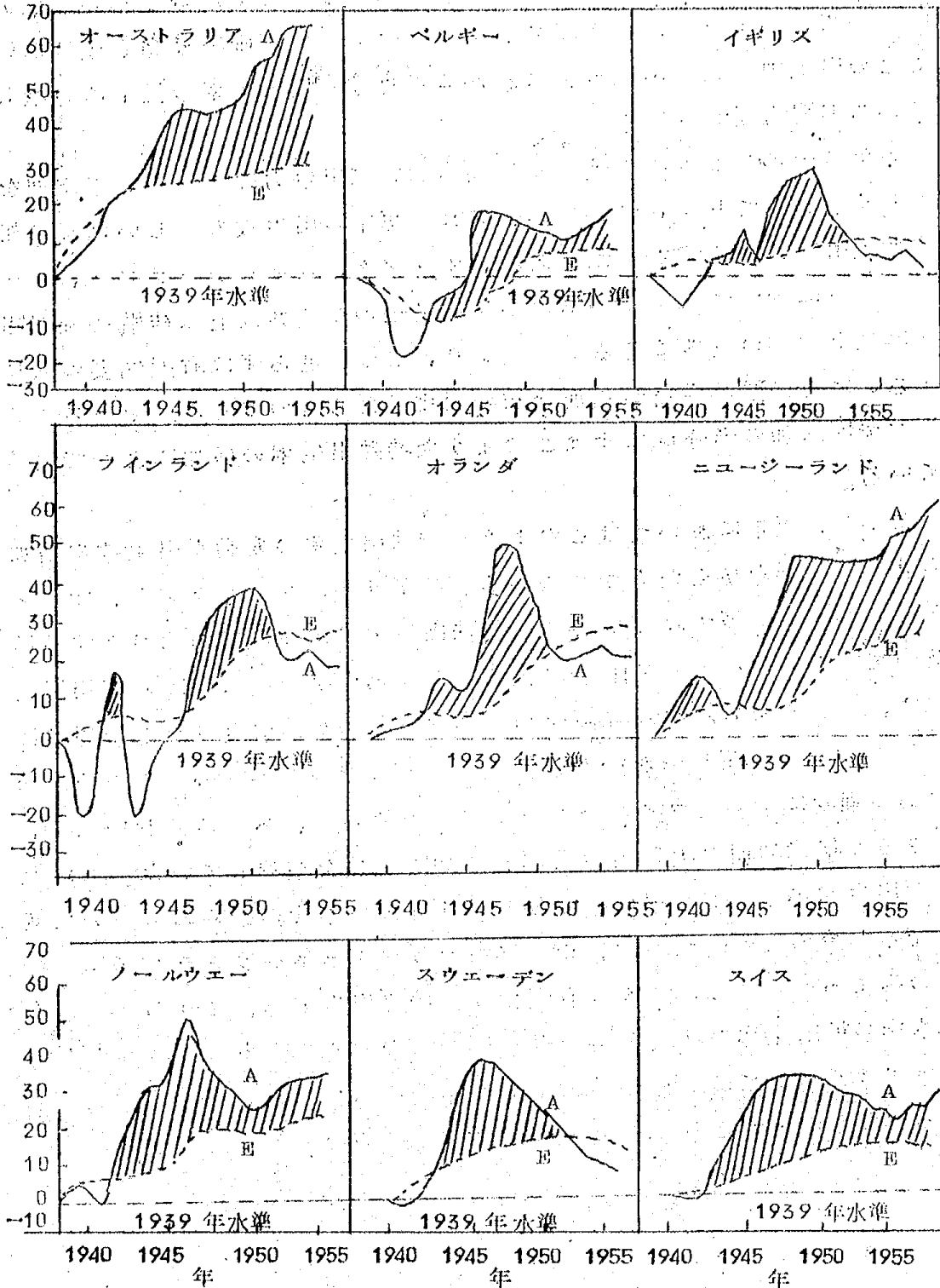
### (5) 出生数に及ぼす結婚数の影響の測定

出生数に及ぼす結婚数の変動の影響は、結婚持続期間別の特殊出生率が一定不変であるという仮説の下において予想される出生数を算定することによつて測定することができるであろう。すなわち、基準年次における結婚持続期間別特殊出生率を各年のそれぞれの結婚コーホートの絶対数に適用することによつて行われる。表12は、1939年を基準年次とし、1940-1954年の期間について行つた計算結果を示したものである。

1939年以降における実際の出生数の年増加を予想増加を比較図示すると次の如くである。

1939年以降総出生数の実際増加

(Aは実際増加、Bは1939年結婚持続期間別特殊出生率にもとづく予想増加)  
増減率(%)





前掲図において示された斜線部分は、出生数の増加の中で出生力の上昇にもとづく部分を示したものである。ニュージーランド、スウェーデン、スイス等の諸国において、戦争の初期に行われた出生数の増加は主として妻の出生力の上昇によつて生じたものであることが理解される。他方において、ベルギー、イギリス、フィンランドでは戦争勃発直後においてこの出生力の低下がおき、これがこの時期の粗出生率の低下に貢献している事情も理解される。

戦争の後年および特に戦争の初期において出生力は1939年水準を著しく上廻つて上昇しているが、これが毎年の出生数の著しい増加の部分的理由になつている。たとえば、オランダ、ニュージーランド、ノールウェーにおいて1946年の出生数超過の75%以上は結婚持続期間別特殊出生率の上昇によるものであり、25%足らずは有配偶妻の人口あるいはその結婚持続期間別分布の変化によるものである。オーストラリアでは増加の半分足らずはこのような特殊出生率の増加によつて生じている。

しかし、近年においてはこのような特殊出生率の変動も出生数の増加に著しい影響を与えなくなつている。イギリス、フィンランド、オランダ、スウェーデン等ではこのような特殊出生率の増加に逆作用さえするに至つている。これらの諸国では、1950年代の初期における実際出生数は、1939年の結婚持続期間別特殊出生率水準で生じたと予想される出生数と大体同じであつた。オーストラリアーニュージーランド、またある程度においてフィンランド、ノールウェー、スイスにおいては、1950年代初期の実際出生数は、予想出生数を超過していた。しかし、特殊出生率が1940年代の終り或は1950年代の始め頃において減少を示し始めなかつたのは、オーストラリアとニュージーランドにおいてのみであつた。このような有配偶女子の高出生率が、これら両国の高水準の粗出生率の持続を可能ならしめたのである。本書ではカナダとアメリカについては同様の分析が行われていないが、ほぼ同様な事情下にあつたものと解せられる。

表12 1930年の結婚持続期間別特殊出生率の仮設の下に予想される1940-1954の合法出生数と実際合法出生数

	オーストラリア*		ベルギー*		イギリス*		フィンランド		オランダ*		ニュージーランド*		ノールウェー		スウェーデン*		スイス	
	実際	予想	実際	予想	実際	予想	実際	予想	実際	予想	実際	予想	実際	予想	実際	予想	実際	予想
	a) 出生数																	
1939	116,697		125,608		60,471		72,156		180,692		27,408		43,728		86,467		61,616	
1940	120,387	122,578	108,082	119,205	158,927	629,339	59,690	72,615	184,540	186,688	31,150	28,966	44,863	45,675	85,815	89,402	61,656	61,937
1941	128,027	129,275	96,834	114,017	560,634	649,276	84,155	75,426	180,514	186,824	33,420	29,859	42,595	47,381	89,857	91,216	69,215	63,027
1942	130,045	136,317	105,221	113,942	628,241	653,851	57,427	76,223	188,263	189,816	31,833	29,807	49,312	48,013	104,355	93,600	76,169	64,644
1943	141,291	141,227	119,228	113,333	652,386	646,032	71,203	76,050	206,886	197,126	28,520	29,362	52,978	48,261	115,324	96,350	80,380	65,915
1944	144,779	142,678	121,743	110,105	706,615	630,851	73,578	77,223	216,830	193,370	31,156	29,088	57,695	48,293	123,983	98,819	82,918	66,648
1945	151,713	143,173	124,008	112,462	626,191	628,589	89,081	80,755	203,862	189,402	34,733	29,360	57,266	48,282	123,741	101,042	85,457	67,267
1946	166,872	145,349	145,923	121,215	777,623	637,724	99,732	87,136	279,563	197,540	39,534	30,918	66,647	49,802	121,251	102,776	86,118	68,441
1947	173,240	149,322	144,181	127,917	844,013	646,724	102,132	91,426	264,179	213,153	42,566	32,653	64,027	52,114	117,621	103,594	84,644	70,027
1948	168,982	151,533	144,589	131,969	741,524	656,325	101,828	92,906	245,234	220,551	42,005	33,735	62,396	54,721	115,445	103,581	84,546	71,429
1949	172,007	153,724	142,491	133,669	700,496	660,189	97,791	92,780	233,776	223,890	41,796	34,356	60,363	54,483	110,858	103,101	82,249	72,215
1950	181,182	155,284	140,601	134,075	668,286	659,349	92,922	93,724	227,530	226,250	42,006	34,776	59,833	54,888	104,993	102,251	81,560	72,542
1951	183,672	157,345	137,658	134,275	650,963	656,662	88,512	91,687	226,699	229,566	42,210	35,066	58,135	55,344	99,820	101,441	79,008	72,948
1952	191,670	158,909	141,309	133,918	626,858	653,702	89,928	90,146	230,686	234,275	43,813	35,378	60,213	55,746	99,913	100,584	80,593	73,054
1953	191,913	159,193	141,706	133,255	637,942	649,341	86,781	90,279	226,733	236,776	43,864	35,611	60,716	56,131	99,921	99,717	80,048	73,617
1954	192,018	158,957	144,224	132,982	629,495	644,198	85,936	89,813	226,957	239,201	45,743	36,000	60,558	56,209	95,275	98,895	80,657	73,981
	b) 1940-1954の実際、予想出生数の1939年に対する増減率																	
1940	3.2	5.0	-1.40	-5.1	-4.3	4.1	-1.93	0.7	2.1	3.3	1.37	5.7	2.6	4.5	-0.8	3.4	0.1	0.5
1941	9.7	10.8	-2.29	-9.2	-7.3	7.4	1.66	4.5	-0.1	3.4	21.9	8.9	-2.7	8.4	3.9	5.5	12.4	2.3
1942	11.4	16.8	-1.62	-9.3	3.9	8.1	-2.01	5.6	4.2	5.0	16.1	8.8	12.8	9.8	20.7	8.2	23.7	4.9
1943	21.1	21.0	-5.1	-9.8	7.9	6.8	-1.3	5.4	14.5	9.1	4.1	7.1	21.2	10.4	33.4	11.4	30.5	7.0
1944	6.9	22.3	-3.1	-12.3	16.9	4.3	2.0	7.0	19.7	7.0	13.7	6.1	31.9	10.4	43.4	14.3	34.6	8.2
1945	30.0	22.7	-1.3	-10.5	3.6	3.9	23.5	11.9	12.8	4.8	26.7	7.1	31.0	10.4	43.1	16.9	38.7	9.2
1946	43.0	24.6	13.9	-3.5	28.6	5.5	38.2	20.8	54.7	9.3	44.2	12.8	52.4	13.9	40.2	18.9	39.8	11.1
1947	48.4	28.0	12.9	1.8	39.6	6.9	41.5	26.7	46.2	18.0	55.3	19.1	46.4	19.2	36.0	19.8	37.4	13.7
1948	44.8	29.9	13.1	4.8	22.6	8.5	41.1	28.8	35.7	22.1	53.3	23.1	42.7	25.1	33.5	19.8	37.3	16.0
1949	47.4	31.7	11.8	6.0	15.8	9.2	35.5	28.6	29.4	23.9	52.5	25.4	38.0	24.6	28.2	19.2	33.5	17.2
1950	55.3	33.1	10.7	6.3	10.5	9.0	28.8	29.9	25.9	25.2	53.3	26.9	36.8	25.5	21.4	18.3	32.4	17.8
1951	57.4	34.8	8.8	6.5	7.6	8.6	22.7	17.1	25.7	27.0	54.0	27.9	33.0	26.6	15.4	17.3	28.3	18.4
1952	64.3	36.2	11.1	6.2	3.7	8.1	24.6	24.9	27.5	29.7	59.9	29.1	37.7	27.5	15.6	16.3	30.8	18.6
1953	64.5	36.4	12.8	6.1	5.5	7.4	20.3	25.1	25.5	31.0	60.0	29.9	38.8	28.4	15.6	15.3	29.9	19.5
1954	64.5	36.3	14.8	5.8	4.1	6.5	19.1	24.5	25.6	32.4	66.9	31.3	38.5	28.5	10.2	14.4	30.9	20.1

備考 \*表12の注参照。

以上のように欧州諸国の出生力の動きをオーストラリア、ニュージーランドといった非欧州諸国のそれとの動きは対照的である。しかし、ここで行われた出生力測定方法はコーホートによつたものではなく「時間」といつた年単位の時間的方法であることに注意しなければならない。従つて、それはある年あるいは短期の数年間における有配偶人口の再生産態度を表現しているとしても、その人口集団における終局の家族の平均的大きさの基本的変化を明確に反映するものとは考えてはならない。もちろん、出生のタイミングは、ここでのべたように、終局における家族の大きさの変化と同様に結婚の出生率に影響を与える。オーストラリアやニュージーランドにおいては、他の諸国とは異なり、高水準の結婚出生率が長期にわたり存続しているのであつて、これは単純に出生のタイミングの変化の影響のみによつて説明されえないのであつて、終局における家族の大きさの増加も想定されねばならないであろう。しかし、この点はなお更に検討を要することと思われる。

### 3 結婚コーホートの家族の大きさの累年増加

各年次あるいは期間の結婚コーホートの出生力の年増加は、表 1.1 から作成することができる。次表は 1920-1954 年の期間において結婚したコーホートの特定の結婚持続期間内における有配偶女子 100 人当りの出生数を示したものである。また表 1.4 は 1920 年代初期のコーホートの出生率を 100 として最近のコーホートの結婚持続期間別にみた割合である。

すべてのコーホートにおいて結婚期間の増大とともに出生力はあきらかに低下している。

表 1.3 1920-1954 年の 5 年間結婚コーホートの結婚持続期間別生産数(夫婦 100 に付き)

国名	結婚後 年数	結婚年次 (1900年代)						
		20/21- 24/25	25/26- 29/30	30/31- 34/35	35/36- 39/40	40/41- 44/45	45/46- 49/50	50/51- 53/54
オーストラリア*	1年未満	44.0	42.5	39.3	32.0	26.1	32.5	33.0
	1	26.0	26.4	25.9	27.0	26.2	31.4	

国名	結婚後 年数	結婚年次 (1900年代)						
		20/21-	25/26-	30/31-	35/35-	40/41-	45/46-	50/51-
		24/25	29/30	34/35	39/40	44/45	49/50	53/54
オーストラリア*	2	25.2	24.5	23.5	23.2	23.5	27.7	
	3	23.9	20.6	20.2	20.4	21.6	25.9	
	4	20.8	17.6	17.9	18.4	20.0	23.6	
	5	17.8	14.9	15.5	16.3	18.0		
	6	15.1	12.9	13.2	14.8	15.4		
	7	12.6	11.1	11.1	13.4	13.1		
	8	10.6	9.4	9.8	11.7	11.5		
	9	9.1	8.3	8.9	9.9	9.6		
	10	7.7	7.3	8.0	8.5			
	11	6.5	6.0	7.3	6.9			
	12	5.7	5.2	6.6	5.8			
	13	4.8	4.7	5.6	4.9			
	14	4.1	4.1	4.6	4.0			
	15-19	11.9	13.2	12.8				
	20-24	3.7	3.4					
25-29	0.4							
ベルギー*	1年未満	...	...	...	32.2 <sup>a</sup>	32.0	34.5	33.6
	1	...	...	...	20.8	25.9	26.3	
	2	...	...	...	17.7	21.8	21.0	
	3	...	...	...	15.9	18.5	17.5	
	4	...	...	...	14.5	15.8	15.3	
	5	...	...	...	13.2	13.5		
	6	...	...	...	13.0	11.4		
	7	...	...	...	11.6	10.0		
	8	...	...	...	9.2	8.7		
	9	...	...	...	7.7	7.6		
	10	...	...	...	7.1			
	11	...	...	...	5.5			
	12	...	...	...	5.1			
	13	...	...	...	4.1			
イギリス*	1年未満	...	...	...	23.6 <sup>b</sup>	19.7	26.0	24.3
	1	...	...	...	21.8	23.1	26.6	
	2	...	...	...	17.2	18.2	19.7	
	3	...	...	...	14.8	16.4	17.1	

国名	結婚後 年数	結婚年次 (1900年代)						
		20/21-	25/26-	30/31-	35/36-	40/41-	45/46-	50/51-
		24/25	29/30	34/35	39/40	44/45	49/50	53/54
	4	...	...	...	14.3	15.3	15.0	
	5	...	...	...	12.8	14.1		
	6	...	...	...	13.1	11.8		
	7	...	...	...	12.1	9.1		
	8	...	...	...	10.4	7.3		
	9	...	...	...	8.1	6.2		
	10	...	...	...	5.1			
	11	...	...	...	4.5			
	12	...	...	...	4.2			
	13	...	...	...	3.4			
	14	...	...	...	2.5			
フィンランド	1年未満	...	...	...	40.5 <sup>a</sup>	34.5	49.5	50.6
	1	...	...	...	26.1	25.6	29.9	
	2	...	...	...	23.2	24.9	25.3	
	3	...	...	...	16.6	21.8	20.8	
	4	...	...	...	16.8	19.8	17.7	
	5	...	...	...	16.7	16.7		
	6	...	...	...	16.4	14.1		
	7	...	...	...	14.4	11.8		
	8	...	...	...	12.0	10.2		
	9	...	...	...	10.5	8.6		
	10	...	...	...	8.7			
	11	...	...	...	7.5			
	12	...	...	...	6.1			
	13	...	...	...	5.4			
	14	...	...	...	4.5			
ニュージーランド*	1年未満	40.6						
	1	29.8	38.3	35.4	29.6	29.5	34.4	33.9
	2	27.6	28.5	27.1	28.9	28.6	33.6	
	3	22.8	25.4	23.7	25.0	24.9	30.2	
	4	19.7	21.1	20.5	22.8	23.4	28.2	
	5	17.2	18.1	18.1	20.5	22.3	24.2	
	6	14.6	15.6	16.1	18.0	19.8		
	7	12.0	12.7	14.1	16.0	17.0		

国名	結婚後 年数	結婚年次 (1900年代)						
		20/21- 24/25	25/26- 29/30	30/31- 34/35	35/36- 39/40	40/41- 44/45	45/46- 49/50	50/51- 53/54
ニュージーランド	8	10.0	11.0	12.3	14.3	14.2		
	9	8.4	9.3	10.5	13.0	11.6		
	10	7.2	7.9	9.6	11.4	10.2		
	11	5.9	6.0	7.9	7.3			
	12	5.1	5.1	6.7	6.0			
	13	4.1	4.5	5.9	4.7			
	14	3.5	4.0	4.8	4.0			
	15-19	10.3	13.1	12.1				
	20-24	3.0	3.2					
スエーデン*	1年未満	45.4 <sup>o</sup>	41.7	37.3	33.1	36.7	40.4	39.6
	1	25.0	22.2	19.7	19.7	22.6	21.4	
	2	19.9	18.1	16.5	17.2	19.5	17.8	
	3	16.3	14.9	14.3	15.7	16.9	15.9	
	4	14.1	12.9	12.7	14.6	14.7	13.8	
	5	11.8	10.9	11.1	13.5	12.5		
	6	10.4	9.5	9.6	12.5	10.2		
	7	8.8	8.2	8.7	10.9	8.7		
	8	7.5	7.2	8.0	9.1	7.0		
	9	6.2	6.5	7.3	7.5	5.8		
	10	5.7	5.6	6.8	6.1			
	11	4.9	4.8	6.1	4.8			
	12	4.1	4.4	5.3	4.0			
	13	3.6	4.0	4.3	3.2			
	14	3.4	3.4	3.6	2.6			
15-19	10.0	10.7	8.8					
20-24	2.6	2.1						
スイス	1年未満	...	...	34.5 <sup>d</sup>	32.6	36.4	39.7	39.7
	1	...	...	27.2	27.1	31.4	30.5	
	2	...	...	22.3	23.5	26.9	25.8	
	3	...	...	19.2	21.0	23.6	22.3	
	4	...	...	16.4	18.9	19.9	18.5	
	5	...	...	13.8	17.0	16.3		
	6	...	...	12.0	15.0	13.0		
	7	...	...	10.7	12.8	10.6		

国名	結婚後 年数	結婚年次 (1900年代)						
		20/21- 24/25	25/26- 29/30	30/31- 34/35	35/36- 39/40	40/41- 44/45	45/46- 49/50	50/51- 53/53
スイス	8	...	...	9.9	10.7	8.6		
	9	...	...	8.9	8.8	7.0		
	10	...	...	8.2	7.0			
	11	...	...	6.9	5.5			
	12	...	...	5.7	4.5			
	13	...	...	4.7	3.5			
	14	...	...	3.6	2.9			

国名	結婚後 年数	結婚年次						
		1924- 1925	1926- 1930	1931- 1935	1936- 1940	1941- 1945	1946- 1950	1951 1953
フランス	0.5年	34.5 <sup>e</sup>				40.4 <sup>f</sup>	38.2	38.6
	1.5	26.5				30.3	31.1	
	2.5	21.0				24.3	24.5	
	3.5	17.5	...	...	...	20.8	20.9	
	4.5	14.5	...	...	...	18.2		
	5.5	13.0	...	...	...	15.5		
	6.5	11.0	...	...	...	13.5		
	7.5	9.5	...	...	...	11.3		
	8.5	7.5	...	...	...	9.6		
	9.5	7.0	...	...	...			
	10.5	5.5	...	...	...			
	11.5	4.7	...	...	...			
	12.5	3.7	...	...	...			
13.5	3.3	...	...	...				
14.5	1.2	...	...	...				
オランダ*	0.5年				12.3 <sup>g</sup>	12.4	13.0	1.2 <sup>h</sup>
	1.5				40.5	44.2	40.9	
	2.5				29.0	32.4	29.4	
	3.5	...	...	...	25.7	29.8		
	4.5	...	...	...	23.7	27.3		
	5.5	...	...	...	21.6	24.7		
	6.5	...	...	...	21.9	20.2		
	7.5	...	...	...	20.8	17.3		
8.5	...	...	...	18.7				

国名	結婚後 年数	結 婚 年 次						
		1924- 1925	1926- 1930	1931- 1935	1935- 1940	1941- 1945	1946- 1950	1951- 1955
オランダ	8.5	...	...	...	18.7			
	9.5	...	...	...	17.0			
	10.5	...	...	...	13.8			
	11.5	...	...	...	11.2			
	12.5	...	...	...	9.2			
ノールウェイ*	0.5年	26.0	24.4	22.3	19.1	21.2	20.5	20.7
	1.5	40.1	37.6	33.7	32.1	40.1	38.1	
	2.5	26.0	24.7	21.7	22.5	25.7	23.6	
	3.5	22.5	20.7	18.4	18.7	22.1	19.8	
	4.5	19.9	17.8	16.5	17.4	19.6		
	5.5	16.8	15.5	14.5	15.7	17.5		
	6.5	14.7	13.2	12.3	15.5	14.8		
	7.5	12.4	11.2	10.3	14.0	12.3		
	8.5	10.7	9.9	8.9	12.7	10.4		
	9.5	8.7	8.4	7.7	11.0			
	10.5	7.7	7.5	7.3	9.5			
	11.5	6.7	6.4	7.1	7.5			
	12.5	5.6	5.2	6.5	6.1			
	13.5	4.8	4.5	6.2	4.9			
14.5	4.3	3.8	5.4					
15.5-19.5	11.1	13.2						
20.5-24.5	3.9							

- 備考
- a 1938 / 1939 - 1939 / 1940
  - b 1937 / 1938 - 1939 / 1940
  - c 1923 / 1924 - 1924 / 1925
  - d 1931 / 1932 - 1934 / 1935
  - e 1925
  - f 1934 - 1945
  - g 1937 - 1940
  - h 1951 - 1952

\* 表11の備考参照

表14 1920-1954年の5年間結婚コーホートの結婚持続  
期間別生産数指数 (夫婦100に付き)

1920-1921-1924-1925年(或は1924-25)コーホートの率=100



国名	結婚後 年数	結婚年次 (1900年代)						
		20/21-	25/26-	30/31-	35/36-	40/41-	45/46-	50/51-
		24/25	29/30	34/35	39/40	44/45	49/50	53/54
オーストラリア	1年未満	100	97	89	73	59	74	75
	1	100	102	100	104	101	121	
	2	100	97	93	92	93	110	
	3	100	86	85	85	90	108	
	4	100	85	86	88	96	113	
	5	100	84	87	92	101		
	6	100	85	87	98	102		
	7	100	88	88	106	104		
	8	100	89	92	110	107		
	9	100	91	98	109	105		
	10	100	95	104	110			
	11	100	92	112	106			
	12	100	91	116	102			
	13	100	98	117	102			
	14	100	100	112	98			
15-19	100	111	108					
20-24	100	92						
ニュージーランド	1年未満	100	94	87	73	73	85	83
	1	100	96	91	97	96	113	
	2	100	92	86	91	90	109	
	3	100	93	90	100	103	124	
	4	100	92	92	104	113	123	
	5	100	91	94	105	115		
	6	100	87	97	110	116		
	7	100	92	103	119	118		
	8	100	93	105	103	116		
	9	100	94	114	136	121		
	10	100	99	122	128			
	11	100	102	134	124			
	12	100	100	131	118			
	13	100	110	144	115			
	14	100	114	137	114			
15-19	100	127	117					
20-24	100	107						

国名	結婚後 年数	結婚年次 (1900年代)						
		20/21-	25/26-	30/31-	35/36-	40/41-	45/46-	50/51-
		24/25	29/30	35/35	39/40	44/45	49/50	53/54
スエーデン	1年未満	100 <sup>a</sup>	92	82	73	81	89	87 <sup>b</sup>
	1	100	89	79	79	90	86	
	2	100	91	83	86	98	89	
	3	100	91	88	96	104	98	
	4	100	91	90	104	104		
	5	100	92	94	114	106		
	6	100	91	92	120	98		
	7	100	93	99	124	99		
	8	100	96	107	121	93		
	9	100	105	118	121			
	10	100	98	119	107			
	11	100	98	124	98			
	12	100	107	129	98			
	13	100	111	119	89			
	14	100	100	106				
15-19	100	107						
フランス	0.5年	100 <sup>o</sup>				117 <sup>d</sup>	111	112
	1.5	100				114	117	
	2.5	100				116	117	
	3.5	100	...	...	...	119	119	
	4.5	100	...	...	...	126		
	5.5	100	...	...	...	119		
	6.5	100	...	...	...	123		
	7.5	100	...	...	...	119		
	8.5	100	...	...	...	128		

国名	結婚後 年数	結婚年次						
		1924-	1926-	1931-	1936-	1941-	1946-	1951-
		1925	1930	1935	1940	1945	1950	1953
ノールウェー	0.5年	100	94	86	73	82	79	80
	1.5	100	94	84	80	100	95	
	2.5	100	95	83	87	99	91	
	3.5	100	92	82	83	98	88	
	4.5	100	89	83	87	104		
	5.5	100	92	86	93	101		

国名	結婚後 年数	結婚年次						
		1924- 1925	1926- 1930	1931- 1935	1936- 1940	1941- 1945	1946- 1950	1951- 1953
ノールウェー	6.5	100	90	84	105	99		
	7.5	100	90	83	113	97		
	8.5	100	93	83	119			
	9.5	100	97	89	126			
	10.5	100	97	95	123			
	11.5	100	96	106	112			
	12.5	100	93	116	109			
	13.5	100	94	129	102			
	14.5	100	88	126				
15.5-19.5	100	119						

備考 a 1931/1924-1924/1925

b 1950/1951-1952/1953

c 1925 d 1943-1944

もつとも特定の結婚持続期間における出生率の水準はコーホートによつて異なつてゐる。

本書から観察される主要な点についてのべておこう。

### 1 1920年代後半の結婚コーホートと同年代前半の結婚コーホートの出生力の差異

1920年代後半と前半の結婚コーホートの出生力を結婚持続期間の短い場合についてみると前者の方がかなり著しく低い。結婚持続期間6年という場合についてみると、オーストラリアでは後者のコーホートに対し、前者は15%低く、またノールウェー、スウェーデンではそれぞれ9%ないし10%低い。もちろんこのような低水準出生力の少くとも1部の原因は1930年代の経済的不況によるものであることは容易に推察できる。つまり、出生延期または出生停止が行われたということである。

しかし、結婚持続期間12年ぐらいになると、1920年代後半のコーホートの出生力も同年代前半のそれに比較して同水準またはそれ以上の高水準を示しており、さらに結婚持続期間が15年ないし19年にな

ると、さらにこのコーホートの出生力はそれ以前のコーホートよりも高くなっている。これは、1930年代中頃からの一般的な出生力水準の上昇や出生回復（特に古いコーホートよりも新しいコーホートの出生回復速度は早い）によるものであると共に再生産に対する態度や行動におけるなんらかの長期的変化たとえば終局における家族の大きさに対する変化の生じていることも予想しなければならないであろう。

#### (2) 1930年代前半の結婚コーホートの出生力

1930年代前半の結婚コーホートの出生率は、結婚持続期間の短い場合についてみると1920年代前半のコーホートよりも著しく低いし、また1920年代後半のコーホートと比較しても低い。しかし、これは結婚後間もない期間と考えられるし、それだけに経済回復と共に出生率の上昇も顕著であつた。結婚約10年におけるこのコーホートの出生力は1920年代初期のコーホートのそれを著しく上廻つた。

#### (3) 1930年代後半のコーホートの出生力

この結婚コーホートの始めの5年間における出生率は、1920年代初期のコーホートの で結婚継続期間のものに比較して低水準にある。これは、このコーホートでは戦争による別居や疎開が多かつたからである。しかし、戦争の終了と共に著しい回復を示したことはいうまでもない。しかし、結婚持続期間の長くなるにつれてこのコーホートの超過出生率も逐時減退し始め、最近では1920年代初期のコーホートのそれよりも低くなっている国もある。

#### (4) 1940年代初期の結婚コーホートの出生力

結婚後10年という期間についてこのコーホートの出生力をみると、1920-1924年の結婚コーホートのそれと類似している。このコーホートの一部のものは、戦争の影響をうけ当初低出生力水準を示し、次いで回復を示している。戦後出生率がピークに達した直後、というところこのコーホートの結婚後8年ないし9年目にあたるが、この時期における1940-1944年コーホートの結婚持続期間別特殊出生率は、20

年前の結婚コーホートよりも最高28%の高い水準を示している。

スカンジナビアのスウェーデン、ノールウェーの2ヶ国だけは多少その変動の型を異にしており、出生率の回復はその他の諸国よりもはるかに早くおきている。

#### (5) 戦後結婚コーホートの出生力

このコーホートの出生力水準(結婚後数年しか観察できない)を戦時中の結婚コーホートのそれに比較するとある国では高く他の国では低いといったように一時的な傾向はみられない。戦後コーホートが高い水準を示しているのは、オーストラリア、ベルギー、イギリス、フィンランド、ニュージーランド、フランスの諸国であり、低水準を示したのはオランダ、ノールウェー、スイスの諸国である。

このようなもつとも新しい結婚コーホートが比較的高い出生率を示しているということが、終局における家族の大きさには変化が多く単に出生のタイミングにすぎないものか、あるいは完成家族の大きさの拡大を意味するものであるかどうかについては決定的なことはいえない。

しかし、再生産期を丁度経過しおわつた結婚コーホートの非常に低い出生力も次のように解釈することができる。このコーホートでは出生水準を低下せしめる2箇の条件、すなわち1つは出生力ががらんらい高い時期においては出生の延期を必要とする事情が、才2には事情が改善された時期にはこのコーホートはもはや再生産能力をもたなかつたといった条件が重なり合つておきたということである。

ところが最近の結婚コーホートは、前述のコーホートとは異つた条件下にある。従つてたとえ結婚の初期における高出生力が後における低出生力によつて相殺されたとしても、最近のコーホートでは前述のコーホートにみられたのと全く反対の結果がおきることが予想される。最近のコーホートにみられる高出生力をもつた時期における出生増加の強い傾向といった理由だけで、彼等の希望子供数が大きくならないとしても、結婚コーホートは以前のコーホートよりも大きい家族の大きさに到達するであろうといった予想がでてくるのである。

#### 4 家族の平均的大きさ

前項においても問題にされたように結婚持続期間別の特殊出生率の時系列的動向のみでは、各結婚持続期間における出生率の年変動が単に出生のタイミングの変化によるものかないしは完成家族の大きさの変化の動向を示すものかを知ることができない。

この問題に対する解答の1つは、累積特殊出生率を算定することによつて与えられる。その結果は附表2に示されている。

前者は特定の結婚持続期間別に1つのコーホート100人当りの出生数を示したものである。1920年代及び1930年代のコーホートについての累積出生率が算定されている。

これによつて、最近の結婚コーホートの家族形成の動向をうかがうことができる。たとえば、オーストラリアにおいては、終局における家族の大きさは1909-1910年のコーホートの3.5人から1923-1924年コーホートの2.5に縮少している。それ以後のコーホートにおいては、家族の大きさの縮少は緩漫化し、1930年代初期のコーホートの家族の大きさは2.3人ないし2.4人であつた。ニュージーランドでは1923-1924年コーホートと1933-1934年コーホートでは家族の大きさに変化はみられないが、スウェーデンでは著しい縮少がおきている。特にノルウェーではその傾向がみとめられる。(II参照)

1920年代後半及び1930年代前半の結婚コーホートにおいては結婚後の初期における家族形成は比較的緩慢であつたがそれは結婚後期間の長くなるにつれて出生率が上昇し、バランスがとれている。ニュージーランド、オーストラリア及びスウェーデンはこの形態を示している。

1930年代中頃以降のコーホートの結婚後5年或は10年後の家族の大きさは、1920年代後半或は1930年代前半のコーホートのそれと比較すると増大している。ニュージーランドやフランスにこの傾向がみられる。

結婚後10年という最近のコーホートの高出生力水準は、結婚持続期間が長くなると共に出生力が低下し、そのために家族の大きさの拡大が

かなり抑制されることは予想される。ただフランスの場合においては、1944年のコーホートは家族の大きさの縮小傾向の少くとも一時的な逆転をみせている。というのは、結婚後10年半というこのコーホートの妻100人当りの出生数は、結婚後14年半という1925年のコーホートのそれよりも多いからである。

一般的にいつて、大戦直後結婚し、7年経過したコーホートの家族の大きさは、1943—1944年頃の結婚コーホートのそれより小さい。しかし、イギリス及びオーストラリア、ニュージーランドの非欧州諸国は例外であつて、戦争終了直後の結婚コーホートの大きさは——同じ結婚持続期間について——その直前のコーホートのそれよりかなり著しい拡大をみせている。

こういつた一般的な傾向や例外は、センサスに基いて行われた分析結果においてもみられる。(表1参照)

最近の結婚コーホートは再生産期間を完了していないから、その終局における家族の大きさの動向をあきらかにするためには、今後の長期結婚持続期間についての出生力の予測が必要である。

オーストラリア、ニュージーランド、ノールウェー、スウェーデンの4ヶ国について終局における家族の大きさについての推計が行われている。1930年代の始め頃から1944年頃までの結婚コーホートについて、もつとも新しい動態統計資料のえられる1954年頃のこれらのコーホートの家族の大きさを基礎として終局における子供数を推計したわけである。この時期における妻100人当りの子供数を、1920—1921年コーホートから1924—1925年コーホートにおける家族形成のパターンからえられる割合でinflateするという方法がとられている。

この推計された家族の大きさの数字は表15のゴチック数字で示されている。本表によると、1940年代初期のコーホートの終局の家族の大きさがそれ以前のコーホートのそれよりも大きくなるという見込みはあまりなさそうである。1930年代及び1940年代初期の結婚コー

ホートについてはむしろ家族の大きさの安定化傾向がみられるようである。

戦後結婚コーホートについては、結婚持続期間が7年またはそれ以下の資料しか利用できないから推計はきわめて困難である。しかし、これらのコーホートにおいては結婚後の初期において家族の大きさの増大がおきているので、少くともたとえばオーストラリアといった国では、戦後結婚コーホートの終局における家族の大きさは戦時コーホートのそれよりも大となる公算が大きい。このことが実現するかどうかは、主としてそれ以前のコーホートに比較しての出生の超過がどの程度まで将来からの借越出生であるかどうかにかかっている。

この点については、明確な結論をだすことはきわめて困難であるが、本書の著者達も、最近の新しいコーホートほど出生率は多少とも高まつており、かつ結婚年齢の低下傾向からして、部分的には出生の借越が行われているとしても、以前のコーホートにみられなかつた新しい家族に対する態度や比較的大きい家族の大きさに対する選択傾向のあることを指摘していることは、注目すべきであろう。



## 5. パリテイ別家族形成

本書の研究対象となつたような高度工業化先進諸国では、多くの夫婦は家族の経済における大きさとか出生間隔とかについてかなり明確な希望、計画をもつていてと考えられる。従つて、このような国の人口の出生力研究においては結婚の頻度や結婚期間の長さ別の有配偶人口の分布のみならず、既有的の子供数も考慮されねばならない。そのためには、家族の大きさ別の出生率の研究、いいかえるとパリテイ別の妻の出生の研究が必要とされる。このような分析は、同時に、家族の大きさ別の家族の相対的頻度の大きさを示してくれる。

しかし、このような研究に堪えるだけの資料をもつてゐるのはごく一部の諸国にすぎない。そのため、ここではできるだけ多くの国を包含しうるように単純な方法が採られている。その方法は次の通りである。

年々の結婚統計から1つの結婚コーホートを構成する女子数を産出し、次にこのコーホートの中で第1子をもつ女子数、すなわち第1子の出生数を年々控除していく。差引残の女子数は、無子であつてなおかつ各結婚持続期間において第1子出生の可能性にさらされているものである。次いで、一定の結婚コーホートに属するパリテイ1の女子数、すなわちこの結婚コーホートにおける出生第1子数は、第2子をもつ同じコーホートの女子数、すなわち第2子出生数だけ年々減少していく。この残は、子供1人だけの女子数、すなわちそれぞれの結婚持続期間の女子人口の第2子出生の可能性をもつてゐるものの数をあらわす。このようにして、特定の結婚持続期間において生ずる特定のパリテイの出生数の、そのパリテイの出生の危険にさらされている女子数に対する割合が算定される。これが結婚持続期間・パリテイ別特殊出生率である。本書では、オーストラリア、オランダ、ノールウェーの3ヶ国についてこの率の計算を行つてゐる。

この方法自体の問題点についてのべておこう。第1に、この方法は、与えられたパリテイの各結婚コーホートが少くともその再生産期間の完了まで完全に残存していることを暗黙に想定している。いいかえると、 $n$ パリテイの子供をもつた女子が $n+1$ パリテイの子供をもつ前に死亡、夫との死別、離別

或は移住といった事象については全く考慮されていないということである。この点からして、家族が1つの大きさから次への大きさへの増加を示すこの割合は「純」率であるといえる。

第2は、家族の大きさの増加の可能性を示すこの率は、1つの結婚コーホートに関するものであるから、なんらかの実際のコーホートに適用されないということである。

このような結婚持続期間別パリティ別特殊出生率によつてある程度出生のタイミングをあきらかにすることができる。というのは、この率は、特定数の子供をもっている女子の、追加される次の子供に対する性向をあらわしているからである。同時に、結婚持続期間についての特殊出生率であるから、結婚持続期間別特定パリティの子供の構成変化によつて影響をうけない。結婚持続期間が主として短いばあいについての分析であるばあいには、ある順位の出生危険にさらされている多くの女子は現実に子供を生むことができると想定しても大過ないであろう。このような分析のばあいには、パリティ別、年数別特殊出生率を基礎とすることが望ましいといえる。しかし、ここではもつぱら第1子出生のタイミングと与えられた家族の大きさの増加率の研究を対象としているので、結婚持続期間の観点からのapproachがとられている。

計算結果のがいやくについてのべておこう。

#### 第1子出生数の割合

これは、一定の結婚持続期間における1つの結婚コーホートの女子の第1子出生数を、この危険にさらされている女子の数で除したものであるが、たとえばオーストラリアでは結婚持続期間2年以内のものでは1940年のコーホートに至るまで、この率は低下してきている。しかし、それ以降の新しいコーホートでは増加を示している。

結婚持続期間が2年以上のばあいにおけるこの第1子出生の割合は、第1次大戦以来顕著に増加の傾向を示している。特にこの傾向はオーストラリアで著しく、次いでノールウェーにみられる。長い結婚持続期間におけるこの第1子出生の割合の増加は、いうまでもなく、第1子出生を先に延期にしよ

うとする長期的傾向を反映しているものである。もつとも、この傾向はごく最近のコーホートではなくなっている。

#### 第2子及び第3子出生の割合

この割合は、第1子のはあいと同様な傾向を示している。オーストラリアでは1930年頃のコーホートに至るまで、この割合は低下し、それ以降の新しいコーホートにおいて増加を示している。

この割合は最近において高まつてきているが、このことはおそらく結婚後早い期間に出生を集中せしめようとする傾向を反映しているものである。

ここで多少問題になるのは、政治的、経済的事情による出生延期、取返しといったタイミングの上述の率に及ぼす影響である。ある国では著しく他の国ではそれ程でないといった差がみられる。オーストラリアでは、出生力の長期的動向の影響の方が異常なタイミングのそれよりも強かつた事実を示している。ノールウェーやオランダではタイミング効果がこの率の正常なコースを逆転させたばあいがある。

#### 第4子出生の割合

タイミングの影響がここでもみられるが、一般的にどの持続期間においてもこの第4子出生の割合は低下している。第4子、第5子に対する効果はもちろん無理されないであろうが、しかしこの割合の強い低下傾向からしてそれ以外の要因の影響も予想しなければならない。

オランダの経験はこの点において興味深い。観察可能期間が短くて、家族形成の長期的動向を仔細にみることはできないが、タイミング効果の最も顕著な事例を示しており、出生のタイミングのメカニズムについて新しい情報を提示している。この例によると、完全に計画された出生の延期、取戻し或は将来からの、越は、タイミング効果を説明するに十分であることを示している。オランダの資料は、むしろ、一定の時期における出生の累積は、一部の女子群の延期出生の回復、他の女子群における出生、ならびにその他の女子群の追加出生によつて生ずるものであることを示している。しかし、これらの要因の一つ一つについて、全体としての「ベビーブーム」に対する相対的貢献度をあきらかにすることはきわめて困難であることはいうまでも

ないであろう。

1946年のオランダの粗出生率は、工業化諸国で今世紀にみられた最高(30.2)のものであつて、これがベビーブームをもたらしたのであるが、これは結婚持続期間の長短や既有子供数のいかににかかわらず、すべての有配偶女子人口に影響を与えたと思われるのである。

ここで注意しなければならないことは、オランダの経験は必ずしもその他の工業諸国における動きの典型的なものとは考えられがたいという点である。というのは、この国では出生率は1933年以来全く低下することとなく、第2次大戦前また大戦中も非常に安定していた。ところが1946年に突如として上昇を示した。しかしその後まもなく以前の安定した水準に復帰したのである。従つて、出生の延期やその後における取返しの顕著な影響があらわれなかつたのも当然といえるかもしれない。しかし、それにもかかわらず、工業国において顕著なベビーブームが、それ以前の時期において著しい出生延期の傾向がなくても、おこりうるという経験は重要な意義をもっている。

#### 6. 家族の大きさの増加確率

再生産期間を通じて、与えられたコーホートがもつそれぞれの順位の出生数を累積加することによつて、完成家族の大きさ別のこの女子人口分布がわかる。さらにこの分布から、家族の大きさの増加確率、すなわちIIでのべた parity progression rates がえられる。動態統計を基礎としたこの確率は、前にものべた如く、「純」確率であるが、IIにおいて示された確率は「粗」確率である。表15ではこの確率が示されているが、これは結婚持続期間10年の経験のみを基礎としたものである。

結婚持続期間10年及び25年の経験を基礎とした家族の大きさの増加の

第15 特定バリテイの女子における追加出生確率

A バリテイ零女子 ( $P_1$ )

結婚年次	オーストラ リア <sup>a</sup>	イギリス <sup>a*</sup>	フィンランド ... <sup>a</sup>	オランダ ... <sup>a b</sup>	ノルウェー ... <sup>a b</sup>	スイス <sup>a b</sup>
1909/1910	82.2	...	...	...	...	...
1919/1920	88.1	...	...	...	...	...
1920/1921	85.3	...	...	...	...	...
1921/1922	82.0	...	...	...	...	...
1922/1923	82.7	...	...	...	...	...
1923/1924	80.8	...	...	...	...	...
1924/1925	80.3	...	...	...	...	...
1925/1926	79.6	...	...	...	...	...
1926/1927	79.5	...	...	...	...	...
1927/1928	80.2	...	...	...	...	...
1928/1929	79.2	...	...	...	77.1	...
1929/1930	81.3	...	...	...	79.7	...
1930/1931	78.4	...	...	...	77.8	...
1931/1932	77.7	...	...	...	78.7	71.7
1932/1933	79.8	...	...	...	77.8	71.4
1933/1934	78.5	...	...	...	77.2	72.1
1934/1935	78.7	...	...	...	78.2	73.1
1935/1936	79.0	...	...	...	78.3	73.0
1936/1937	79.3	...	...	83.2	78.6	73.2
1937/1938	79.3	74.7	...	83.0	77.9	73.5
1938/1939	77.8	70.7	73.7	83.2	78.0	73.1
1939/1940	78.4	81.3	70.8	84.9	77.8	73.7
1940/1941	77.1	73.2	70.1	84.5	81.3	75.1
1941/1942	80.2	75.3	69.0	82.9	84.9	75.6
1942/1943	77.2	72.4	71.6	83.2*	83.9	75.4*
1943/1944	75.9	71.9	77.5	...	84.4	...
1944/1945	77.5*	70.5	65.2*	...	86.8*	...

B バリテイ1の女子 ( $P_2$ )

1909/1910	88.2	...	...	...	...	...
1919/1920	76.7	...	...	...	...	...
1920/1921	68.2	...	...	...	...	...

1921/1922	75.2	...	...	...	...	...
1922/1923	77.1	...	...	...	...	...
1923/1924	76.7	...	...	...	...	...
1924/1925	71.4	...	...	...	...	...
1925/1926	69.1	...	...	...	...	...
1926/1927	70.1	...	...	...	...	...
1927/1928	71.3	...	...	...	...	...
1928/1929	71.7	...	...	...	71.9	...
1929/1930	71.7	...	...	...	69.8	...
1930/1931	74.3	...	...	...	69.6	...
1931/1932	74.1	...	...	...	67.9	72.4
1932/1933	73.1	...	...	...	67.8	73.6
1933/1934	73.4	...	...	...	68.6	73.2
1934/1935	74.8	...	...	...	68.8	75.1
1935/1936	75.0	...	...	...	71.3	76.9
1936/1937	76.6	...	...	79.6	71.4	76.1
1937/1938	76.2	61.4	...	80.8	75.3	79.2
1938/1939	78.8	63.0	82.4	81.3	76.1	79.6
1939/1940	78.3	62.0	80.1	82.1	80.3	75.5
1940/1941	77.8	60.1	78.4	83.6	76.9	79.1
1941/1942	75.7	61.1	80.6	81.8	76.3	79.3
1942/1943	76.8	61.4	79.3	81.6*	75.1	78.0*
1943/1944	78.1	63.9	77.0	...	79.6	...
1944/1945	80.0*	66.3	82.6*	...	76.8*	...

0 パリテイ2の女子 (P3)

1909/1910	73.3	...	...	...	...	...
1919/1920	65.4	...	...	...	...	...
1920/1921	69.0	...	...	...	...	...
1921/1922	62.6	...	...	...	...	...
1922/1923	58.0	...	...	...	...	...
1923/1924	55.0	...	...	...	...	...
1924/1925	57.1	...	...	...	...	...
1925/1926	56.3	...	...	...	...	...
1926/1927	59.2	...	...	...	...	...
1927/1928	56.2	...	...	...	...	...
1928/1929	56.0	...	...	...	54.4	...

1929/1930	54.7	...	...	...	52.6	...
1930/1931	54.2	...	...	...	50.5	...
1931/1932	55.8	...	...	...	51.8	53.9
1932/1933	54.7	...	...	...	49.8	52.3
1933/1934	54.7	...	...	...	50.3	54.5
1934/1935	54.1	...	...	...	49.9	55.0
1935/1936	55.7	...	...	...	51.6	56.8
1936/1937	55.1	...	...	64.7	51.5	59.0
1937/1938	55.7	39.5	...	66.6	50.9	57.7
1938/1939	53.6	38.8	62.0	64.7	50.6	57.1
1939/1940	54.8	35.9	60.7	65.1	50.3	56.5
1940/1941	53.3	35.2	61.7	66.1	49.4	57.7
1941/1942	53.1	35.9	61.9	61.2	49.4	57.4
1942/1943	54.7	38.1	61.7	62.0*	47.9	55.9*
1943/1944	55.9	38.3	65.0	...	47.8	...
1944/1945	55.1*	40.2	60.4*	...	43.5*	...

D パリテイ 3 の女子 (P4)

1909/1910	61.4	...	...	...	...	...
1919/1920	57.2	...	...	...	...	...
1920/1921	52.9	...	...	...	...	...
1921/1925	51.7	...	...	...	...	...
1922/1923	51.7	...	...	...	...	...
1923/1924	52.9	...	...	...	...	...
1924/1925	53.9	...	...	...	...	...
1925/1926	54.8	...	...	...	...	...
1926/1927	50.3	...	...	...	...	...
1927/1928	49.3	...	...	...	...	...
1928/1929	47.1	...	...	...	46.3	...
1929/1930	48.1	...	...	...	44.4	...
1930/1931	49.0	...	...	...	45.7	...
1931/1932	47.6	...	...	...	43.3	49.2
1932/1933	46.8	...	...	...	44.3	50.3
1933/1934	45.7	...	...	...	41.5	48.3
1934/1935	44.9	...	...	...	42.2	48.8
1935/1936	43.8	...	...	...	41.0	49.4
1936/1937	43.8	...	...	57.2	40.8	48.8

1937/1938	43.3	33.8	...	57.3	39.7	49.2
1938/1939	42.3	32.7	52.8	56.3	38.9	48.5
1939/1940	42.2	30.2	52.7	58.4	37.1	47.7
1940/1941	41.9	30.5	54.3	58.4	37.6	48.1
1941/1942	41.1	31.5	53.1	55.4	36.3	47.7
1942/1943	41.6	33.1	52.2	53.8*	35.8	45.7*
1943/1944	43.1	34.3	52.1	...	34.5	...
1944/1945	40.8*	33.9	49.8*	...	32.5*	...

田 パリテイ4の女子 (P5)

1909/1910	50.7	...	...	...	...	...
1919/1920	45.5	...	...	...	...	...
1920/1921	46.4	...	...	...	...	...
1921/1922	48.3	...	...	...	...	...
1922/1923	47.1	...	...	...	...	...
1923/1924	46.2	...	...	...	...	...
1924/1926	46.8	...	...	...	...	...
1925/1926	44.6	...	...	...	...	...
1926/1927	44.2	...	...	...	...	...
1927/1928	45.5	...	...	...	...	...
1928/1929	44.7	...	...	...	...	...
1929/1930	44.7	...	...	...	...	...
1930/1931	41.6	...	...	...	...	...
1931/1932	44.0	...	...	...	...	47.6
1932/1933	41.7	...	...	...	...	47.0
1933/1934	42.6	...	...	...	...	46.7
1934/1935	40.2	...	...	...	...	46.3
1935/1936	41.0	...	...	...	...	42.8
1936/1937	38.7	...	...	54.7	...	44.2
1937/1938	37.7	32.7	...	57.2	...	42.9
1938/1939	38.1	32.1	50.0	53.1	...	45.1
1939/1940	35.9	30.6	48.7	52.8	...	43.6
1940/1941	35.6	29.8	48.4	53.5	...	42.0
1941/1942	35.6	32.0	46.2	50.9	...	43.7
1942/1943	32.5	32.8	48.0	48.1*	...	40.9*
1943/1944	37.6	34.5	48.9	...	...	...
1944/1945	32.4*	33.6	45.2*	...	...	...

備考 a. 表17の注参照 b. 結婚持続期間は1.0.5年  
c. 9年間についてのコーホート



「純」確率を、センサスにもとずいて作製されたこれに対応する粗確率（ノールウェーの1920年代後期の結婚コーホート）と比較してみると次の通りである。

	P <sub>1</sub>	P <sub>2</sub>	P <sub>3</sub>	P <sub>4</sub>
「粗」確率	88.3	77.8	63.7	58.9
「純」確率				
結婚後10年	78.4	70.8	53.5	45.4
結婚後25年	79.4	75.9	64.0	57.2

完成家族の結婚における「粗」と「純」との確率の差は、第1子出生の確率のほあいは別として、非常に少ないこのことは、少なくともノールウェーでは、「粗」出生率を「純」出生率（こゝで使用されている意味での「純」、「粗」）との間の主たる差異の原因となる無子夫婦の結婚解消が比較的高いということを示している。同時に、無子の死離別女子がしばしば再婚し、また同時に有子の死離別女子がその後の結婚においてしばしば無子であるということもありうる。従つて、これが事実であるとするならば、第1子出生の確率は再婚する女子の特殊の行動によつて強く影響をうけるが、少なくとも1子をもつた女子の2子以上の出生確率は、初婚、再婚といった事情によつて影響をうけないということになる。

次にパリティ別の増加確率についてのべてみよう。

パリティが零および1であるものについてみると、結婚持続期間10年を基礎として推計された家族の大きさの増加確率の結婚コーホートについて算定されたこの増加確率との間では著しい差はみられない。しかし、より高次のパリティにおいては著しい差がある。この高次パリティの家族の大きさの増加確率の解釈に際しては注意しなければならない点は、第3子とか第4子は結婚後10年以上先に延期される可能性があるということである。しかし、結婚後の短期間の経験を基礎にしてみると、これらの出生が単に延期されたものか或は排除されたものかどうかの判断は不可能である。

表16に示されているオーストラリアは1920年代後期の結婚コーホートについて家族の大きさの増加確率の算定できる唯一の国であるが、この国

の動向は、センサス data からえられたノールウェーについての結論(Ⅱ参照)を確認しているようである。ノールウェーにおけると同様に、オーストラリアの家族の大きさの増加確率は1920年代の中頃あるいは後期に至るまですべてのパリティにおいて低下している。ただオーストラリアのばあい、1909-1910年のコーホートにみられる第1子の低水準確率ないしは無子の高率のみが上述のパターンからはずれているようである。このコーホートの第1子確率は82.2%ているが第2子をもつ確率88.2%より著しく低い。ただ1つのコーホートから長期的な結論は出しえないにしても、次のような見解は産婦人科によつて広く支援されているということを指摘しておく必要があるであろう。第1次的不妊は第2次的不妊よりも頻度が高いということ、すなわち、出生調節や老令による生理学的不妊が存しなければならないばあいには、新しく結婚したものが最初の子供をもつチャンスは、少くとも1人の子供をもつた後に次の子供をもつ女子のチャンスよりも低いという主張である。

センサス data で観察されたコーホートよりも新しい最近のコーホートにおいては、家族の大きさの増加確率は、パリティによつて異なつた傾向を示している。

1子または2子をもっている女子で次の子供をもつたものの割合は、1920年代のコーホートから最近のコーホートに至るまで多くの諸国でかなり安定している。最近のコーホートの中には第2子の確率がおきている。すなわちオーストラリアでは1926-1927年の結婚コーホート以来、ノールウェ、スイスでは1937-1938年のコーホートから、イギリス及びフィンランドでは1944-1945年のコーホートにおいてこの傾向がみられる。

家族の大きさの増加確率のもつとも大きい変動と各国における動きのもつとも著しい差異は、最初のパリティにみられる。ノールウェーでは、少くとも1子をもつた女子の割合はわずかに11年間の差のあつた結婚コーホート間で77%から38%に増加している(1933-1934年コーホートと1944-1945年コーホート)。イギリスでは戦前の1938-1939

年コホートから戦時結婚の最初のコホート（1939—1940年）の間において同様な増加（71%から81%）がみられる。しかし、イギリスのこの増加は例外的とみられる。というのは、すでに1944—1945年コホートにおいて少なくとも1子をもっている女子の割合はほぼ戦前の水準である70%に低下している。ノールウェーとスイスにおいては少なくとも1子をもった女子の割合は、1933—1934年以降のコホートにおいて堅実な上昇をみせている。しかし、オーストラリア、フィンランド及びオランダではこの割合は、1930年代及び1940年代の結婚コホートにおいては、このような傾向を示していない。

#### 7 無子結婚コホートの動向

第1子出生確率の変動性や、少なくとも1子をもつ確率が家族の平均的大きさに及ぼす影響の重要性、といった観点からして、無子となるコホートの確率についての分析が必要であろう。

第1子のタイミングに著しい変化がおきていることはすでにのべてきたところであるが、このタイミングの変化が終局的に少なくとも1子をもつ女子の割合に影響を与えたかどうかは、結婚持続期間別特殊第1子出生率を算定することによつて知ることができる。附表3はこの率を示したものである。

少なくとも1939年頃の結婚コホートについての資料をもつ国についてみると、一般にこの無子コホートの割合は、最近の戦前コホートよりも低い。この低下傾向は、最低限に達するまで続き、その後著しくはないが堅実な増加を示している。すべての結婚持続期間別にみて最低の無子率を示している戦後コホートは、イギリスの1946—1947年、フィンランドの1945—1946年、オランダの1944年、ノールウェー、スイスの1945年である。

これらの諸国における無子夫婦の割合の動向は表16に示されているが、ここでは最低限に達するまでの継続的低下がみられる。しかし、イギリスにおいては1943年のコホートの結婚後1年間の無子夫婦の割合は、以前のコホートよりも低くなつてはいるが、1年以上の結婚持続期間においては

表16 各結婚持続期間において少くとも1子をもつた女子の割合(指数)

(1938/1939または1939-100)

結婚持続 期間(年)	結				婚		
	1909/1910	1923/1924	1928/1929	1933/1934	1938/1939	1943/1944	1944/1945
					オーストラリア*		
1	129	122	117	108	100	89	99
3	115	110	107	104	100	100	103
5	109	107	104	101	100	99	100
7	108	105	103	101	100	99	100
10	105	104	101	101	100	97	
15	105	103	101	100	100		
					イギリス*		
1				113**	100	107	108
3				107**	100	115	113
5				106**	100	108	105
7				104**	100	113	100
9				106**	100	101	100
					フィンランド*		
1					100	112	100
3					100	112	94
5					100	109	91
7					100	105	89
10					100	105	
					フランス*		
1							
3							
5							
7							

年				次			
1945/1946	1946/1947	1947/1948	1948/1949	1949/1950	1950/1951	1951/1952	1952/1953
107	113	111	110	110	109	110	109
104	110	110	110	112	109		
103	108	109	109				
103	108						
123	128	125	115	112	108	92	91
118	120	118	111	111	109		
119	113	111	105				
106	107						
120	120	117	115	114	116	122	121
118	111	109	108	106	109		
114	107	106	104				
110	104						
100	98	100	100	98	96	95	96
100	97	99	97	97	96		
100	97	99	99				
100	97	99					

結婚持続 期間(年)	1910	1924	1929	ニュージーランド*			
				1934	1939	1944	1945
1						100	107
3						100	104
5						100	104
7						100	104
オランダ*							
1.5					100	125	121
3.5					100	114	111
5.5					100	108	105
7.5					100	105	102
ノールウェー*							
1.5				105	100	122	126
3.5				101	100	116	119
5.5				101	100	112	116
7.5				99	100	111	113
10.5				99	100	118	
15.5				100	100		
スイス*							
1.5	—	—	—	103	100	122	122
3.5	—	—	—	97	100	110	110
5.5	—	—	—	96	100	106	104
7.5	—	—	—	97	100	104	104
10.5	—	—	—	99	100		

備考 a フランス及びニュージーランドだけは、それぞれ1945、1946

\* 表17の注参照

\*\* 結婚年次は1937/1938

119	119	113	112	110	110	109	109
111	110	107	106	107	106		
111	109	107	105				
112	111						
1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953
117	111	106	104	104	104		
106	103	101	101				
100	99						
116	114	111	114	114	116	119	117
112	109	109	110	113			
108	107	105	108				
105	104						
120	122	117	118	118	117	...	...
108	108	106	106	...			
104	104	...	...				

及び1943/1944を基礎年次としている。

1943—1944年コホートの方が高くなっている。フィンランドの1944—1945年コホートのどの結婚持続期間においても無子夫婦の数は、それ以前のコホートよりも比較的多かった。

オーストラリア、ニュージーランドといった非欧州系諸国では多少とも異なつた動きがみられる。

オーストラリアでは、戦後における無子の低下は1945—1946年のコホートから始つているが、その翌年のコホートにおいて無子夫婦の割合は最低率を示している。それ以降では多少不規則な動きを示しており、どちらかといえば増加傾向よりは安定状態を示している。ニュージーランドでもほぼ同様な動きがみられる。1945—1946年コホートでは無子夫婦の割合は最低率を示し、それ以降1948—1949年コホートまで増加が増え、その後は1943—1944年コホートより多少高い水準に安定する傾向を示している。

結婚後5年にしてなお無子である夫婦の割合は、イギリスを除くすべての国において戦前最後のコホートのそれよりも低い水準で安定しているように思われる。ニュージーランドおよびフランスをも除いて、1939年コホートと比較した戦後無子率の低下傾向は、結婚後1年といったところでもつとも著しく、持続期間の長くなるに従つておおむねかんまん化している。これは、最初の出生のタイミングの変化を示している。というのは、粗出生率の戦後ピークの時期において最初の出生が結婚の初期に集中し、再生産期間において少なくとも1子をもつ女子の割合にはあまり変化がないということはおそらくであるからである。しかし、少なくとも1子をもつた家族が相対的に増大するといった決定的な傾向が進んでいるという確証はみいだせない。コホートの高年齢の段階における無子夫婦の相対数はほぼ同様で変化がないからである。

1つの結婚コホートの中で終局において無子状態でとどまる可能性は、戦後コホートにおける第1子をより早期にもつものの割合の著しい増加傾向によつて著しく減少する。

オーストラリアは、1909—1910年の結婚コホートから資料が利



用できる唯一の国であるが、この国の無子夫婦のより長期的な動向を推測することができる。この国の1946—1947年コーホートは、少なくとも1子をもつた女子の割合は非常に高かつたが（戦後において最低の無子率が記録された）、それにもかかわらず、このことから終局において無子でおわる夫婦の割合の低下は予測されそうもないと思われる。というのは、このコーホートはどの結婚持続期間においても最近のいずれのコーホートよりも無子夫婦の数は著しくわるかつた。事実、1946—1947年コーホートは、特定の結婚持続期間において無子である夫婦の割合の長期的増加傾向が逆に転じた最初のコーホートは、1946—1947年グループが樹立した最低無子率を上廻つた水準を示している。従つて、今までの利用しうる資料による限り、無子率低下傾向が明確に持続するという強い根拠はないように思われる。

以上のことからもつとも重要な事実と思われることは、どの結婚持続期間においても少なくとも1子をもつた女子の割合が最高率を示している戦後のコーホートは、粗出生率のピークの時期あるいは丁度その直前のコーホートであり、結婚初期において終局無子率低下への傾向を示していると思われるものは実は主として結婚後短期間における第1子出生の前取りであると思われることである。

#### VIII 出生コーホートの出生力

出生コーホートによる出生力研究方法の特徴は、人口内の有配偶女子のみならずすべての女子を包含せしめることができるという点にある。従つてこの方法は、人口の再生産実行のもつとも適切な測定方法の1つと考えられる。コーホート再生産率算定の基礎を提供することとなる。しかし、他方において出生コーホートを基礎とする出生力研究は、結婚コーホートのばあいとは異なり、結婚慣習の変化の影響をうけるという欠点をもっている。

再生産期間を完了したもつとも最近の結婚コーホートは約20年ないし25年前に結婚したものであることに注意しなければならない。出生の大部分は結婚後最初の5年間におきているということは、結婚コーホートの示す出

生力は、分析時より約20年前の状態を示すものといえよう。年齢コーホートのばあいにおける再生産期間を完了した最近のコーホートは、調査時において45歳の女子群である。ところで、子供の大部分が25才前後の期間において出生するものとする、出生コーホートの資料は主として約20年前の状態を反映しているということになる。

母の年齢別出生数の年統計を基礎として、出生コーホートの出生力動向を考察したものが附表4に示されている。本表は、1890年ないし1930年頃の出生コーホートの特定年齢女子100人当りの生産数を示したものである。フィンランドとスウェーデンではこの期間の全コーホートについて観察可能である。ここで示されたよう5才階級別についてのコーホートの年齢より特殊出生率は、一般に、各才階級の女子の生数に関する年統計と女子人口の推計ともどずいて算定される。しかし、特に古い時期については母の年齢別出生数に関する資料は5才階級別でしか示されていないため、このばあいには各才別出生数を算出するために補間が行われた。

#### 1. 母の年齢別特殊出生率

表17に示された特定年齢階級についての特殊出生率は、この出生コーホートに属する100人の生存女子当りの、この年齢群の生産者を示している。従つてこれは純特殊出生率である。X年にn年齢で1子をもつた女子はX-n年あるいはX-n-1年に生れているのであるから、表19の出生コーホートは、2年間に生れた女子コーホートである。表20は、表19を基礎として作製されたもので、約5年間にわたる各コーホートについての5才階級別のコーホート年齢別特殊出生率をあらわしている。

各コーホートの家族形成のパターンは一様ではないようである。しかし、どの年齢における出生率も、その年齢に到達した年次に依存する傾向が非常に強い。その年次においては、いずれのコーホートもその年次自体の特殊性の影響をうけて、出生率は同じ方向に動いている。たとえば、1930年代初期の経済的不況は、表20にみられるように、この期間における比較的低水準の出生率に反映されている。20-24歳階級の最低出生率は、1930

表17 1890—1943年頃の出生コホート(5年間)の特定年齢期間  
における女子100人当り生産数

国 別	女子の出生年次	15才の時													
		15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	女子の年齢(子供の出生時における)						
		の年次													
オーストラリア	1892/1893-1893/1894	1908-1909	14	67	82	64	36	11	1						
	1894/1895-1898/1899	1910-1914	14	61	80	56	29	10	1						
	1899/1900-1903/1904	1915-1919	13	65	73	48	29	11	1						
	1904/1905-1908/1909	1920-1924	14	59	62	49	33	11							
	1909/1910-1913/1914	1925-1929	14	51	67	59	34								
	1914/1915-1918/1919	1930-1934	12	56	80	61									
	1919/1920-1923/1924	1935-1939	12	68	90										
	1924/1925-1928/1929	1940-1944	13	83											
	1929/1930-1933/1934	1945-1949	18												
カナダ	1905/1906-1908/1909	1921-1924	16	69	76	60	48	16							
	1909/1910-1913/1914	1925-1929	15	59	75	67	44								
	1914/1915-1918/1919	1930-1934	13	62	85	70									
	1919/1920-1923/1924	1935-1939	15	77	100										
	1924/1925-1928/1929	1940-1944	17	91											
	1929/1930-1933/1934	1945-1949	23												
フィンランド	1889/1890-1893/1894	1905-1909	11	63	83	75	51	22	3						
	1894/1895-1898/1899	1910-1914	10	56	80	64	42	20	3						
	1899/1900-1903/1904	1915-1919	9	55	70	54	40	20	2						

表17の2

1904/1905-1908/1909	1920-1924	9	49	61	55	43	21
1909/1910-1913/1914	1925-1929	8	46	66	64	48	
1914/1915-1918/1919	1930-1934	8	52	75	70		
1919/1920-1923/1924	1935-1939	8	60	91			
1924/1925-1928/1929	1940-1944	9	78				
1929/1930-1933/1934	1945-1949	13					
ニホンシロコブ							
1904/1905-1908/1909	1920-1924	9	53	67	57	39	13
1909/1910-1913/1914	1925-1929	9	48	76	67	41	
1914/1915-1918/1919	1930-1934	9	58	88	72		
1919/1920-1923/1924	1935-1939	10	67	107			
1924/1925-1928/1929	1940-1944	10	89				
1929/1930-1933/1934	1945-1949	14					
スエーデン							
1889/1890-1893/1894	1905-1909	10	55	74	58	34	12
1894/1895-1898/1899	1910-1914	9	53	64	46	27	11
1899/1900-1903/1904	1915-1919	9	47	52	40	27	12
1904/1905-1908/1909	1920-1924	9	40	47	43	33	11
1909/1910-1913/1914	1925-1929	9	38	52	54	30	
1914/1915-1918/1919	1930-1934	9	44	68	50		
1919/1920-1923/1924	1935-1939	11	58	69			
1924/1925-1928/1929	1940-1944	15	62				
1929/1930-1933/1934	1945-1949	18					

7	1899/1900-1903/1904	1915-1919	21	77	69	45	27	9	1
	1904/1905-1908/1909	1920-1924	22	68	60	48	28	10	
	1909/1910-1913/1914	1925-1929	19	60	62	51	31		
	1914/1915-1918/1919	1930-1934	17	64	73	55			
	1919/1920-1923/1924	1935-1939	19	76	87				
	1924/1925-1928/1929	1940-1944	20	75					
	1929/1930-1933/1934	1945-1949	28						

年代の初期を平均して22歳であつた1909/1910—1913/1914年の各コーホートにみられるし、1904/1905—1908/1909年の各コーホートの25—29歳における最低出生率は、1930年代の初期に平均27歳であつたこれらのコーホートにみられる。同様に、戦争直後の出生力の上昇は、それぞれの年齢水準のすべてのコーホートに影響を与えている。この上昇は、5年間のコーホートを示している表20ではあまり明瞭ではないが、表19の各年コーホートの結果に、より明瞭にあらわれている。特にこの傾向はスウェーデンにおいて顕著である。

表18は、出生コーホートの特定年齢別の出生率を示したものであるが、これは再生産期間経過の過程における家族形成の状態をあらわしている。分析的において資料の利用できない再生産期間末経過のコーホートについては、その残存再生産期間における出生の予測が行われた。これは次のような仮設にもとずいている。再生産期間末経過のコーホートがその到達した年齢において、1894/1895—1898/1899年のコーホートが同じ年齢でもつた終局家族の大きさに対する割合を、達成したものとす。この1894/1895—1898/1899年コーホートを基準にとつた理由は、その再生産期間の大部分を終了していることと、家族形成の見地からもつとも重要な時期を、生活水準のかなり安定していた1920年代で経過しているということである。事実、1930年代初期の経済不況期においてはこれらのコーホートはすべて35歳頃に到達しているし、それ以降の再生産期間における追加出生数はそんなに大きくないと予想される。また、こゝで採用された家族の大きさに対する比例的追加の仮定はそんなに不合理ではないようである。再生産期間末経過のコーホートの終局における家族の大きさの推計計についてはいろいろな方法が提案されているが、この方法は再生産期間内の各段階における出生割合の不変という単純な仮設以外になんらの仮設も必要としないし、この割合の変動の動向については今までのところほとんど十分な研究は行われていないので、この仮設以外のなんらから仮設の下にモデルを作ることは不可能に近い。(もちろん、事実において一部の諸国では出生が若い年齢期に集中する傾向がみられるが)。

表1.8 出生コホートにおける特定年齢までの女子100人当り生産数

(累積出生率)

国 別	出 生 年 次	15才の時 の年次	各年齢までの累積出生率						
			20	25	30	35	40	45	50
オーストラリア	1892/1893-1893/1894	1908-1909	14	81	163	227	263	274	275
	1894/1895-1898/1899	1910-1914	14	75	155	211	240	250	251
	1899/1900-1903/1904	1915-1919	13	78	151	199	228	239	240
	1904/1905-1908/1909	1920-1924	14	73	135	184	217	228	229
	1909/1910-1913/1914	1925-1929	14	65	132	191	225	234	235
	1914/1915-1918/1919	1930-1934	12	68	148	209	238	247	249
	1919/1920-1923/1924	1935-1939	12	80	170	231	263	274	275
	1924/1925-1928/1929	1940-1944	13	96					
カナダ	1905/1906-1908/1909	1921-1924	16	85	161	221	264	280	
	1909/1910-1913/1914	1925-1929	15	74	149	216	260		
	1914/1915-1918/1919	1930-1934	13	75	160	230			
	1919/1920-1923/1924	1935-1939	15	92	192				
	1924/1925-1928/1929	1940-1944	17	108					
フィンランド	1889/1890-1893/1894	1905-1909	11	74	157	232	283	305	308
	1894/1895-1898/1899	1910-1914	10	66	146	210	252	272	275
	1899/1900-1903/1904	1915-1919	9	64	134	188	228	248	250
	1904/1905-1908/1909	1920-1924	9	58	119	174	217	238	241
	1909/1910-1913/1914	1925-1929	8	54	120	184	232	250	253

表18の2

1914/1915-1918/1919	1930-1934	8	60	135	205	246	265	268
1919/1920-1923/1924	1935-1939	8	68	159	229	274	296	299
1924/1925-1928/1929	1940-1944	9	87					
ニモーション	1904/1905-1908/1909	1920-1924	9	62	129	186	225	238
	1909/1910-1913/1914	1925-1929	9	57	133	200	241	
	1914/1915-1918/1919	1930-1934	9	67	155	227		
	1919/1920-1923/1924	1935-1939	10	77	184			
	1924/1925-1928/1929	1940-1944	10	99				
スエーデン	1889/1890-1893/1894	1905-1909	10	65	139	197	231	244
	1894/1895-1898/1899	1910-1914	9	62	126	172	199	211
	1899/1900-1903/1904	1915-1919	9	56	108	148	175	188
	1904/1905-1908/1909	1920-1924	9	49	96	139	172	184
	1909/1910-1913/1914	1925-1929	9	47	99	153	183	194
	1914/1915-1918/1919	1930-1934	9	53	121	171	198	210
	1919/1920-1923/1924	1935-1936	11	69	138	188		
	1924/1925-1928/1929	1940-1944	15	77				
アメリカ	1899/1900-1903/1904	1915-1919	21	98	167	212	239	248
	1904/1905-1908/1909	1920-1924	22	90	150	193	221	231
	1909/1910-1913/1914	1925-1929	19	79	141	192	223	
	1914/1915-1918/1919	1930-1934	17	81	154	209		
	1919/1920-1923/1924	1935-1939	19	95	182			
	1924/1925-1928/1929	1940-1944	20	113				

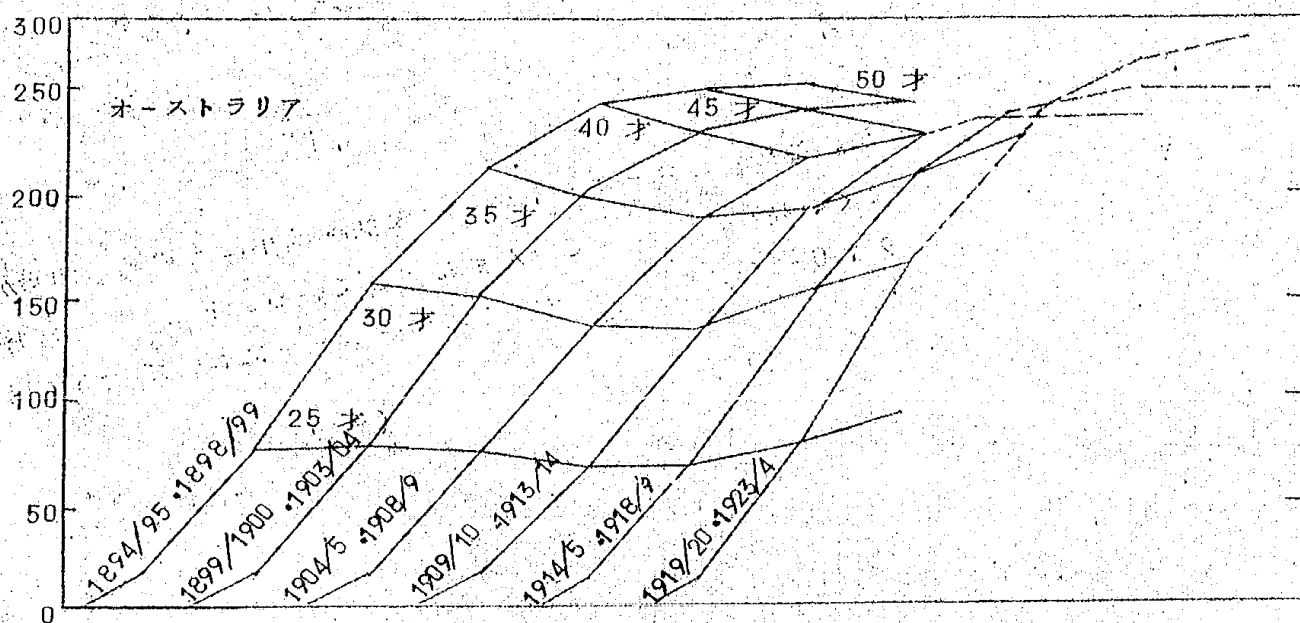
備考 ゴジク数字は予測を示す。

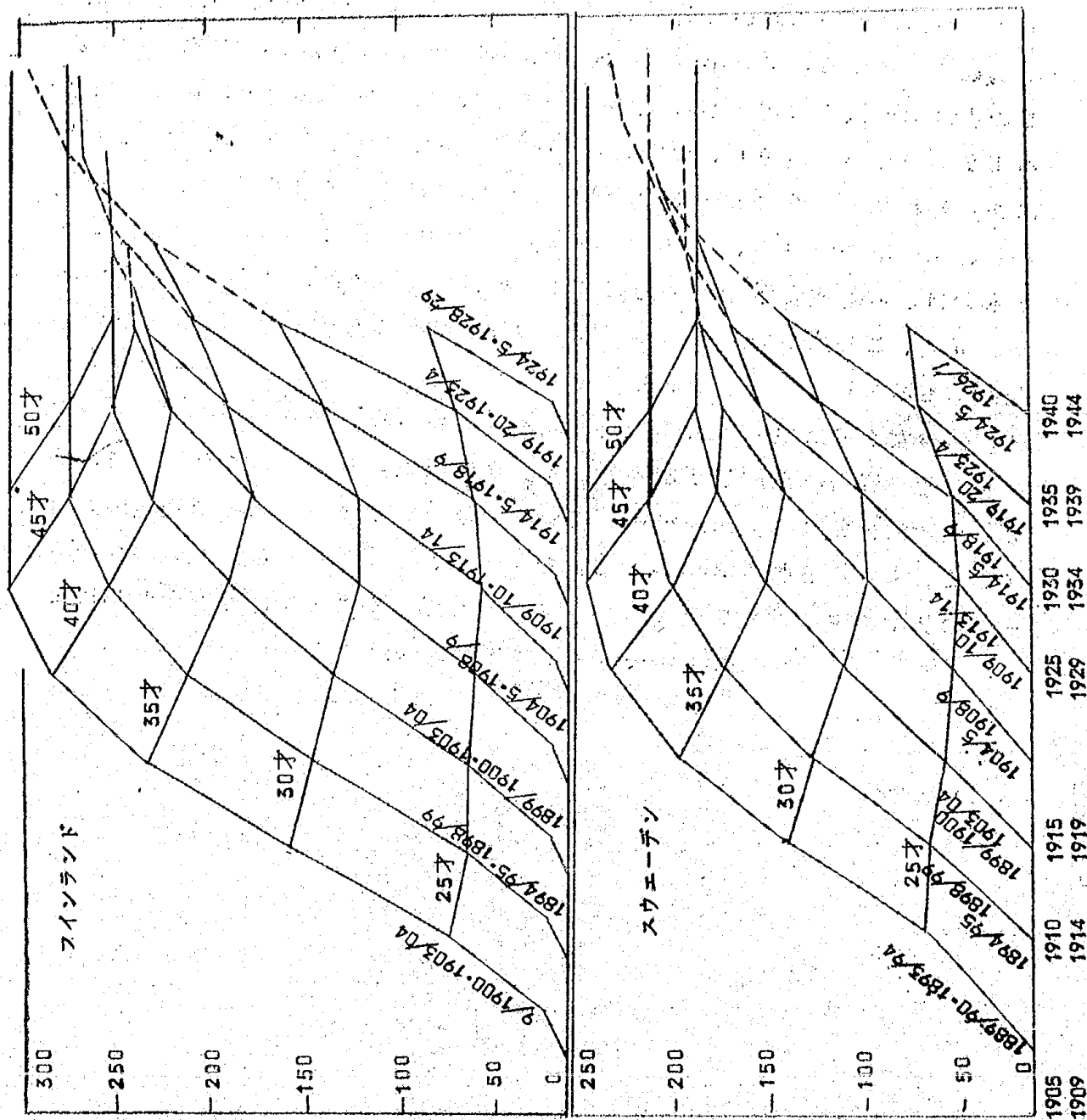


19世紀の終りおよび20世紀始めのコーホートにおいては、上掲諸表にみられるように、特定年齢別にみた出生率は急激な低下をみせている。その傾向は特に高年齢において著しい。しかし、最近のコーホートではこの傾向の逆転がみられる。若い年齢層においてまず増加の傾向があらわれている。この点は有配偶人口の出生率の上昇の開始についてのⅢにおける結果と矛盾するようにみえる。つまり、出生率の上昇がすべてのコーホートにおいて同年にあらわれたということがⅢの分析において結論されているからである。しかし、出生率の上昇が、出生コーホートにおいて始めてあらわれる時期というものは、有配偶女子の出生力のみならず、結婚の動向に依存するからである。事実、この出生力上昇の数年前から結婚年齢は低下しているし、終局有配偶率も増加しているのである。このような結婚の静態、動態の変化の影響が、若い女子の出生率の早期上昇に反映されているのである。

本研究で資料の利用しうるもつとも最近の出生コーホートに至るまで、終局家族の大きさは縮小傾向を続けてきた。しかしこの低下傾向の逆転が始つていとみられる強い兆候がある。たとえば、次図にみられる最近のコーホートの累積出生率曲線が特に強い傾斜を示していることからもうかがわれよ

出生コーホートの累積特殊出生率





う。これらのコーホートの出生率曲線は単にその上向傾向がはげしいだけでなく、高年齢においてかんまん化している。新しい出生秩序が1909/1910-1913/1914年コーホートにおいて始めて出現してきた。

かし、もつともこれ以前のコーホートでは、彼等が25才ないし30才頃に経済不況期に直面してその出生を延期し、かつそれ以降において十分に取戻しを行いえなかつたという理由で、終局家族の大きさが不当に小さかつたとも考えられる。

最近のコーホートが示す新しい出生力の動向は、たとえば、スウェーデン、フィンランドについての1919/1920—1923/1924年コーホートの未経過再生産期間の出生力の影響にみられる。すなわちこのコーホートの終局家族の大きさは、1889/1890—1893/1894年のコーホートのそれとほとんど等しくないことが予想されるし、オーストラリアではより大きくなる可能性がみられる（前掲図参照）。

出生コーホートについての今までの分析結果にあらわれた家族の大きさの動向は、結婚コーホートにおける結論と等しい。しかし、最近のコーホートの家族の大きさの拡大傾向は、出生コーホートの分析においてより明瞭にあらわれているようである。この差は大部分の年齢における有配偶女子人口の割合の増加によるものである。結婚の増加は、出生コーホートの女子1人当りの子供数を増大せしめるが、しかし有配偶人口のみに出生が関連している結婚コーホートの出生力と同様な傾向が必ずしもおきてくるとは限らない。終局家族の大きさになんらかの変化がないばあいにおいてさえ、結婚年齢の最近の低下は若い年齢の出生コーホートの出生力上昇をもたらす可能性がある。また、この要因は累積出生率曲線の傾斜を強くする影響が予想され、終局家族の大きさの予測の信頼性を損うことにもなるであろう。

この出生コーホートの出生力についての以上の分析結果において注意しなければならない点は、上述の累積出生率は1つの出生コーホートの内部における各年齢の出生率の合計であるが、死亡女子が考慮されていないため、出生コーホートの全女子の家族の平均的大きさを示さないということである。

人口の再生産の動向分析に当つて必要なことは死亡率の条件考慮である。死亡率の不断の低下結果として上述の対象諸図の人口再生産力低下は、出生力低下で示されたよりも軽度であるし、また最近年におけるその上昇は出生力にみられるよりももつと高いと考えてよいであろう。この点においては、

出生をもつ平均年齢の低下は、出生率の低下のそれとほぼ同様な影響を  
ついているといえるであろう。

## 2. パリテイ別家族形成

パリテイによる家族形成、すなわち出生順位別のコーホートの構成の研究  
に対してさらに、出生コーホートの家族の大きさの研究を行うことによつて、  
家族形成の最近の動向を一層明確に観察することができる。

しかし、このような考察を長期にわたつて行いうるだけの資料をもつてい  
る国は少いことと、計算方法の複雑のため、ここでは行われていない。ただ、  
P. K. Whelpton が行つたアメリカの分析結果が利用されている。

Whelpton は1920年以降について、パリテイ別、各才別の白人女子  
人口及び年齢別、パリテイ別の登録出生数の推計を行つた。ここでは出生コ  
ーホートの累積出生率による考察が行われている。

表19は、5年間をグループとしてこの期間に生れた女子の各年齢に生残  
する100人の妻当りの各パリテイの出生数を示したものである。また次掲  
図は、これらのコーホートにおける各年齢における家族形成を図示したもの  
である。これは、各年齢において第1子、第2子、第3子第4子及び第5子  
をもつたこれらのコーホートの女子の割合をあらわしている。

出生力の低下は、高いパリテイにおいてもつとも顕著である。4子をもつ  
た女子の割合は、1891-1895年のコーホートの女子100人につ  
いて29から、1906-1910年コーホートの20に低下している。同じ  
コーホートにおいて、5子をもつたものの割合は20から12に低下してい  
る。他方において、100人の女子当りの第1子の割合の低下はほとんどみ  
とめられない。少くとも1子をもつたものの割合は、1891-1895年  
に生れた女子100人当り79から、1906-1910年に生れたもの  
についての77に低下したにすぎない。

各年齢の女子の出生力においては多少とも平行的な変化を示していること  
は表20からみとめられる。結婚コーホートの内部における出生分析におい  
ても同様なパターンがあきらかにされた。本表の資料は、与えられた年齢の

表19 出生コホートにおける特定年齢までの  
 出生順位別出生数(女子100人当り)  
 —アメリカ、白人女子—

出生年次	各年齢までの累積出生率						
	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49
		<u>総出生数</u>					
1891-1895 <sup>a</sup>	5	56	134	202	245	266	270
1896-1900	5	53	133	194	230	247	251
1901-1905	4	56	128	180	211	227	231
1906-1910	5	53	115	164	199	217	221
1911-1915	5	45	106	164	205	222	
1916-1920	4	45	119	186	228		
1921-1925	4	52	139	213			
1926-1930	4	64	164				
1931-1935	7	79					
1936-1940	8						
		<u>第1子出生数</u>					
1891-1895 <sup>a</sup>	4	35	62	74	78	79	79
1896-1900	4	34	62	72	76	77	77
1901-1905	4	36	60	70	75	76	76
1906-1910	5	34	57	69	75	77	77
1911-1915	4	30	56	76	78	80	
1916-1920	4	31	62	79	84		
1921-1925	4	35	72	85			
1926-1930	4	43	76				
1931-1935	6	48					
1936-1940	7						
		<u>第2子出生数</u>					
1891-1895 <sup>a</sup>	—	15	37	52	58	60	60
1896-1900	—	14	37	51	56	58	58
1901-1905	—	14	36	48	53	55	56
1906-1910	—	13	32	45	52	56	56
1911-1915	—	11	29	46	57	60	
1916-1920	—	11	34	55	65		

1921-1925	—	13	42	65
1926-1930	—	16	52	71
1931-1935	—	22	—	—

第3子出生数

1891-1895 <sup>a</sup>	—	5	19	33	39	41	42
1896-1900	—	4	19	31	37	38	39
1901-1905	—	4	18	28	33	35	35
1906-1910	—	4	15	24	30	33	34
1911-1915	—	3	13	23	32	35	—
1916-1920	—	3	14	27	38	—	—
1921-1925	—	4	16	35	—	—	—
1926-1930	—	4	23	—	—	—	—
1931-1935	—	7	—	—	—	—	—

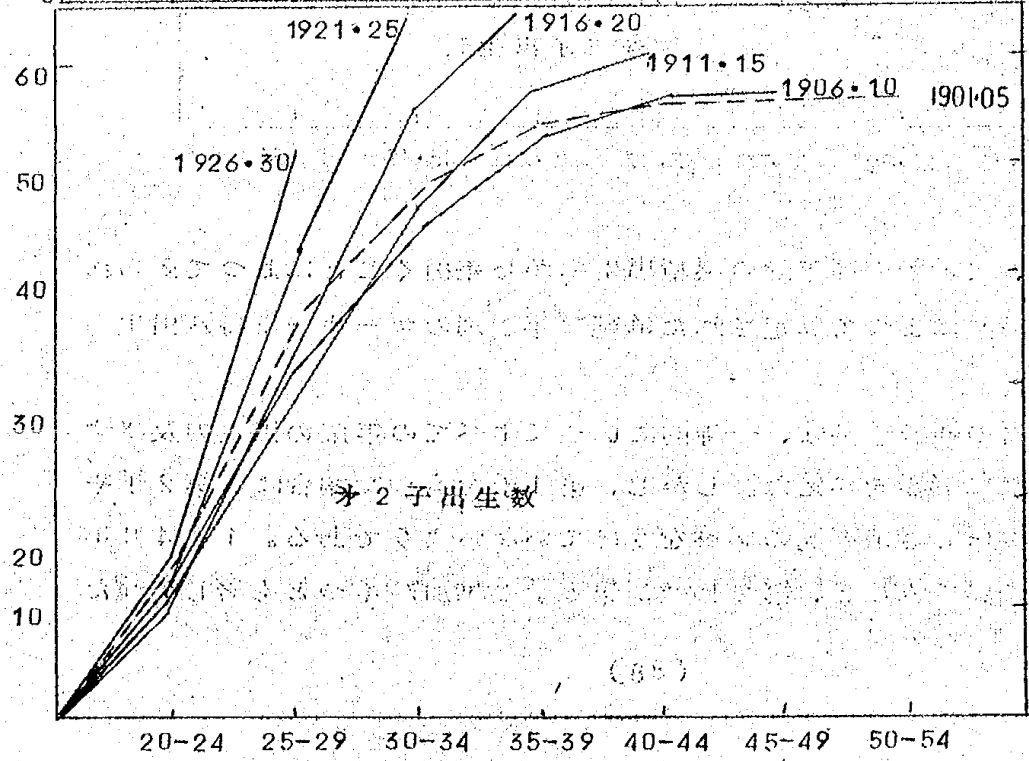
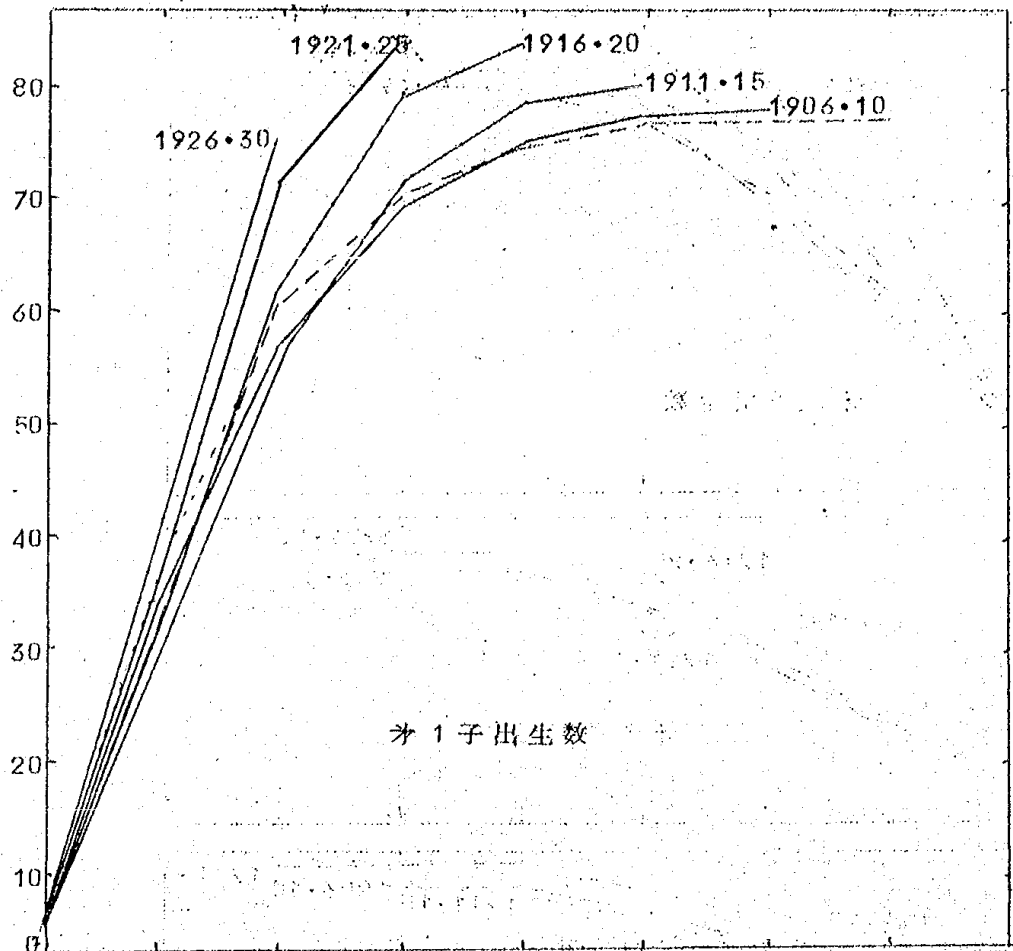
第4子出生数

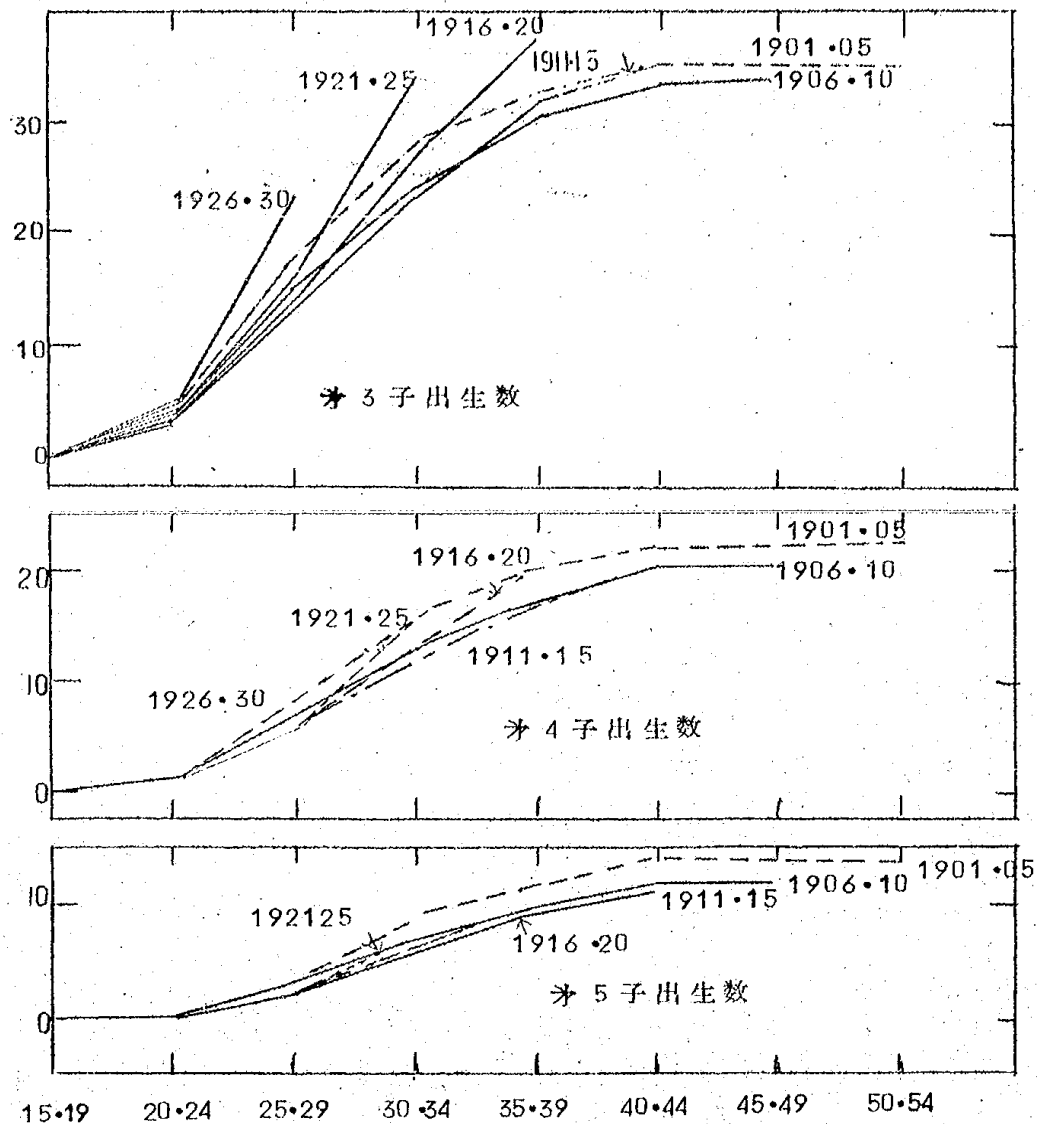
1891-1895 <sup>a</sup>	—	1	9	20	26	28	29
1896-1900	—	1	9	18	23	25	26
1901-1905	—	1	8	16	20	22	22
1906-1910	—	1	7	13	17	20	20
1911-1915	—	1	6	12	17	20	—
1916-1920	—	1	6	13	20	—	—
1921-1925	—	1	6	16	—	—	—
1926-1930	—	1	9	—	—	—	—
1934-1935	—	2	—	—	—	—	—

第5子出生数

1891-1895 <sup>a</sup>	—	—	4	11	17	19	20
1896-1900	—	—	4	11	15	17	17
1901-1905	—	—	3	9	12	14	14
1906-1910	—	—	3	7	10	12	12
1911-1915	—	—	2	6	9	11	—
1916-1920	—	—	2	6	10	—	—
1921-1925	—	—	2	7	—	—	—
1926-1930	—	—	3	—	—	—	—

備考 aは暫定数





累積出生率を、次段階の高年齢の累積出生率から差引くことによつてえられたもので、間接法によつて算定された単純な年齢別のコーホート特殊出生率である。

1930年代の経済恐慌は、一時的にいつてすべての年齢の出生力及びすべての出生順位に影響を与えた。しかし、第1子をもつた割合は、第2子や第3子のばあいほど経済不況の影響をうけていないようである。1940年代の恢復期についてみると、第2子及び第3子の増加がもつとも著しかった



が、第1子及び第5子その他の高出生順位の出生に対する影響は比較的軽微であつた。

注 Whelpton の研究の詳細については、“Cohort Fertility Native white women in the United States” by P.K. Whelpton, Princeton University Press, 1954 参照。

表20 アメリカ白人女子出生コーホートの出生順位別出生数(女子100につき)

子供出生年次	年 齢 区 分				
	15-19から 20-24まで	20-24から 25-29まで	25-29から 30-34まで	30-34から 35-39まで	35-39から 40-44まで
	<u>総出生数</u>				
1920-1924	52	80	68	49	30
1925-1929	48	72	61	43	26
1930-1934	41	62	52	36	21
1935-1939	41	61	49	32	17
1940-1944	48	74	57	35	16
1945-1949	59	87	67	41	19
1950-1954	72	101	74	42	18
	<u>第1子数</u>				
1920-1924	32	28	12	4	1
1925-1929	29	25	11	4	1
1930-1934	26	23	10	4	1
1935-1939	27	26	12	4	1
1940-1944	31	31	16	6	2
1945-1949	39	37	17	7	2
1950-1954	42	33	13	5	2
	<u>第2子数</u>				
1920-1924	14	24	15	6	2
1925-1929	13	21	14	6	2
1930-1934	11	19	12	5	2
1935-1939	10	18	13	6	2
1940-1944	12	23	17	8	2
1945-1949	15	29	22	11	3
1950-1954	21	36	23	10	3

		第 3 子 数			
1920-1924	—	15	13	7	0
1925-1929	—	13	12	7	0
1930-1934	—	11	10	6	0
1935-1939	—	10	9	5	0
1940-1944	—	11	10	6	0
1945-1949	—	13	13	9	0
1950-1954	—	19	18	10	0

		第 4 子 数			
1920-1924	—	8	11	7	3
1925-1929	—	7	9	6	3
1930-1934	—	6	8	5	2
1935-1939	—	5	6	4	2
1940-1944	—	5	6	4	2
1945-1949	—	5	7	5	2
1950-1954	—	8	10	7	3

		第 5 子 数			
1920-1924	—	4	8	7	3
1925-1929	—	3	7	6	3
1930-1934	—	3	5	4	2
1935-1939	—	2	4	4	2
1940-1944	—	2	4	3	2
1945-1949	—	2	4	3	2
1950-1954	—	3	5	4	2

## K 若干の問題点

出生力研究に注目すべき貢献を果たした本書は、出生力の人口学的分析として資料上の困難を克服するだけでなく、出生力分析のあるゆるテクニックを活用して総合的な解析を行つたものとして、その努力はまことに敬服に値するものであると共にこの分野の研究における新資料を追加したものといえよう。

終りに、本書の分析方法やその目的に関連して若干の問題点を指摘しておこう。

(1) 本書の本来の研究目的は、今次戦後における1部工業化諸国の高水準に出生率が、19世紀末あるいは20世紀初頭からの出生力9長期的掘低下傾向を基本的に逆転せしめるようなものであるか、いしは一時的掘乱的な現象にすぎないかどうかといった出生粗率に表現された出生力の実体を究明することにあつた。

(2) ところが、本書では過去の再生産の研究に大半がささげられている。いわば、reproductive performanceの人口学的研究が行われたわけである。もちろん、現段階の実体を把握するために、過去の歴史的系列の変動を分析しなければならないことはいうまでもない。

(3) しかし、本来の目的を多少とも徹底して達成するためには、本書で開かれている、incomplete fertilityの分析だけでは十分とはいいがたいこともいうまでもないであろう。しかも、incomplete fertilityのコーホートの済局における家族の大きさの予測にあつては、過去のもつともnormalと推定される時期のコーホートの再生産分期間内における期間別再生産実行分布をもつて基準として採用していることは、技術的には止むをえない方法であるとしても、納得しがたいものがある。というのは、再生産に対する人口の変動に影響を及ぼした諸要因が、そのまま再び繰返されるとは考えられがたいし、またたとえ同様な要因が発生するとしてもこれに反応する人口の再生産態度が過去と同様な方向へ同様な振幅をもつて変動するという保証は全く存在しないからである。そこに、「歴史生力測定の正しい方法を求めようとすることは、無意味である」(J Hajnal)といった見解

さえでてくるのも当然であろう。

(4) しかし、出生力の予測に当つて必要なことは、再生産の performance と将来の attitude あるいは behavior とを区別しておくことである。actual performance 自体から attitude の変動を予測することは困難であるのみならず、合理的とはいいがたい。もともと本書は出生力変動の人口学的要因の研究を行うことを目的としており、社会経済的要因の研究によつて完成されるべきものとことわつている以上、本書の研究方法を一方的に批判することは酷であるといわねばならない。

(5) 出生力の研究に対するわれわれの期待は特に出生力の将来変動に対する予測は、再生産に対する人口の attitude についての個々の family の総合的研究である。それは、Reproductive behavior の micro-demographic 研究ともいえるであろう。

さらに、この研究のためには Family limitation の実行やその諸方法の効果についての正確な測定や sterile ないし infertile の十分な調査研究がともなわれなければならないであろう。

(6) 本書の分析対象となつた諸国は、もつとも工業化した先進国であつて、そこではしばしば論及された出生の postponement, その making up あるいは将来からの advancement の現象は、family limitation のきわめて一般的な普及が前提されていることを意味する。しかし、地域的に社会階層別に family limitation の普及になお著しい差がみられる社会では、この普及の実態ならびにその動向についての正確な把握なしに、fertility の予測は恣意的とならざるをえない。

(7) このような社会での incomplete fertility のコーホートの経局における family size の予測は、このコーホート自体の reproductive attitude を family limitation の実行、不実行やその可能性の範疇別分数の下に、総合的な角度から調査分析することによつて行われねばならないであろう。

(8) 出生力の将来予測は、不可避的に、incomplete fertility の予測

を必要とするところに困難な点があり、かつそれぞれの社員によつて family limitation の実行状況が異なっているということが考慮を要する基本問題点であるといえよう。

- (9) 日本の出生力の動向も重大な転換点にきているようである。昭和33年上半期の出生率を年率と換算すると前年よりも高くなりそうな動向を示している。(昭和33年上半期人口動態の概況、厚生省大臣官統計調査部、昭33.10.10参照)。もしこの率が実現すると、昭和25年以来急激な低下を続けてきた粗出生率の動向に終止符が打たれることになるという可能性が大きい。このような日本の出生力の転換期性格の実体把握は、緊急を要する研究課題となつてきた。本書の研究が日本とは異なつた先進工業諸国を対象としたものであるとはいえ、その分析手法は日本の研究に対しても示唆するところ決して少なくないであらう。

THE UNIVERSITY OF CHICAGO  
DEPARTMENT OF CHEMISTRY  
5800 S. UNIVERSITY AVENUE  
CHICAGO, ILLINOIS 60637  
TEL: 773-936-3700  
FAX: 773-936-3701  
WWW: WWW.CHEM.UCHICAGO.EDU

附表1 1909/1910年及び1920・1954年間の結婚コホートの結婚持続期間別生産数(妻100人に付き)

結 婚 年 次

結婚後 年数	1909	1910	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953	1954
	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	1910	1920	1921	1922	1923	1924	1925	1926	1927	1928	1929	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939	1940	1941	1942	1943	1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951	1952	1953	1954	
	オーストラリア																																				
1	500	468	467	448	436	426	422	416	416	430	421	443	433	406	401	369	354	345	339	325	312	280	274	250	257	247	278	297	352	331	324	322	315	332	334	339	
1年	232	271	242	238	289	270	261	241	252	275	278	272	256	251	257	262	268	268	269	268	269	276	257	277	240	254	284	316	304	311	320	318	318	305	305		
2	289	258	242	268	254	251	243	242	258	253	238	234	234	235	237	236	234	231	235	233	235	224	222	217	225	255	255	255	265	284	288	293	289	287			
3	318	282	245	244	241	237	228	219	220	200	195	198	197	200	205	203	203	201	204	208	199	210	198	208	229	223	224	236	257	261	271	271	267				
4	280	237	217	212	214	205	194	187	178	170	174	173	174	181	185	180	175	182	186	180	181	189	188	213	203	195	203	227	230	243	238	240					
5	252	213	184	184	183	172	167	150	147	151	146	149	153	157	155	156	153	158	154	161	170	173	186	185	173	168	187	198	202	206	208						
6	218	182	162	162	151	146	135	126	131	128	126	133	131	132	134	130	134	131	139	149	151	169	159	154	151	150	156	172	172	176							
7	197	163	140	132	132	116	110	111	108	111	110	115	111	111	112	110	112	120	135	135	140	139	128	131	129	129	137	150	146								
8	177	143	116	114	106	98	96	95	91	94	94	98	97	98	97	93	105	115	117	124	114	113	110	115	111	111	118	124									
9	152	114	105	92	86	89	82	83	86	83	80	84	81	86	89	89	101	102	105	100	93	95	95	96	96	95	97										
10	140	98	85	78	78	72	71	75	74	70	71	74	71	73	80	87	89	90	87	81	80	85	79	87	83	79											
11	125	77	69	68	63	62	61	60	60	59	60	61	63	69	77	77	78	74	69	67	67	70	68	72	67												
12	108	65	60	59	56	54	54	54	48	51	52	54	61	68	69	69	63	60	57	58	56	59	56	60													
13	95	53	51	50	46	47	45	46	44	45	47	51	58	58	61	54	50	48	50	47	49	49	51	48													
14	77	45	42	44	42	38	38	37	37	40	42	49	48	50	47	42	41	42	39	39	39	41															
15-19	247	136	124	122	116	114	119	119	128	134	137	140	140	137	128	121	115																				
20-24	64	34	35	37	38	37	37	34	34	34	32	36																									
	ベルギー																																				
1年未満																																					
1年																						322	322	277	289	356	376	303	342	349	355	344	333	328	334	337	343
2																					215	200	241	258	269	262	265	275	265	264	256	255	266	261	270		
3																					180	174	215	211	226	235	202	216	206	213	205	209	216	220			
4																					161	156	181	177	215	186	167	175	171	173	176	181	186				
5																					148	141	159	167	166	156	140	150	147	154	154	158					
6																					137	127	147	131	141	133	122	125	127	134	134						
7																					125	135	118	112	121	117	103	112	120	119							
8																					132	100	103	97	106	99	94	99	102								
9																					100	84	87	86	89	91	82	87									
10																					81	72	73	71	83	79	72										
11																					70	71	61	59	68	77											
12																					52	57	69	61	60												
13																					49	53	48	40													
																					38	44	50														









2.5															280	288	290	274	315	305	288	375	336	298	294	292	291	293																															
3.5															253	248	260	277	292	251	357	305	287	261	258	261	261																																
4.5															266	225	243	263	243	332	274	261	256	235	234	236																																	
5.5															197	217	250	221	305	251	229	225	223	206	208																																		
6.5															194	210	191	282	234	212	196	192	190	182																																			
7.5															188	178	257	210	189	172	168	165	169																																				
8.5															156	229	194	168	160	144	145	145																																					
9.5															207	177	153	141	138	123	125																																						
10.5															163	141	126	120	118	111																																							
11.5															125	113	106	103	103																																								
12.5															99	93	88	87																																									
13.5															82	79	75																																										
14.5															68	68																																											
15.5~19.5															56																																												
																				ノルルウェー																																							
0.5															266	253	260	242	243	234	241	233	241	223	214	205	194	196	192	187	184	188	199	217	230	225	206	202	204	205	200	203	212	207	216														
1.5															401	401	383	397	374	364	360	357	334	336	326	332	321	326	328	322	310	384	380	442	398	424	393	380	367	382	383	388	391	386															
2.5															265	254	259	254	251	236	220	225	215	212	215	224	219	219	204	260	292	279	222	262	261	238	232	230	233	247	243	247																	
3.5															227	222	209	222	209	204	192	185	180	184	181	188	182	177	159	195	224	256	206	220	209	215	194	194	191	197	214	208																	
4.5															199	198	186	185	180	168	169	159	162	173	165	165	159	137	160	181	232	176	217	195	194	197	178	172	179	179	195																		
5.5															172	164	165	166	144	150	142	149	144	147	142	120	143	155	202	167	192	177	161	171	175	149	157	162	160																				
6.5															147	147	142	133	125	126	135	128	130	126	127	106	128	137	168	151	191	157	154	140	146	142	137	136	136																				
7.5															128	120	109	112	112	111	116	115	112	105	88	93	117	144	135	162	144	131	124	115	120	124	116	117																					
8.5															109	104	98	99	102	98	98	96	98	80	80	90	127	117	147	123	119	108	108	95	102	105	94																						
9.5															87	86	82	85	86	84	82	81	73	64	73	95	104	130	115	104	97	92	82	84	87	90																							
10.5															78	75	76	77	77	74	72	65	56	62	82	98	119	103	91	81	81	73	78	75	75																								
11.5															68	66	66	63	68	65	59	51	54	67	84	98	86	79	74	69	66	66	67	60																									
12.5															59	52	56	59	54	48	43	44	54	69	82	75	70	61	60	53	59	56	57																										
13.5															48	47	50	49	44	39	42	50	63	72	68	59	54	48	44	48	49	46																											
14.5															42	44	43	37	31	35	42	52	65	54	52	49	46	40	39	38	40																												
15.5~19.5															115	106	107	112	127	148	166	159	151	135	127	119																																	
20.5~24.5															37	40	41	40	37	32	34																																						

附表 2

附表2 1920-1951結婚コホートの各結婚

結婚後 年次	結婚							
	1920/1921- 1924/1925	1925/1926- 1929/1930	1930/1931- 1934/1935	1935/1936- 1939/1940	1940/1941	1941/1942	婚	
							オースト	
3	119	114	109	103	95	95	95	95
5	158	147	142	137	133	135	133	133
7	185	171	167	166	161	164	161	161
10	213	196	193	196	190	193	190	190
15	237	219	221	218	211	215	211	211
20	247	228	225	222	215	218	215	215
							ベル	
3	...	...	...	87a	91	94	107	107
5	...	...	...	114a	122	123	137	137
7	...	...	...	139a	144	144	160	160
10	...	...	...	163a	166	166	184	184
13	...	...	...	177a	183	176	-	-
							イギ	
3	...	...	...	77b	71	73	76	76
5	...	...	...	105b	99	108	108	108
7	...	...	...	130b	124	130	128	128
10	...	...	...	153b	143	150	147	147
14	...	...	...	169b				
							フィンラ	
3	...	...	...	106a	96	98	108	108
5	...	...	...	140a	136	136	144	144
7	...	...	...	171a	164	164	170	170
10	...	...	...	202a	192	191	196	196
14	...	...	...	225a				
							ニユージー	
3	121	113	107	108	98	101	102	102
5	158	147	141	145	141	144	145	145
7	184	171	167	175	176	175	175	175
10	210	195	196	209	208	206	204	204
15	231	218	225	230	229	227	224	224

持続期間における生産数（夫婦100につき）

年		次						
	1943/1944	1944/1945	1945/1946	1946/1947	1947/1948	1948/1949	1949/1950	1950/1951
ラリア								
98	104	110	118	119	120	120	119	
134	143	153	161	164	165			
162	172	185	193					
191								
212								
216								
ギ								
106	94	91	99	107	98	98	100	
135	120	118	125	129	127			
156	140	139	149					
181								
リス								
84	84	91	93	92	86	86	84	
111	110	119	121	119	114			
129	128	138	141					
147								
ンド								
122	109	134	126	123	122	123	124	
159	141	168	159	155	154			
185	163	193	183					
213								
ランド								
111	121	128	127	125	125	127	128	
152	162	173	171	170	170			
181	192	205	203					
209								
239								

20	240	230	234	239	238	235	233
						スエー	
3	107c	97	88	86	90	95	98
5	133c	121	112	114	119	123	126
7	152c	138	130	137	139	143	145
10	171c	158	152	160	156	161	162
15	190c	177	174	178	173	179	180
20	198c	186	181	185	180	186	187
						スイ	
3	...	...	103a	104	112	117	121
5	...	...	133a	140	150	154	157
7	...	...	156a	168	175	178	180
10	...	...	183a	195	197	199	202
14	...	...	204a	211			
	1924/1925	1926/1930	1931/1935	1936/1940	1941	1942	1943
						フ	ラ
3.5	100e	...	...	87f	...	...	114
5.5	127e	...	...	112f	...	...	147
7.5	148e	...	...	136f	...	...	173
10.5	168e	...	...	167f	...	...	199
14.5	181e	...	...				
3.5	...	...	...	108g	117	105	120
5.5	...	...	...	153g	171	163	170
7.5	...	...	...	196g	214	200	206
10.5	...	...	...	245g	255	238	
14.5	...	...	...	282g			
						ノール	
3.5	115	107	96	92	109	106	110
5.5	151	141	127	126	146	146	146
7.5	178	165	150	155	175	174	171
10.5	206	191	174	188	202	200	197
15.5	230	214	203	210	225	223	220
20.5	239	225	211	218	234	232	229

備考

a 1938/1939-1939/1940

c 1923/1924-1924/1925

b 1937/1938-1939/1940

d 1931/1932-1934/1935

239							
デ 98 125 143 160	ソ 97 122 141	97 122 140	96 121 139	96 122	94 120	94	94
ス 121 157 180 201	121 155 177	119 153 176	122 155 178	119 153	116 150	115	116
1944	1945	1946	1947	1948	1949	1950	1951
ソ 121 156 181	ス 113 145 169	115 148 171	114 146	114 147	115 133	116	
131 179 215	123 171 207	114 159	111 155	108	107		
ウ 110 146 173 199 222 231	エ 113 150 176	ー 103 136 161	102 135 160	99 133	101 135	104	104

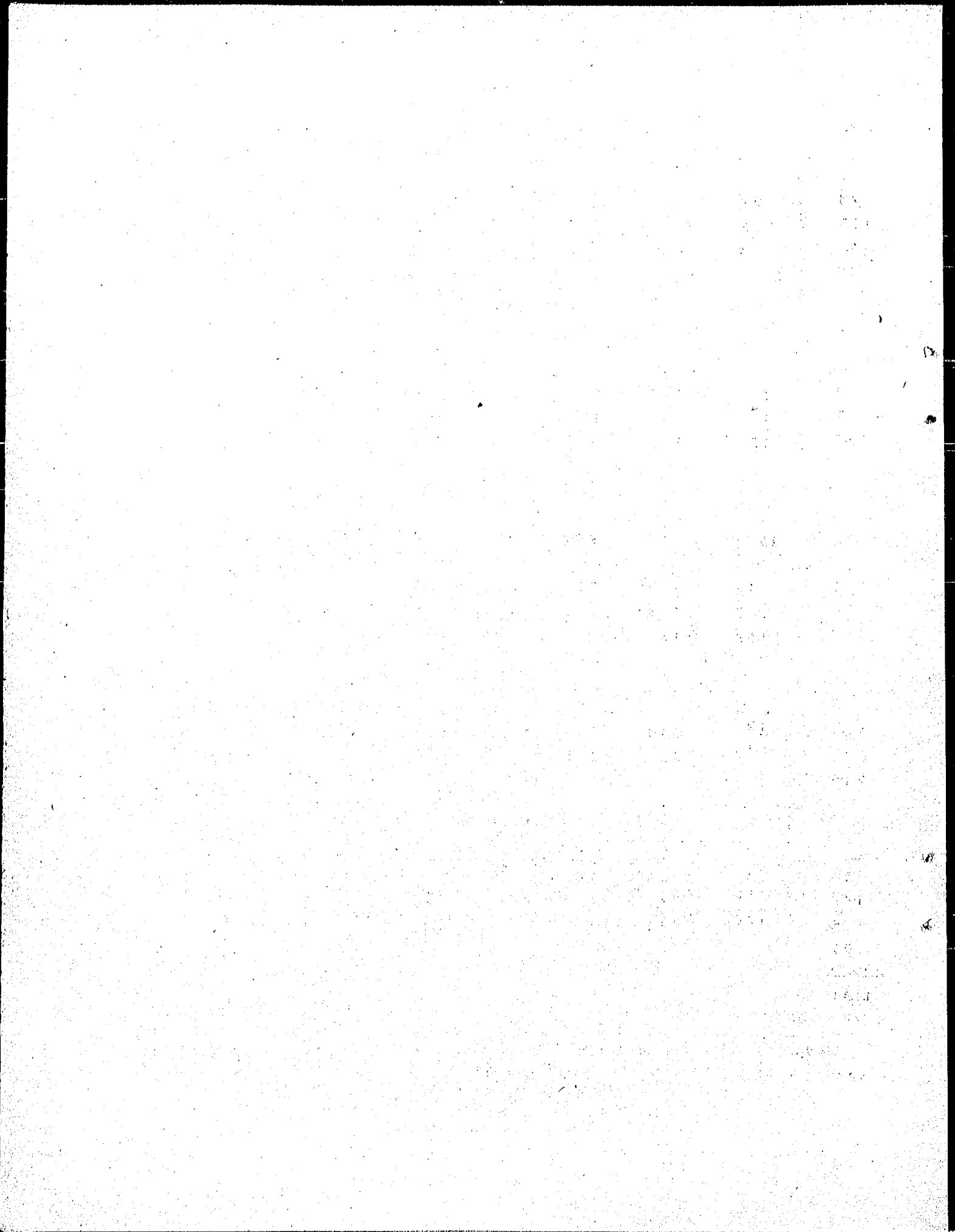
e 1925

f 1938

g 1937-1940

ゴチック数字は推計による。





附表 3

1909/1910 及び 1918/1919-1953/1954 の結婚コホートにおける各結婚継続期間に  
おいて少くとも1子をもつた女子の百分比

結婚後 年数	結 婚 年 次																																					
	1909/1910	1910/1911	1918/1919	1919/1920	1920/1921	1921/1922	1922/1923	1923/1924	1924/1925	1925/1926	1926/1927	1927/1928	1928/1929	1929/1930	1930/1931	1931/1932	1932/1933	1933/1934	1934/1935	1935/1936	1936/1937	1937/1938	1938/1939	1939/1940	1940/1941	1941/1942	1942/1943	1943/1944	1944/1945	1945/1946	1946/1947	1947/1948	1948/1949	1949/1950	1950/1951	1951/1952	1952/1953	1953/1954
	オーストラリア a																																					
0	479	...	...	467	466	447	432	424	421	416	416	427	416	437	429	403	399	368	351	343	336	323	310	278	270	247	256	246	276	295	350	329	321	320	313	330	332	337
1	681			709	685	656	661	646	633	626	624	630	620	633	609	590	593	569	562	554	550	540	528	508	488	492	467	468	524	546	597	586	582	579	573	580	577	
2	750			781	762	725	729	710	709	704	700	705	691	706	680	668	677	660	653	647	646	640	629	611	597	605	586	604	644	662	696	695	693	692	682	686		
3	778			822	798	764	769	750	749	742	739	742	729	744	719	710	724	708	703	699	700	697	683	674	657	676	667	675	695	710	750	751	754	755	740			
4	794			843	819	785	781	773	770	763	759	763	750	768	742	734	751	736	733	731	734	730	715	710	687	729	713	708	724	740	780	787	781	781				
5	805			856	831	799	806	786	783	774	772	777	765	783	757	751	768	754	752	751	753	751	736	735	728	760	735	727	743	759	800	809	814					
6	811			866	839	807	813	795	790	782	780	787	774	795	767	761	779	765	764	764	766	765	752	756	747	777	749	739	755	773	814	824						
7	815			872	845	812	819	800	796	787	785	793	781	804	773	766	786	773	773	774	776	775	763	769	757	787	758	747	764	783	823							
8	818			876	849	816	823	804	799	791	789	797	786	806	778	771	792	778	779	790	783	783	770	776	764	794	764	752	771	789								
9	820			879	851	818	825	806	802	794	792	800	790	810	781	775	795	780	783	786	789	789	775	780	768	798	769	756	775									
10	822			861	853	821	827	808	803	796	795	802	792	813	784	777	798	785	787	790	793	793	778	764	771	802	772	759										
11	823			883	855	821	829	809	805	798	797	804	794	815	786	780	801	788	790	792	795	795	781	786	773	804	775											
12	824			883	856	822	830	810	806	799	798	805	796	816	787	781	803	790	792	794	797	797	782	787	775	806												
13	825			884	857	823	830	811	807	800	799	806	797	818	788	783	804	791	793	795	798	798	784	789	776													
14	825			884	857	824	831	812	808	801	799	807	798	818	789	784	805	792	794	796	799	799	784	790														
15	826			885	858	824	831	812	808	801	800	807	798	819	790	784	805	793	795	797	799	799	785															
16	826			885	858	824	832	813	808	802	800	808	799	820	790	785	806	793	796	797	800	800																
17	826			886	858	824	832	813	809	802	800	808	799	820	791	785	806	794	796	798	800																	
18	827			886	858	825	832	813	809	802	801	809	800	820	791	785	807	794	796	798																		
19	827			886	858	825	832	813	809	802	801	809	800	820	791	786	807	794	796																			
20	827			887	858	825	832	813	809	802	801	809	800	821	791	786	807	794																				
21	827			886	859	825	832	813	809	802	801	809	800	821	791	786	807																					
22	827			886	859	825	832	814	809	802	801	809	800	821	791	786																						
23	827			886	859	825	832	814	809	802	801	809	800	821	791																							
24	827			886	859	825	832	814	809	802	801	809	800	821																								
25	827			886	859	825	832	814	809	802	801	809	800																									





15										519	515	475	517	533	471	529	596	576	557	525	502	492	494	493
25										660	656	633	657	685	640	665	750	727	686	664	649	640	647	
35										724	718	702	729	752	707	758	803	778	757	722	713	705		
45										757	752	746	773	783	773	793	825	804	764	753	746			
55										779	776	776	798	814	801	810	837	819	782	772				
65										795	795	793	825	829	813	820	844	828	792					
75										808	804	813	837	837	820	826	849	834						
85										816	818	824	843	841	824	829	853							
95										826	826	829	847	843	827	832								
105										832	830	832	849	845	829									
115										835	832	834	850	846										
125										837	833	835	851											
135										838	834	836												
145										839	834													
155										839														

ノ ル ウ エ

05	...	...	...	242	216	213	204	194	196	192	187	183	187	198	216	228	223	202	207	201	200	199	203	210	207	216
15	553	562	553	547	529	512	510	493	498	495	488	473	513	554	592	596	613	565	556	542	557	557	568	579	569	
25	652	667	651	653	635	622	624	617	621	616	601	603	655	704	717	730	749	694	678	671	683	693	697	702		
35	699	713	699	702	691	678	686	681	684	666	665	670	724	769	776	781	803	748	731	727	742	757	754			
45	725	742	724	732	724	714	722	715	712	701	702	708	761	806	805	808	831	775	760	756	772	789				
55	742	761	743	753	743	735	742	731	734	726	728	735	785	823	819	822	846	789	777	773	789					
65	752	775	755	765	755	747	752	747	751	745	747	756	799	834	827	831	855	799	787	784						
75	759	783	764	774	765	754	762	760	764	758	764	767	805	840	832	835	862	804	793							
85	764	789	770	780	769	761	770	770	774	769	772	772	809	844	834	839	866	808								
95	770	794	775	784	774	767	777	777	781	776	777	776	812	847	837	842	868									
105	771	797	778	787	778	772	782	783	786	779	780	778	813	849	839	844										
115	773	800	781	790	782	776	786	787	788	781	781	779	814	850	840											
125	775	801	783	793	784	778	788	789	790	782	782	780	815	851												
135	777	803	785	795	786	780	789	790	791	783	783	781	816													
145	778	804	786	796	789	781	790	790	791	783	783	781														
155	779	805	787	797	788	781	790	791	792	784	784															
165	779	806	787	797	789	781	790	791	792	784																
175	780	807	788	798	789	782	791	791	792																	
185	780	807	788	798	789	782	791	791																		
195	780	807	788	798	789	782	791																			
205	780	807	788	798	789	782																				
215	780	807	788	798	789																					



附表 4 1890-1935年出生女子コーホートの年齢別特殊出生率(女子100人につき)

コーホート 年次	15才 の時の 年次	出生時の年齢							全年齢
		15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	
1. オーストラリア									
1892/1893	1908	135	688	807	649	369	114	10	277.2
1893/1894	1909	145	661	832	635	344	107	09	273.3
1894/1895	1910	150	622	840	613	323	103	08	265.9
1895/1896	1911	147	598	824	588	306	99	09	257.1
1896/1897	1912	137	603	797	558	287	94	08	248.4
1897/1898	1913	124	625	790	532	282	92	08	245.3
1898/1899	1914	118	623	753	498	267	91	08	235.8
1899/1900	1915	122	690	821	546	315	98	09	260.1
1900/1901	1916	129	674	790	513	303	102	10	252.1
1901/1902	1917	133	644	716	451	268	106	09	232.7
1902/1903	1918	130	602	679	452	272	107	08	225.0
1903/1904	1919	131	626	653	458	284	113	07	227.2
1904/1905	1920	136	629	647	475	293	109		
1905/1906	1921	137	612	612	473	318	121		
1906/1907	1922	141	595	606	480	329	104		
1907/1908	1923	145	568	612	497	352	103		
1908/1909	1924	146	529	610	500	354	98		
1909/1910	1925	151	517	637	537	362			
1910/1911	1926	148	505	651	565	352			
1911/1912	1927	146	510	672	593	337			
1912/1913	1928	134	511	671	608	336			
1913/1914	1929	132	524	707	622	327			
1914/1915	1930	126	540	736	619				
1915/1916	1931	121	535	777	653				
1916/1917	1932	122	561	797	588				
1917/1918	1933	127	576	823	611				
1918/1919	1934	122	609	853	593				
1919/1920	1935	124	635	885					
1920/1921	1936	122	643	893					

1921-1922	1937	12.1	68.1	89.2				
1922/1923	1938	11.9	71.1	90.2				
1923/1924	1939	12.3	73.7	91.8				
1924/1925	1940	11.2	77.9					
1925/1926	1941	11.7	80.0					
1926/1927	1942	12.4	83.4					
1927/1928	1943	13.8	85.4					
1928/1929	1944	15.1	88.3					
1929/1930	1945	16.2						
1930/1931	1946	16.8						
1931/1932	1947	18.0						
1932/1933	1948	18.9						
1933/1934	1949	19.7						
2. カ ナ ダ								
1905/1906	1921	17.0	70.2	80.2	61.0	42.1	15.9	
1906/1907	1922	15.6	70.2	76.8	60.0	43.1	15.6	
1907/1908	1923	15.3	69.9	74.7	60.5	44.6	15.7	
1908/1909	1924	15.2	65.8	71.1	60.3	43.4	14.9	
1909/1910	1925	15.2	63.0	71.6	63.5	45.3	15.7	
1910/1911	1926	15.5	59.5	70.5	64.1	44.5		
1911/1912	1927	15.2	57.9	72.5	66.2	43.6		
1912/1913	1928	14.8	56.9	75.9	68.8	43.5		
1913/1914	1929	14.3	58.4	80.9	71.7	45.2		
1914/1915	1930	13.9	59.2	85.0	71.8	43.9		
1915/1916	1931	13.3	60.0	84.0	71.1			
1916/1917	1932	13.0	61.6	84.7	69.4			
1917/1918	1933	12.7	64.4	86.8	69.4			
1918/1919	1934	12.7	65.3	86.3	68.3			
1919/1920	1935	14.0	73.3	97.9	76.7			
1920/1921	1936	14.1	73.8	101.6				
1921/1922	1937	15.3	77.0	102.1				



1922/1923	1938	15.3	790	991					
1923/1924	1939	15.7	832	1012					
1924/1925	1940	15.6	870	1033					
1925/1926	1941	15.4	894						
1926/1927	1942	16.7	900						
1927/1928	1943	19.0	926						
1928/1929	1944	19.8	943						
1929/1930	1945	21.3	100.3						
1931/1931	1946	22.0							
1931/1932	1947	22.8							
1932/1933	1948	24.3							
1933/1934	1949	24.9							
1934/1935	1950	25.3							

3. フ ィ ン ラ ン ド

1889/1890	1905	11.3	67.1	83.6	80.7	550	24.4	3.3	325.4
1890/1891	1906	11.1	65.1	83.9	77.3	530	23.0	3.2	316.6
1891/1892	1907	10.9	66.28	83.6	74.8	50.9	22.0	3.2	308.2
1892/1893	1908	10.8	61.1	82.6	72.4	48.8	21.2	3.0	299.9
1893/1894	1909	10.5	59.7	82.0	70.1	46.2	21.0	3.0	292.5
1894/1895	1910	10.3	55.3	83.7	68.5	44.2	20.7	2.8	285.5
1895/1896	1911	10.2	55.2	81.9	66.5	42.7	20.2	2.6	279.3
1896/1897	1912	9.8	55.5	80.0	64.5	41.5	19.8	2.4	273.5
1897/1898	1913	9.6	55.5	78.1	62.6	40.6	19.3	2.4	268.1
1898/1899	1914	9.5	56.1	76.2	59.7	40.4	19.0	2.5	263.2
1899/1900	1915	7.8	57.4	74.6	57.5	40.1	19.0	2.5	258.9
1900/1901	1916	8.2	56.6	72.8	55.4	39.8	20.9	2.7	255.4
1901/1902	1917	8.7	55.1	70.8	53.6	39.8	19.9	2.2	250.1
1902/1903	1918	8.9	53.5	68.7	52.5	39.1	20.2	2.2	245.1
1903/1904	1919	9.2	52.2	65.3	53.0	39.8	21.0	2.3	242.3
1904/1905	1920	9.0	51.3	62.8	53.6	40.8	21.8		
1905/1906	1921	8.9	50.7	60.7	52.9	43.0	20.8		
1906/1907	1922	8.5	49.8	59.5	55.6	43.7	20.7		

1907/1908	1923	83	484	600	543	407	200		
1908/1908	1924	85	463	622	560				
1909/1910	1925	85	451	643	573	507			
1910/1911	1926	85	446	640	628	513			
1911/1912	1927	84	447	687	629	480			
1912/1913	1928	82	460	664	678	459			
1913/1914	1929	76	485	666	710	435			
1914/1915	1930	75	511	671	750				
1915/1916	1931	78	506	709	716				
1916/1917	1932	80	547	723	705				
1917/1918	1933	83	543	845	688				
1918/1919	1934	88	477	805	639				
1919/1920	1935	94	481	935					
1920/1921	1936	88	555	955					
1921/1922	1937	82	588	922					
1922/1923	1938	62	645	872					
1923/1924	1939	52	731	875					
1924/1925	1940	51	767						
1925/1926	1941	65	800						
1927/1927	1942	89	778						
1927/1928	1943	111	791						
1928/1929	1944	127							
1929/1930	1945	128							
1930/1931	1946	132							
1931/1932	1947	127							
1932/1933	1948	131							
1933/1934	1949	131							
4. ニ ュ ー ジ ラ ン ド									
1903/1904	1919	84	558	692	497	318	130	08	2287
1904/1905	1920	92	559	694	529	345	135	10	2364
1905/1906	1921	87	550	683	537	377	135		
1906/1907	1922	99	537	666	554	375	127		

1907/1908	1923	96	51.1	645	58.6	398	124		
1908/1909	1924	99	51.7	678	61.5	429	11.6		
1909/1910	1925	93	49.2	686	64.1	434			
1910/1911	1926	95	45.7	704	64.3	42.0			
1911/1912	1927	95	47.0	75.7	67.4	41.7			
1912/1913	1928	91	48.2	81.1	68.2	39.6			
1913/1914	1929	89	50.1	84.2	71.1	38.6			
1914/1915	1930	94	51.5	86.3	75.4				
1915/1916	1931	85	55.3	86.0	74.2				
1916/1917	1932	83	62.9	88.8	74.0				
1917/1918	1933	81	61.2	88.0	71.1				
1918/1919	1934	90	57.0	90.5	66.2				
1919/1920	1935	100	62.6	101.6					
1920/1921	1936	103	63.5	109.3					
1921/1922	1937	108	65.3	109.9					
1922/1923	1938	92	69.7	107.3					
1923/1924	1939	81	75.5	105.2					
1924/1925	1940	89	82.0						
1925/1926	1941	92	86.9						
1926/1927	1942	96	89.4						
1927/1928	1943	113	90.8						
1928/1929	1944	119	96.4						
1929/1930	1945	124							
1930/1931	1946	14.1							
1931/1932	1947	14.6							
1932/1933	1948	14.7							
1933/1934	1949	14.8							
5. スエーデン									
1889/1890	1905	99	56.9	72.2	65.5	37.6	13.9	1.2	257.2
1890/1891	1906	100	56.7	74.1	61.7	35.7	13.0	1.2	252.4
1891/1892	1907	98	55.4	75.1	58.3	33.4	12.3	1.1	245.4

1892/1893	1908	100	538	738	544	319	116	1.1	236.6
1893/1894	1909	99	523	735	524	305	116	1.0	231.2
1894/1895	1910	103	512	713	494	297	110	1.0	223.9
1895/1896	1911	99	523	668	474	276	109	1.0	215.9
1896/1897	1912	90	543	658	451	270	106	1.0	210.8
1897/1898	1913	90	551	605	446	263	103	0.9	206.7
1898/1899	1914	83	538	574	423	262	104	0.9	199.3
1899/1900	1915	78	524	546	416	264	108	0.9	194.5
1900/1901	1916	91	491	528	402	264	110	1.0	189.6
1901/1902	1917	101	465	518	399	264	118	0.9	187.4
1902/1903	1918	102	433	500	390	270	120	0.8	182.3
1903/1904	1919	95	425	491	405	291	121		
1904/1905	1920	89	416	477	407	294	121		
1905/1906	1921	86	409	467	412	328	117		
1906/1907	1922	85	407	465	416	351	108		
1907/1908	1923	87	408	468	442	353	99		
1908/1909	1924	88	382	470	457	346			
1909/1910	1925	91	389	490	429	331			
1910/1911	1926	88	373	492	525	309			
1911/1912	1927	89	379	516	567	295			
1912/1913	1928	91	383	539	571	280			
1913/1914	1929	88	397	587	561				
1914/1915	1930	89	411	632	544				
1915/1916	1931	84	417	667	515				
1916/1917	1932	89	429	695	492				
1917/1918	1933	92	460	711	468				
1918/1919	1934	95	482	705					
1919/1920	1935	107	554	740					
1920/1921	1936	102	548	689					
1921/1922	1937	105	595	680					
1922/1923	1938	102	596	639					
1923/1924	1939	111	627						

1924/1925	1940	12.2	61.7						
1925/1926	1941	14.1	62.3						
1926/1927	1942	15.5	62.9						
1927/1928	1943	16.6	61.3						
1928/1929	1944	17.3							
1929/1930	1945	17.2							
1930/1931	1946	18.4							
1931/1932	1947	18.7							
1932/1933	1948	18.1							

6. アメリカ (アメリカ生れの白人女子)

1899/1900	1915	18.3	78.4	75.8	49.2	28.9	8.9	0.7	260.2
1900/1901	1916	19.2	78.4	69.9	45.5	26.3	9.2	0.9	249.4
1901/1902	1917	21.2	77.4	67.4	42.3	26.1	9.2	0.8	244.4
1902/1903	1918	22.0	76.7	66.1	43.3	25.7	9.6	0.8	244.2
1903/1904	1919	22.0	75.1	65.0	42.2	25.5	9.9	0.6	240.3
1904/1905	1920	21.8	72.3	62.6	42.2	26.3	9.5	0.7	235.4
1905/1906	1921	22.0	70.2	61.7	42.1	27.3	9.7	0.7	233.7
1906/1907	1922	21.8	68.6	59.8	42.0	28.4	9.9		
1907/1908	1923	21.6	67.7	59.2	43.6	29.4	9.5		
1909/1909	1924	21.1	63.6	57.8	45.1	29.7	9.0		
1909/1910	1925	20.5	63.0	59.3	46.6	31.7	9.3		
1910/1911	1926	19.8	60.2	59.7	48.6	30.6			
1911/1912	1927	19.3	59.3	61.1	51.0	30.6			
1912/1913	1928	18.4	59.3	62.9	53.2	30.5			
1913/1914	1929	17.6	59.4	64.9	54.7	29.9			
1914/1915	1930	16.7	59.5	67.6	53.7	29.2			
1915/1916	1931	16.7	60.5	70.5	53.1				
1917/1917	1932	16.7	62.4	73.6	55.4				
1917/1918	1933	16.8	64.5	74.9	56.0				
1918/1919	1934	18.4	72.6	80.2	58.3				
1919/1920	1935	18.6	72.1	83.3	59.0				
1920/1921	1936	18.0	71.1	84.4					

1921/1922	1937	182	741	878					
1922/1923	1938	191	786	886					
1923/1924	1939	193	823	894					
1924/1925	1940	190	852	908					
1925/1926	1941	183	897						
1926/1927	1942	187	942						
1927/1928	1943	214	974						
1929/1929	1944	242	1008						
1929/1930	1945	261	1035						
1930/1931	1946	267							
1931/1932	1947	281							
1930/1933	1948	292							
1933/1934	1949	301							
1934/1935	1950	302							